

文部科学省委託

---

---

令和3年度 免許更新制高度化のための調査研究事業  
事業報告書

---

---

2021年6月30日

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

## 目次

1. 本事業の背景・目的 .....	1
2. 更新講習及び現職研修に対する教員の意識把握 .....	2
(1) 調査概要 .....	2
(2) 回答者属性 .....	6
① 性別 .....	6
② 年齢 .....	8
③ 勤務先の校種 .....	10
④ 勤務先の所在地(都道府県別) .....	12
⑤ 勤務する学校の設置区分 .....	13
⑥ 更新講習の受講年度 .....	15
(3) 更新講習について .....	17
① 受講する講習を選ぶにあたって重視する点 .....	17
② 希望する講習の受講状況 .....	21
③ 希望どおり受講できなかった内容と、その理由 .....	26
④ 今後受講してみたい講習テーマ .....	27
⑤ 希望する受講方法 .....	29
⑥ 受講した講習内容の満足度(受講直後の感想) .....	31
⑦ 受講した講習は、最新の知識・技能を修得できる内容であったか .....	33
⑧ 受講した講習の受講方法 .....	35
⑨ 受講した講習が現在の教育現場で役に立っているか .....	37
⑩ 教育現場で役立っている内容 .....	39
⑪ 教育現場で役立っていないと感じる理由 .....	41
⑫ 受講にあたっての観点別の負担感 .....	42
⑬ 55歳時における免許状更新講習の受講負担 .....	50
⑭ 免許状更新講習の総合的な満足度 .....	52
⑮ 教員免許更新制全般に対する自由意見 .....	56
(4) 現職研修について .....	57
① 現職研修の受講経験有無 .....	57
② 講習と研修の内容重複の有無 .....	57
③ 講習と研修の内容重複による負担感 .....	59
④ 現職研修の内容について .....	61
⑤ 研修が体系的、計画的に受講出来る仕組みとなっているか .....	64
⑥ 研修の改善状況について .....	66
⑦ 自己研鑽のために受講した研修について(過去5年以内) .....	68
⑧ 自己研鑽のために受講した研修の主催者 .....	70
⑨ 自己研鑽のために受講した研修の内容等 .....	72
⑩ 現職研修に対する自由意見 .....	73
3. 本調査研究のまとめ .....	74
(1) 更新講習の内容の満足度に比して、費用負担等を含めた総合満足度は総じて低い .....	74
(2) 多忙な教員にとっては、自身の教育現場で役立つ講習内容であることが重要 .....	74
(3) 更新制度そのものの廃止、もしくは対象者を限定するなどの措置を望む声が多数 .....	74
(4) 現職研修についても、内容あるいは制度そのものの見直しが望まれる .....	75

## 1. 本事業の背景・目的

---

新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域において活動の基盤となる Society5.0 時代が到来すると予想される中、「学びの場」である学校においては、子供たちが豊かな創造性を育み、持続可能な社会の創り手として自立的に生きていけるよう、教育内容を発展させていく必要性が高まっている。「教育は人なり」という言葉があるように、学校教育の成否は教員の資質能力に依るところが大きい。我が国の学校教育を新たな時代に向けて発展させていくためには、教員に対しても、急速な環境変化に対応するための研鑽が求められよう。そのような中、各教員は、中堅教諭等資質向上研修等の現職研修(以下、「研修」)により、職能や職務経験に応じた資質の向上に努めるとともに、大学等の免許状更新講習開設者が開設する免許状更新講習(以下、「講習」)により、現代的な教育課題に対応するために必要な知識・技能の修得に励んでいるところである。

他方、通常の授業に加え、部活動の顧問や家庭訪問等の業務も一手に担う教員の業務負担は非常に重い。平成 28 年度の教員勤務実態調査によると、教員の時間外労働時間は、小学校で月約 59 時間、中学校で月約 81 時間と、長時間勤務の実態は深刻な状況である。「教員=きつい仕事」とのイメージのせいも、教員の採用選考試験の競争率も顕著に減少しており、平成 12 年度に 13.3 倍と過去最高を記録した公立学校の倍率は、平成 30 年の 4.9 倍まで年々低下が続いている。我が国の学校教育を充実・発展させるためには、教育現場の「働き方改革」を進め、教員の労働環境面でのネガティブイメージを払拭していく必要がある。

弊社が実施した平成 31(2019)年度教員免許更新制の高度化に関する調査研究では、教育委員会と大学へのヒアリング調査から更新講習の運用実態と受講者の負担の所在等について調査を実施し、研修と講習の内容重複が負担感を増大させるひとつの要因である可能性等について報告を行った。ただし実際のところ、重複感に対する課題認識は決して新しいものではない。文部科学省が平成 26 年 3 月に取りまとめた「教員免許更新制度の改善について」では、「研修」と「講習」には専門性の向上を図るという点において同じ機能があるとし、「研修」のうち、「最新理論・研究成果を反映した内容を学ぶことを目的とするものなどについては、免許状更新講習と似た性格を持つことから、免許状更新講習の認定を受けて実施することも考えられる」との記載がある。

また、2021 年 1 月に取りまとめられた「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(中教審第 228 号)では、免許更新制の実質化に向け、研修と講習の重複についての指摘の存在を紹介したのち、「免許更新制そのものの成果や、現在の研修の状況など」の「より包括的な検証を進めることが必要」とされている。「研修」と「講習」の重複を含む、教員免許更新制の包括的な検証が急がれる。

そこで、本調査研究では「研修」と「講習」の負担感、重複感の実態等を把握するため、現職教員に対するアンケート調査を実施し、更新講習の満足度をはじめ、講習や研修に求める事項や負担の所在等について分析を行った。本書は当該調査研究の成果として、今後の文部科学省における施策検討や議論のベースとすべく事業報告書としてとりまとめたものである。

## 2. 更新講習及び現職研修に対する教員の意識把握

### (1) 調査概要

本調査の概要は以下のとおりである。

#### 【調査概要】

項目	内容
調査方法	協力企業のモニター会員に対して回答を依頼 ※対象抽出のため事前スクリーニング調査を実施
調査対象	全国の現職教員(抽出条件は下表参照)
実施時期	2021年4月28日(水)～2021年5月11日(月)
有効回答数	2,108名
調査実施機関	みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 ※モニター調査は株式会社クロス・マーケティングが実施

調査対象者を抽出するためのスクリーニング設問および属性確認設問は以下のとおりである。

#### 【調査項目一覧(スクリーニング)】

区分	設問
スクリーニング	年齢(30歳未満または60歳以上は対象から除外)
	職業(以下のいずれかに該当する教員) <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員:幼稚園(幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園を含む)</li> <li>● 教員:小学校(義務教育学校の前期課程を含む)</li> <li>● 教員:中学校(義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程を含む)</li> <li>● 教員:高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)</li> <li>● 教員:特別支援学校</li> </ul>
	免許状更新講習の受講経験 (「経験なし」または「わからない・覚えていない」は対象から除外)

#### 【調査項目一覧(属性確認)】

区分	設問
属性確認	性別
	年齢
	居住地(都道府県)

【調査項目一覧(本調査)】

設問分類		質問文	選択肢	備考
属性情報等	SC	性別	男性, 女性	
	SC	年齢	年齢を数値回答	令和3年5月1日現在、30-59歳対象
	SC	居住地	都道府県名を選択	
	SC	教員の免許状更新講習の受講経験	はい, いいえ	以降、「受講経験あり」のみ回答
	Q1	勤務先	幼稚園(幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園を含む)、小学校(義務教育学校の前期課程を含む)、中学校(義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程を含む)、高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)、特別支援学校	
	Q2-1	勤務先所在地(都道府県)	都道府県名を選択	
	Q2-2	勤務する学校の設置区分	公立, 国立, 私立, その他	
Q3	直近に受講した更新講習の受講年度	受講年度(西暦)を選択		
更新講習	Q4_1-3	受講する講習を選ぶにあたって重視する点はなんですか	(1:講義内容, 2:受講会場, 3:受講時期、それぞれについて) とても重視する, やや重視する, あまり重視しない, まったく重視しない, わからない	
	Q5_1-3	希望通りの講習を受講できましたか	(1:講義内容, 2:受講会場, 3:受講時期) すべて希望通りだった, ほとんど希望通りだった, あまり希望通りではなかった, まったく希望通りではなかった, わからない	
	Q6	希望どおり受講できなかった内容と、その理由	自由回答	
	Q7	今後受講してみたい講習テーマはどのようなものですか	(以下31種(その他含む)より複数選択) 学校経営, 学級・学年経営, 教科指導, カリキュラムマネジメント, 教科経営, 道徳, 特別活動, 総合的な学習の時間, 外国語教育, ICTの活用, 消費者教育, 国際理解教育, 特別支援教育, 環境教育, 生徒指導, 外国人児童生徒教育, 子供の貧困, キャリア教育・進路指導, カウンセリング・教育相談, メンタルヘルス, リーダー養成, ファシリテーター養成, 組織マネジメント, 危機管理, 教育法規, 国の教育政策や世界の教育の動向, 保護者や地域社会との連携, 児童心理・発達心理, 主体的・対話的で深い学び, 教材研究の方法, その他	
	Q8	受講方法についてどのような希望をお持ちですか	すべて対面, 対面とオンライン(オンデマンドを含む)の併用(一部活用含む), すべてオンライン(オンデマンドを含む), その他	
	Q9	受講した講習の内容は全体的に満足のいく内容でしたか	満足, やや満足, どちらともいえない, やや不満, 不満	
	Q10	受講した講習は、最新の知識・技能を修得できる内容でしたか	そう思う, ややそう思う, あまりそう思わない, まったくそう思わない, わからない	
	Q11	受講した講習の受講方法はどのような形式でしたか	すべて対面, 対面とオンライン(オンデマンドを含む)の併用(一部活用含む), すべてオンライン	

設問分類		質問文	選択肢	備考
	Q12	受講した講習は、現在の教育現場で役に立っていますか	役立っている、やや役立っている、どちらともいえない、あまり役立っていない、役立っていない	
	Q13	役立っている内容はどのようなものですか	(以下31種(その他含む)から複数選択) 学校経営、学級・学年経営、教科指導、カリキュラムマネジメント、教科経営、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語教育、ICTの活用、消費者教育、国際理解教育、特別支援教育、環境教育、生徒指導、外国人児童生徒教育、子供の貧困、キャリア教育・進路指導、カウンセリング・教育相談、メンタルヘルス、リーダー養成、ファシリテーター養成、組織マネジメント、危機管理、教育法規、国の教育政策や世界の教育の動向、保護者や地域社会との連携、児童心理・発達心理、主体的・対話的で深い学び、教材研究の方法、その他	Q12で「役立っている」・「やや役立っている」と選択された方
	Q14	役立っていない理由はどのようなものですか	自由回答	Q12で「あまり役立っていない」・「役立っていない」と選択された方
	Q15_1-6	受講にあたり、各観点で負担はどの程度感じましたか	(1:講習時間、2:移動・宿泊等にかかる時間、3:受講費用、4:業務との兼ね合い、5:職場の教員への配慮、6:受講予約) かなり負担に感じた、やや負担に感じた、どちらともいえない、あまり負担には感じなかった、まったく負担には感じなかった	
	Q16	定年まで残り5年となった55歳時における免許状更新講習の受講負担は、早期退職のきっかけとなりえますか	はい(早期退職のきっかけとなると思う)、いいえ(早期退職のきっかけとは関係ない)	
	Q17	免許状更新講習の総合的な満足度について	満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満	
	Q18	教員免許更新制全般に対するご意見・ご要望	自由回答	
	現職研修	Q19	現職研修(中堅教諭等資質向上研修(以下「中堅研」という)(10年次研修)やキャリアアップ研修等)を受けたことがありますか	受けたことがある、受けたことはない
Q20		相互認定講習※を除き、免許状更新講習と現職研修(中堅研(10年次研修)やキャリアアップ研修等)の内容で重複する部分はありましたか	ほとんど重複していた、一部重複していた、あまり重複はなかった、重複はなかった、わからない	※免許状更新講習として認定を受けた現職研修の講習科目
Q21		免許状更新講習の現職研修(中堅研(10年次研修)やキャリアアップ研修等)の内容の重複が、いずれかの受講の負担感につながりましたか	負担に感じた、やや負担に感じた、あまり負担には感じなかった、負担には感じなかった	
Q22_1-2		現職研修(中堅研(10年次研修)やキャリアアップ研修等)の内容について	(1:最新の知識・技能を修得できるような講習になっているか、2:現場実務に役立つ内容が多いか) そう思う、ややそう思う、あまりそうは思わない、まったくそうは思わない、わからない	
Q23		教育委員会等(私立の場合は学校法人等)が主催する研修(キャリアアップ研修等)は体系的、計画的に受講出	そう思う、ややそう思う、あまりそうは思わない、まったくそうは思わない、わからない	

設問分類		質問文	選択肢	備考
		来るような仕組みになっていると思いますか		
	Q24	教育委員会等(私立の場合は学校法人等)が主催する研修(キャリアアップ研修等)は改善が図られてきていると思いますか	そう思う, ややそう思う, あまりそうは思わない, まったくそうは思わない, わからない	
	Q25	職務命令研修や免許状更新講習、免許法認定講習等以外に、過去5年以内に自己研鑽のために研修を受講しましたか	(過去5年以内に)受講した, 受講していない	
	Q26	その研修の主催者はどちらでしょうか	大学, 教育委員会, 独立行政法人等、国や公的な機関, 民間企業, その他	Q25で「受講した」と回答した方
	Q27	研修内容等はどうのようなものでしょうか。研修名、主催(教委、民間等)、内容等について	自由回答	Q25で「受講した」と回答した方
	Q28	現職研修全般に対するご意見・ご要望	自由回答	

【回答数(属性等別)】

		回答数
全体		2,108
性別	男性	1,369
	女性	739
回答者年齢 (5歳刻み)	30歳以上 35歳未満	239
	35歳以上 40歳未満	300
	40歳以上 45歳未満	310
	45歳以上 50歳未満	356
	50歳以上 55歳未満	367
	55歳以上 60歳未満	536
	幼稚園	82
勤務先校種	小学校	616
	中学校	498
	高等学校	763
	特別支援学校	149
	公立	1,735
学校設置区分	国立	24
	私立	349
	北海道	143
勤務先所在地 (都道府県)	東北	189
	関東	558
	中部	409
	近畿	409
	中国	132
	四国	74
	九州	194
	2009～2011年度	171
更新講習の受講時期	2012～2015年度	530
	2016～2019年度	1,132
	2020年度～	275
	満足	78
総合満足度	やや満足	325
	どちらともいえない	472
	やや不満	411
	不満	822

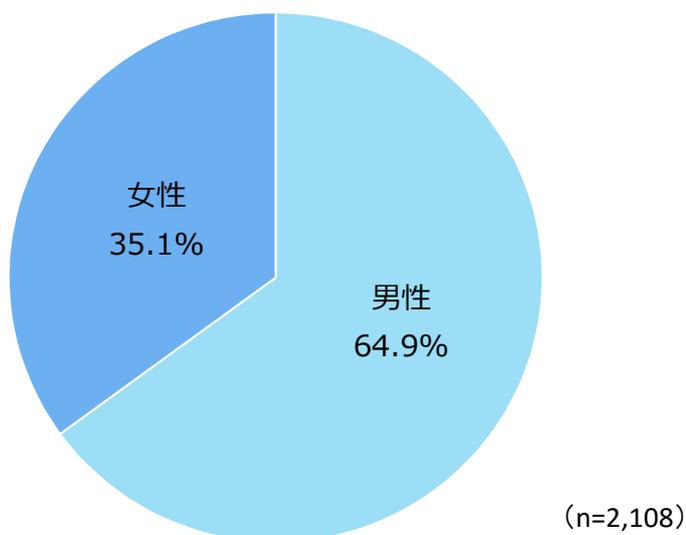
## (2) 回答者属性

---

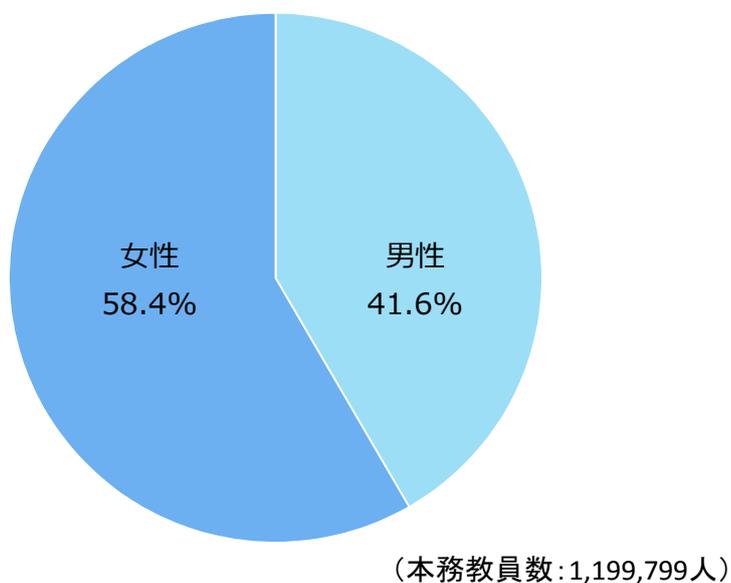
### ① 性別

- ✓ 回答者の性別は「男性」が 64.9%、「女性」が 35.1%であった。
- ✓ 本調査の内容に鑑みれば、性差は大きく影響しないと考えられるものの、学校基本調査における男女比とアンケート回答者の男女比が逆転している点には留意が必要である。

【回答者性別】



【参考:令和2年 学校基本調査における男女比】



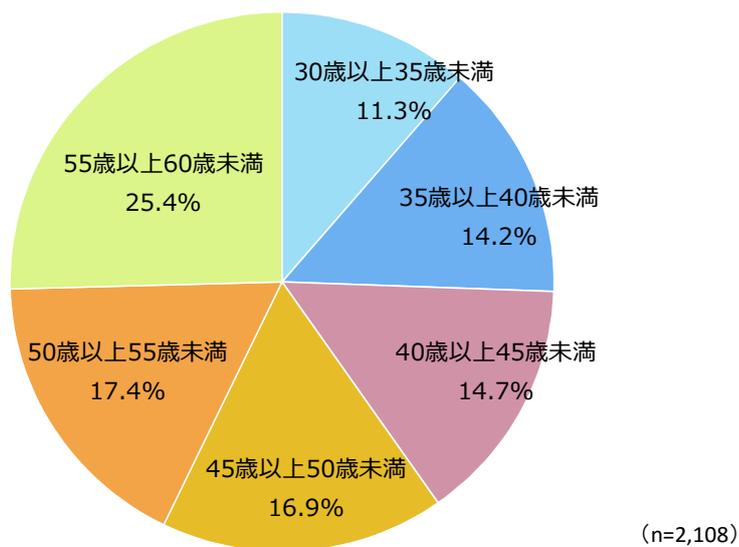
(出所: <https://www.e-stat.go.jp> 学校基本調査より みずほリサーチ&テクノロジーズ作成)



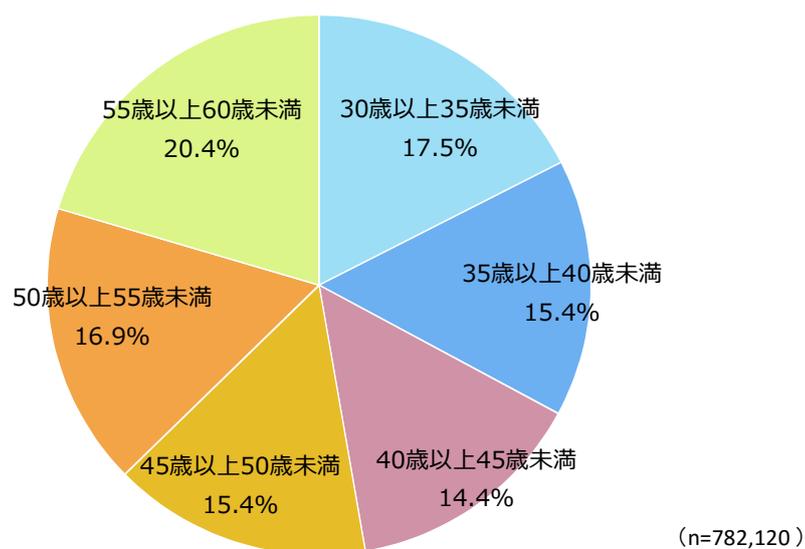
## ② 年齢

- ✓ 回答者の年齢は、「55歳以上 60歳未満」が 25.4%と最も高く、次いで「50歳以上 55歳未満」(17.4%)、「45歳以上 50歳未満」(16.9%)と続く。
- ✓ 学校基本調査における年齢構成比と比較すると、調査回答者のほうが若い年代の割合が若干多いものの、全体として大きな乖離はないといえる。

【回答者年齢(5歳刻み)】

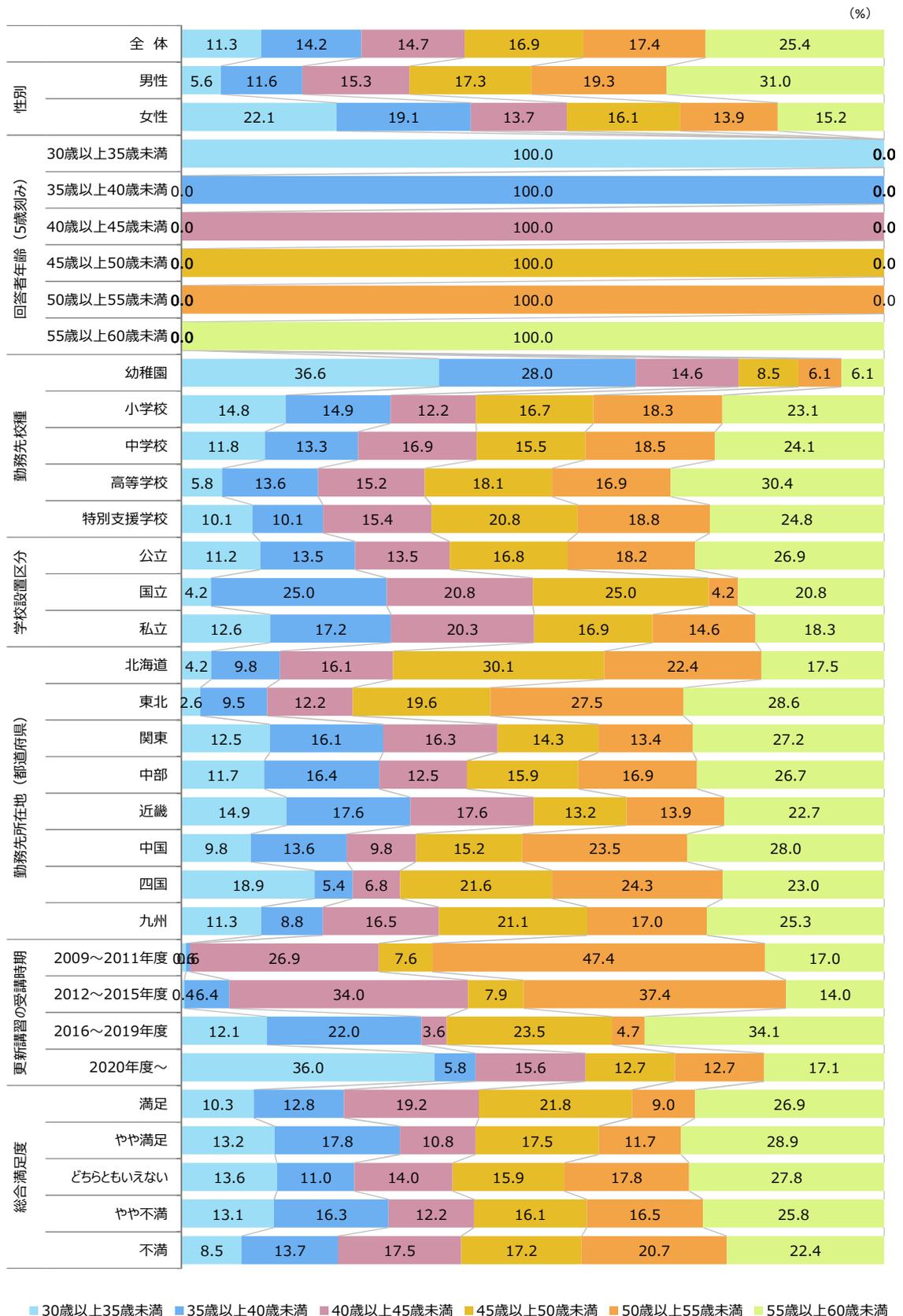


【参考:令和2年 学校基本調査における年齢構成比】



(出所: <https://www.e-stat.go.jp> 学校基本調査より みずほリサーチ&テクノロジーズ作成)

- ✓ 属性別では、幼稚園教諭の回答者年代が若い傾向にあるほか、関東、中部、近畿といった大都市圏では、他の地域と比較して若い回答者がやや多くなっている。



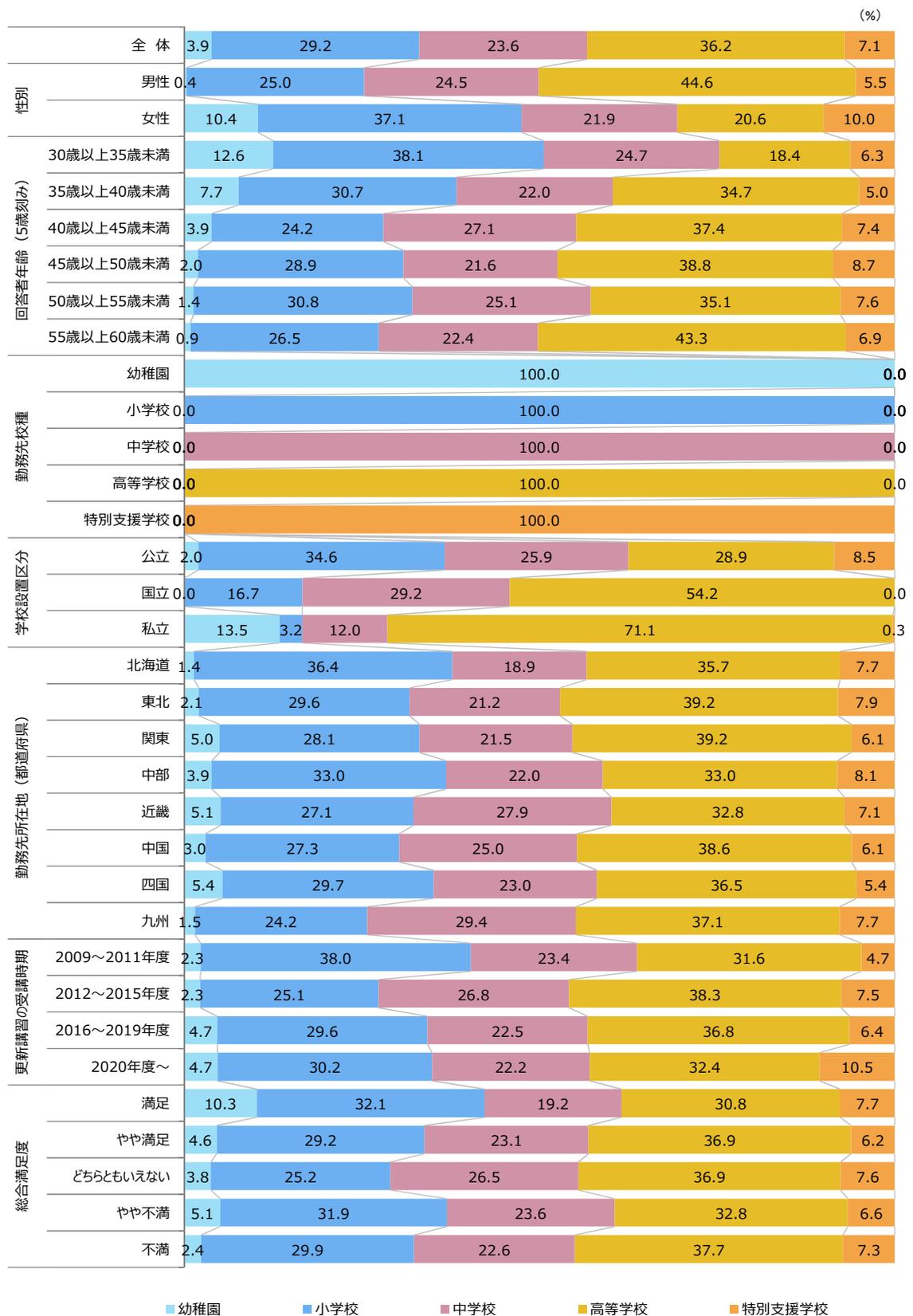
③ 勤務先の校種

- ✓ 回答者の勤務先は、「高等学校(中等教育学校の後期課程を含む)」の回答割合が 36.2%と最も高く、次いで「小学校(義務教育学校の前期課程を含む)」(29.2%)が高かった。

【勤務先の校種】



- 幼稚園 (幼稚園型認定こども園、幼保連携型認定こども園を含む)
- 小学校 (義務教育学校の前期課程を含む)
- 中学校 (義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程を含む)
- 高等学校 (中等教育学校の後期課程を含む)
- 特別支援学校



④ 勤務先の所在地(都道府県別)

- ✓ 勤務先の所在地を尋ねたところ、「東京都」の回答割合が 8.2%と最も高い。次いで、「大阪府」(6.9%)、「北海道」(6.8%)、「愛知県」(6.6%)、「神奈川県」(5.3%)と続く。
- ✓ 学校基本調査における都道府県別の構成比(表中右列)との大きな乖離は見られない。

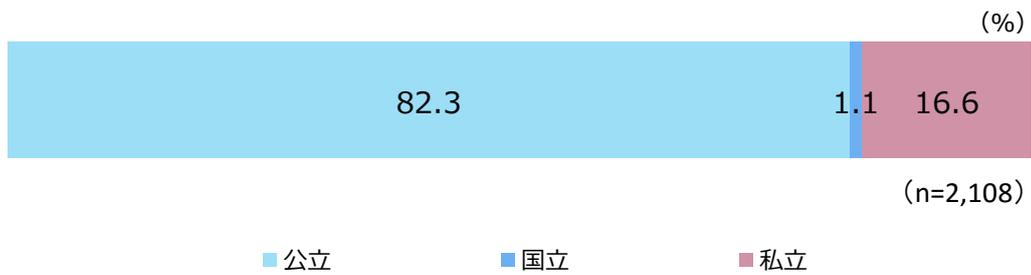
地方	都道府県	回答数	回答率(%)	教員数	教員数割合(%)
北海道	北海道	143	6.8	52,394	4.9
東北地方	青森県	30	1.4	14,530	1.4
	岩手県	28	1.3	13,019	1.2
	宮城県	46	2.2	20,623	1.9
	秋田県	24	1.1	9,316	0.9
	山形県	21	1.0	11,044	1.0
	福島県	40	1.9	18,894	1.8
関東地方	茨城県	49	2.3	25,476	2.4
	栃木県	37	1.8	17,282	1.6
	群馬県	38	1.8	18,667	1.8
	埼玉県	74	3.5	49,164	4.6
	千葉県	76	3.6	46,640	4.4
	東京都	173	8.2	83,712	7.9
	神奈川県	111	5.3	60,533	5.7
	中部地方	新潟県	48	2.3	21,691
富山県	17	0.8	10,477	1.0	
石川県	19	0.9	11,655	1.1	
福井県	17	0.8	9,022	0.8	
山梨県	10	0.5	8,229	0.8	
長野県	46	2.2	18,432	1.7	
岐阜県	48	2.3	18,194	1.7	
静岡県	65	3.1	32,215	3.0	
愛知県	139	6.6	56,817	5.3	
近畿地方	三重県	45	2.1	15,172	1.4
	滋賀県	20	0.9	13,930	1.3
	京都府	53	2.5	21,588	2.0
	大阪府	145	6.9	71,254	6.7
	兵庫県	99	4.7	46,847	4.4
	奈良県	34	1.6	11,600	1.1
	和歌山県	13	0.6	9,362	0.9
中国地方	鳥取県	13	0.6	5,980	0.6
	島根県	16	0.8	7,785	0.7
	岡山県	35	1.7	17,553	1.6
	広島県	50	2.4	23,663	2.2
四国地方	山口県	18	0.9	12,692	1.2
	徳島県	15	0.7	8,117	0.8
	香川県	16	0.8	9,514	0.9
	愛媛県	32	1.5	13,134	1.2
	高知県	11	0.5	7,286	0.7
九州地方	福岡県	63	3.0	43,037	4.0
	佐賀県	11	0.5	9,074	0.9
	長崎県	24	1.1	14,638	1.4
	熊本県	24	1.1	17,120	1.6
	大分県	18	0.9	11,818	1.1
	宮崎県	18	0.9	12,077	1.1
	鹿児島県	26	1.2	19,090	1.8
	沖縄県	10	0.5	14,851	1.4
合計		2,108	-	1,065,208	-

(出所: <https://www.e-stat.go.jp> 学校基本調査より みずほリサーチ&テクノロジーズ作成)

⑤ 勤務する学校の設置区分

- ✓ 回答者が勤務する学校の設置区分については、「公立」が 82.3%と圧倒的に高く、次いで「私立」16.6%と続き、国立は 1.1%にとどまる。
- ✓ 学校基本調査における統計値と比較すると、本調査回答者では私立の割合がやや低い。

【勤務する学校の設置区分】

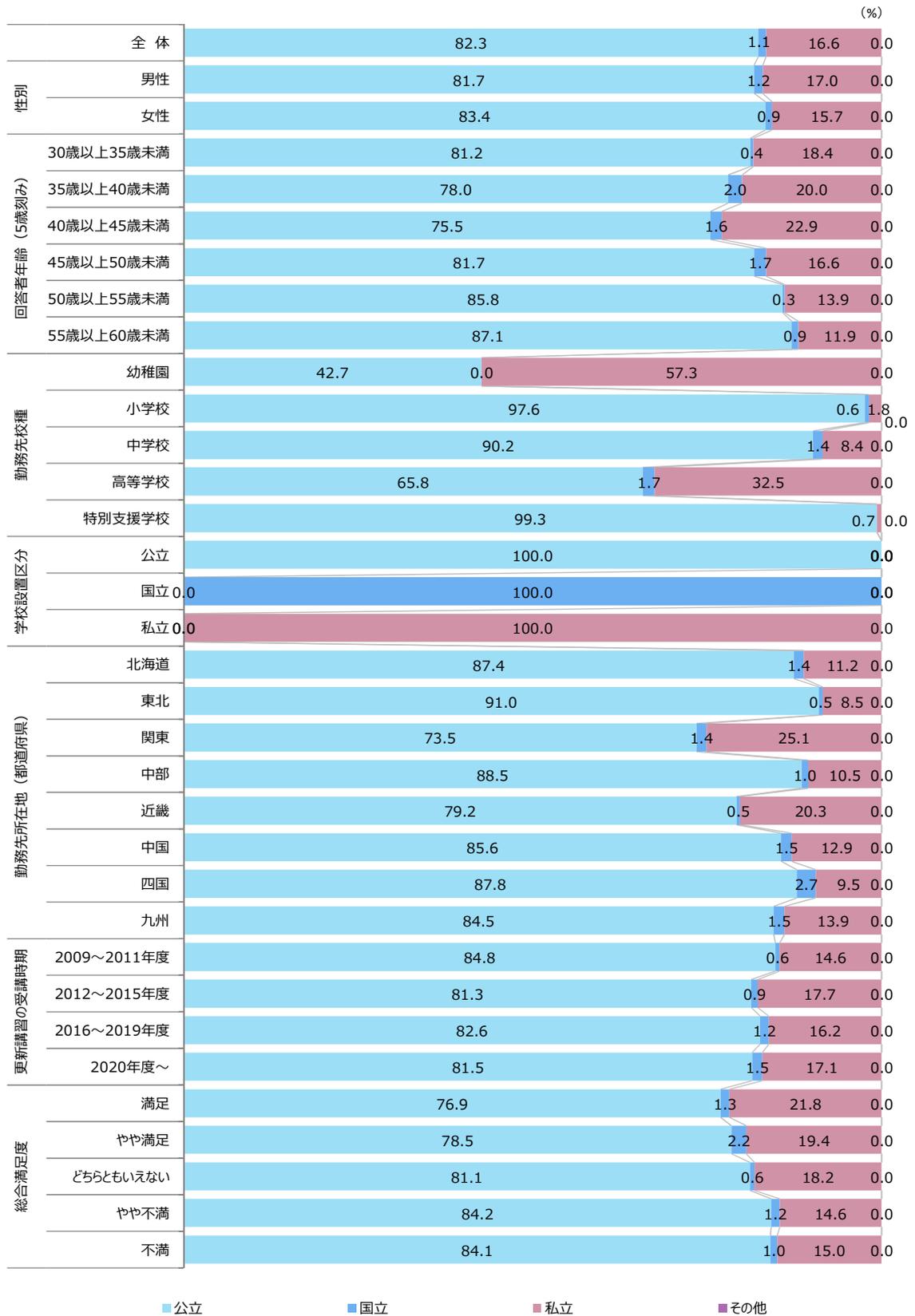


【参考:令和2年 学校基本調査における公立・国立・私立の割合】



(出所: <https://www.e-stat.go.jp> 学校基本調査より みずほリサーチ&テクノロジーズ作成)

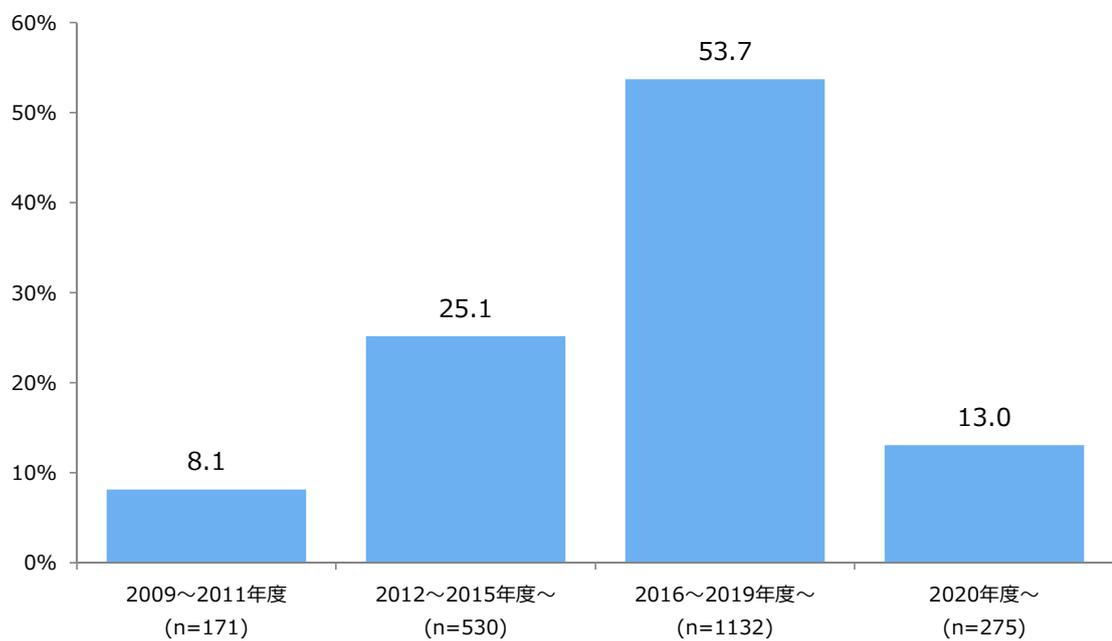
- ✓ 属性別では、校種では幼稚園と高等学校で、また地域では関東と近畿において私立の割合が高くなっている。

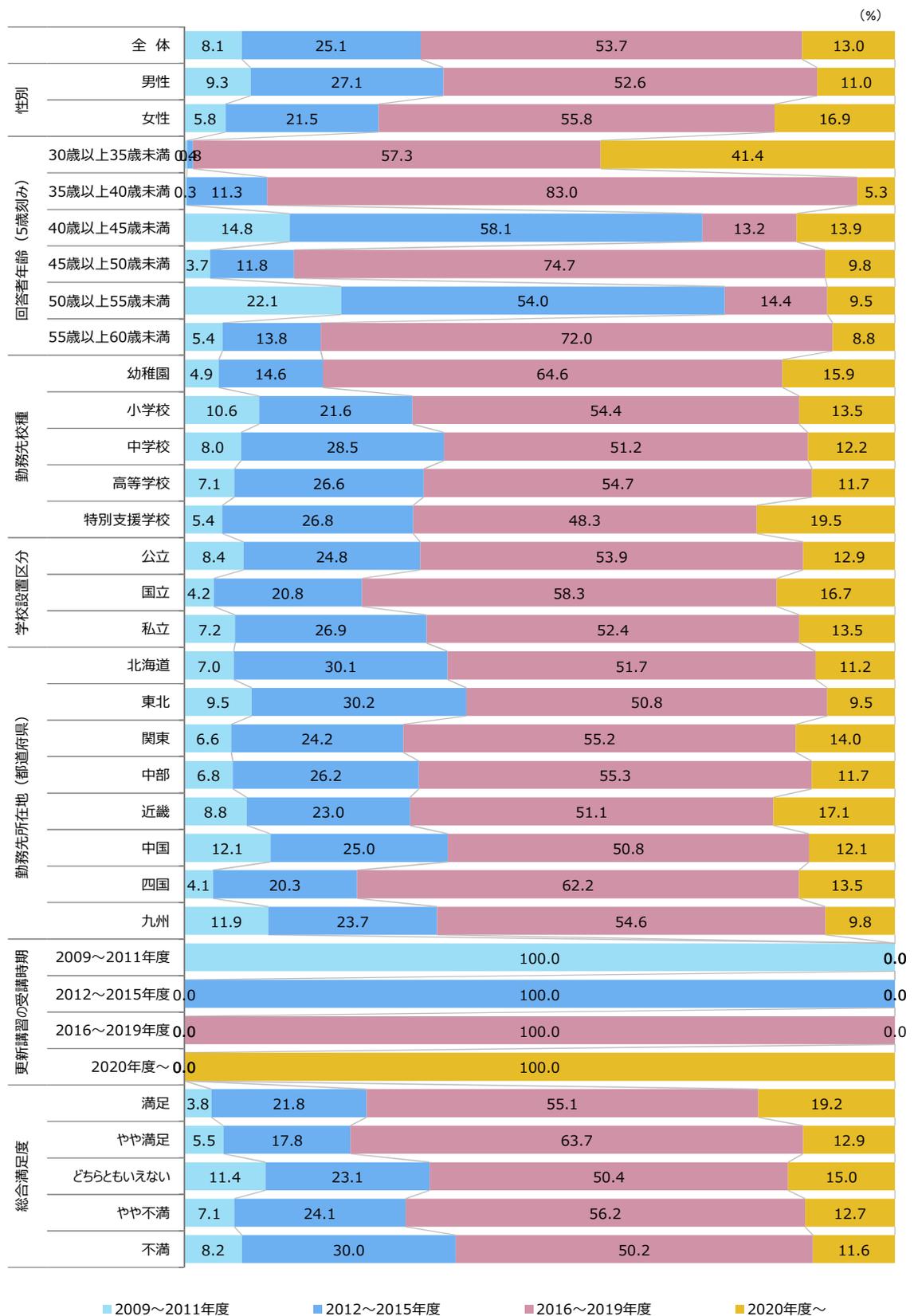


⑥ 更新講習の受講年度

- ✓ 更新講習の直近の受講年度を尋ねたところ、「2016 年度～2019 年度」が 53.7%と高い。次いで「2012 年度～2015 年度」(25.2%)、「2020 年度～」(13.0%)、「2009 年度～2011 年度」(8.1%)と続いている。
- ✓ 以降、設問によってはコロナ流行前(～2019 年度)とコロナ流行後(2020 年度～)の 2 区分での集計を行っている。

【更新講習の受講年度】



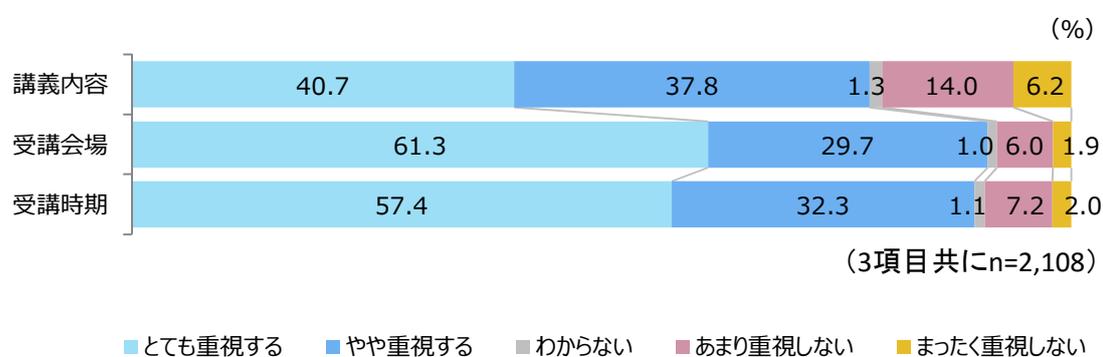


### (3) 更新講習について

#### ① 受講する講習を選ぶにあたって重視する点

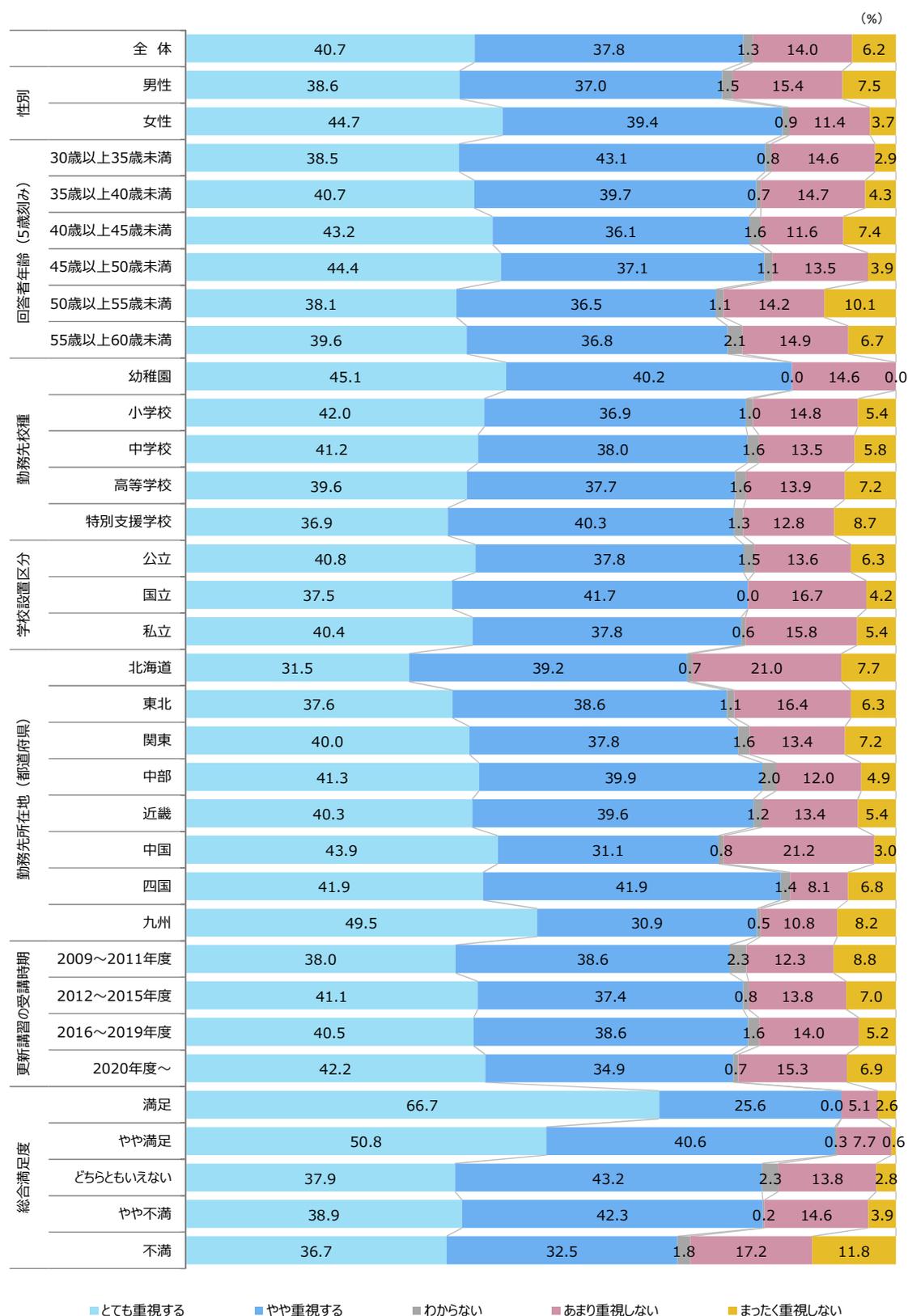
- ✓ 受講する講習を選ぶにあたって「講義内容」「受講会場」「受講時期」をそれぞれの程度重視するかを尋ねたところ、「とても重視する」の割合が高い順に「受講会場」(61.3%)、受講時期」(57.4%)、「講義内容」(40.7%)となった。
- ✓ 講習を選ぶにあたり、受講しやすい場所で開催されているものを優先的に選択し、続いて都合に合う時期に開催されているかを重視する一方で、講義内容の重要度は場所と時期と比較して劣後しているものと考えられる。

【受講する講習を選ぶにあたって重視する点】



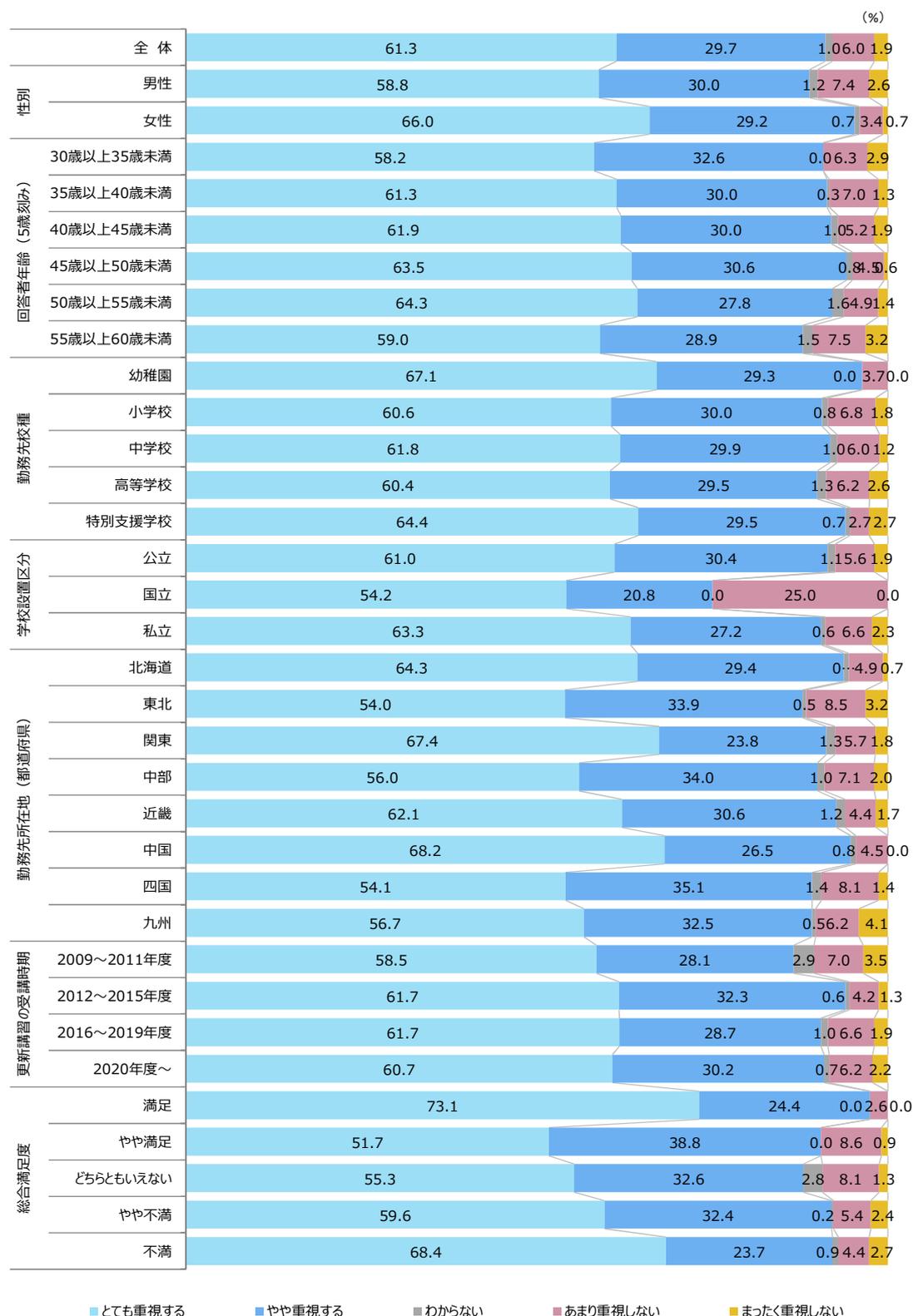
■受講する講習を選ぶにあたって重視する点(講義内容)

- ✓ 講義内容に対する重視度を属性別に見ると、女性、幼稚園勤務者で「とても重視する」「やや重視する」の割合が高くなっている。
- ✓ また、総合満足度が高い回答者ほど講義内容を重視していることがうかがえる。



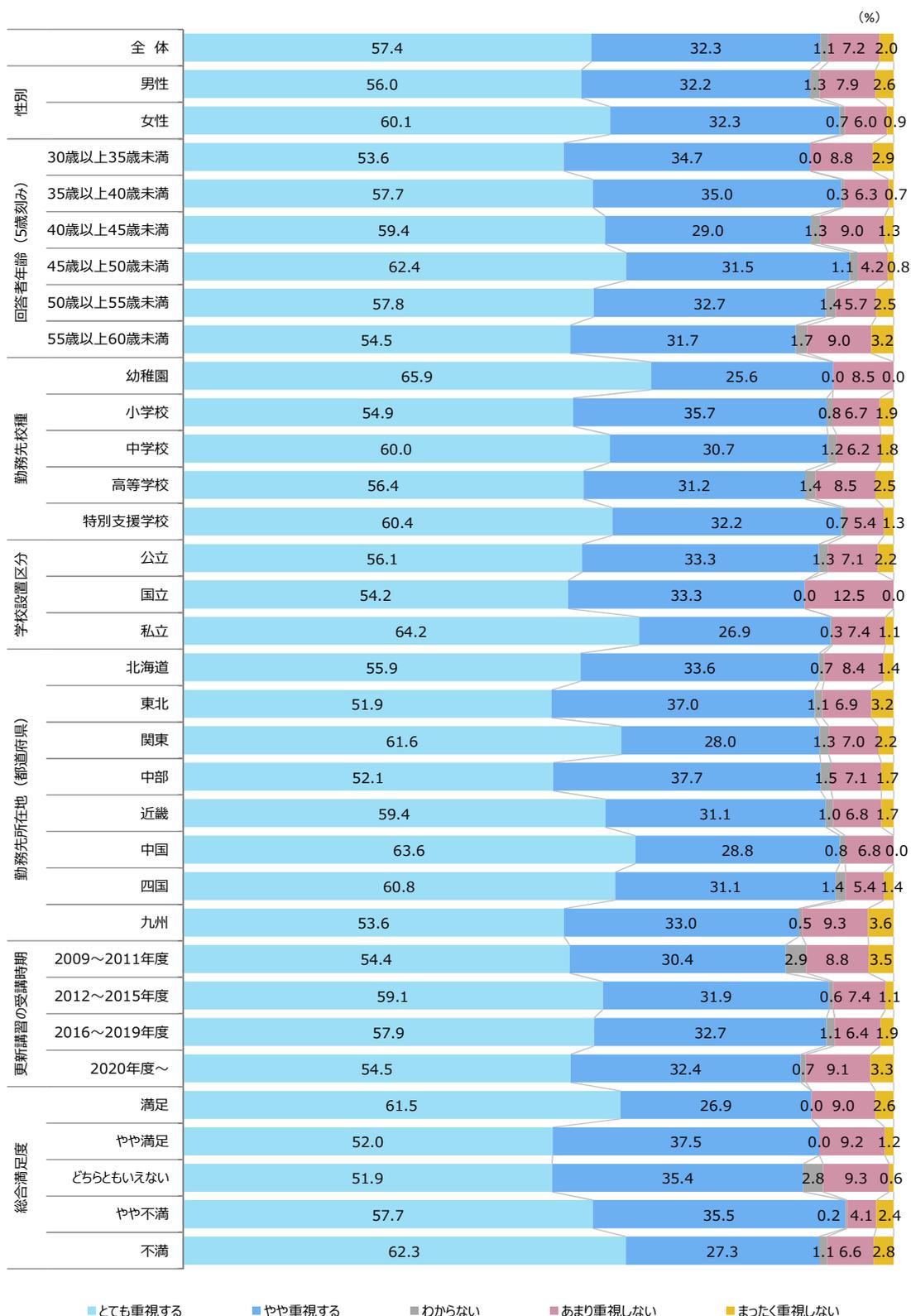
■受講する講習を選ぶにあたって重視する点(受講会場)

- ✓ 受講会場に対する重視度についても、内容と同様に女性、幼稚園勤務者でやや高い。
- ✓ 総合満足度の回答内容別では、「満足」と回答した者の会場の重視度が最も高いが、その他は総合満足度が低いほど会場をより重視するとの回答となっており、近場で手軽に更新を行うことを最優先した結果として、内容面での満足度が低くなっている可能性がある。



■受講する講習を選ぶにあたって重視する点(受講時期)

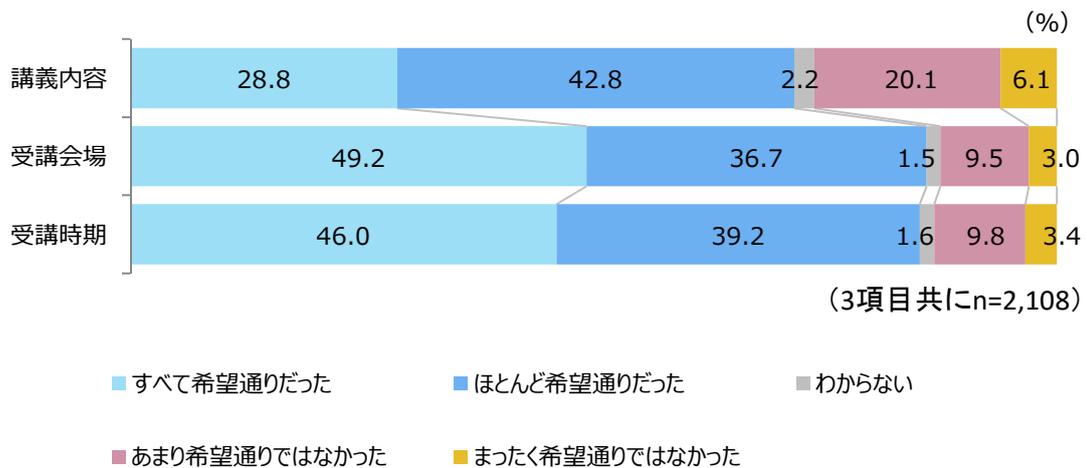
- ✓ 講義時期の重視度についても、会場と同様に総合満足度で「満足」と回答した者以外は、満足度が低いほど重視度が高くなっている。これも会場と同じく、都合の良い時期に開催されている講習を(内容をあまり重視せずに)選択した結果として、満足度が低くなっている可能性がある。



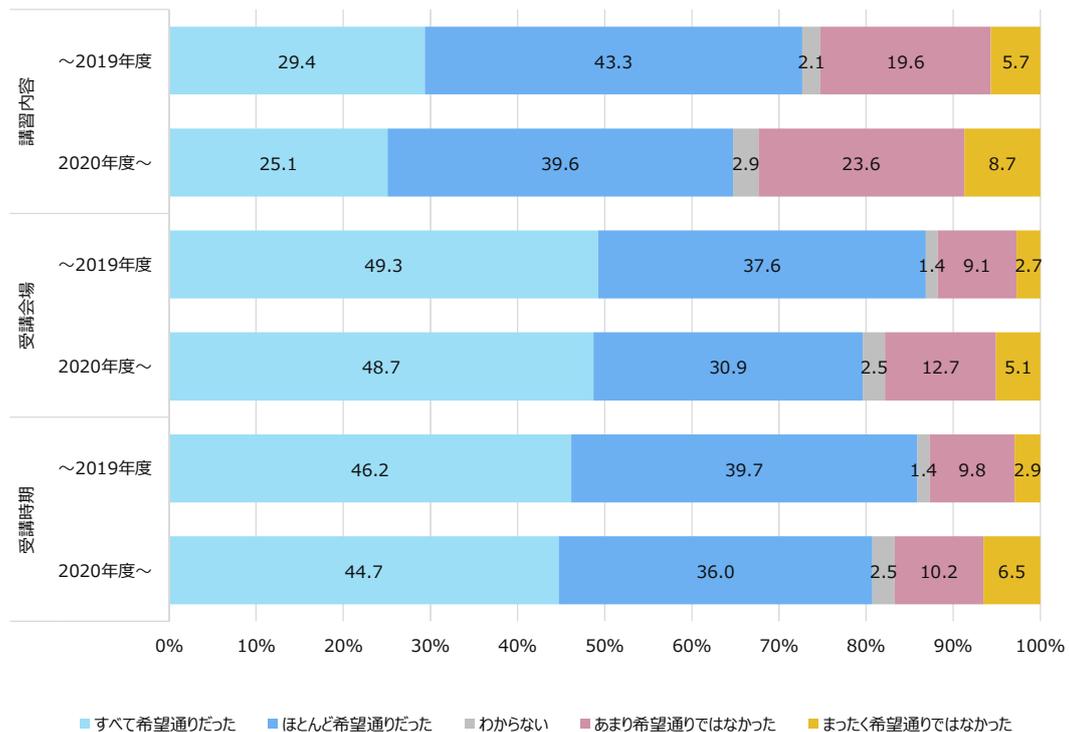
② 希望する講習の受講状況

- ✓ 「講義内容」「受講会場」「受講時期」について自身の希望に沿っていたかを尋ねたところ、「受講会場」と「受講時期」については、「すべて希望通り」「ほとんど希望通り」の合計が8割を超えている一方、「講義内容」については「あまり希望通りでなかった」と「まったく希望通りでなかった」の合計が他の2項目と比較して高くなっている。

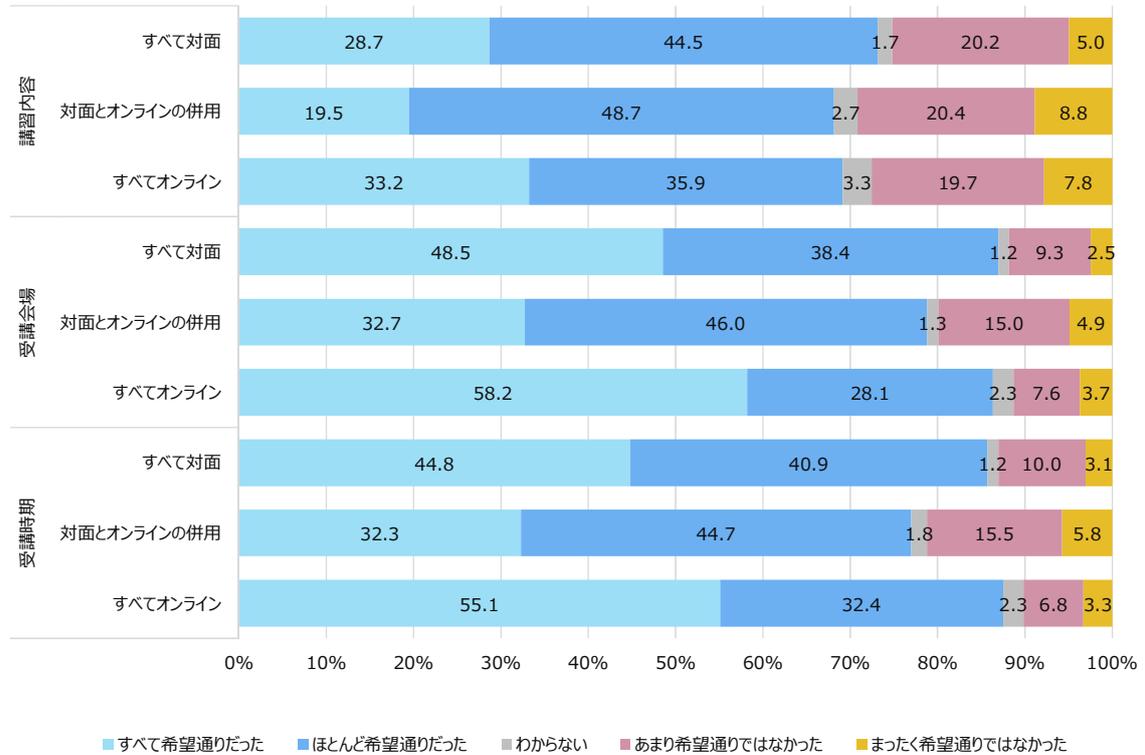
【希望する講習の受講状況】



- ✓ 更新講習の受講年度について、コロナ流行前(～2019年度)とコロナ流行後(2020年度～)で比較したところ、講義内容、受講会場、受講時期のいずれにおいても、コロナ流行前の方がより希望通りの条件で講習を受講できていた傾向にある。

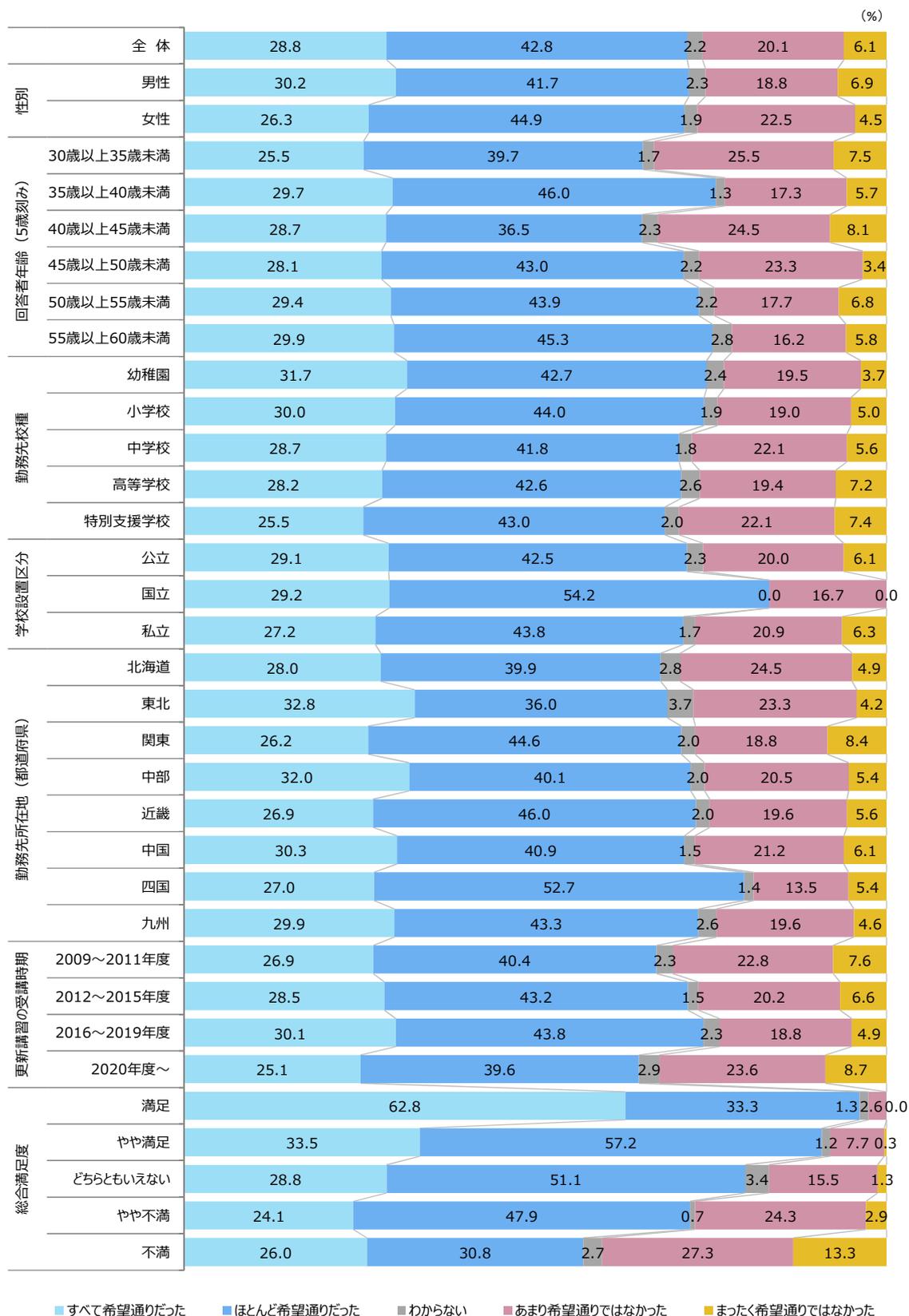


- ✓ また、受講形式(すべて対面、対面とオンライン(オンデマンドを含む)の併用(一部活用を含む)、すべてオンライン(オンデマンドを含む))別では、すべてオンラインで受講した場合に、他の方法と比較して、いずれの項目においても「すべて希望通りだった」の回答割合が高くなっている。



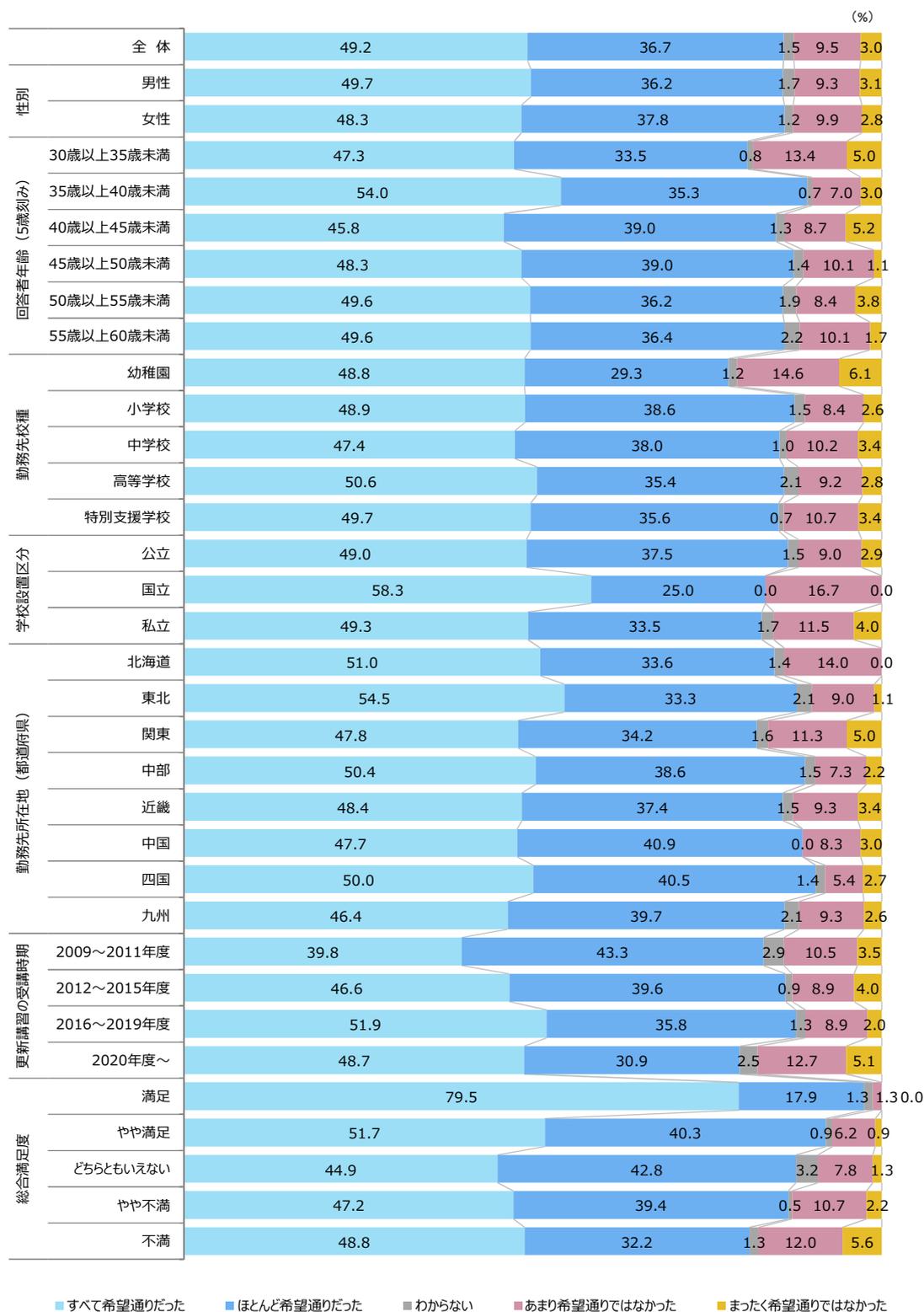
■希望通りの講習を受講できたか(講義内容)

- ✓ 講義内容が希望通りだったかについては、回答者の属性別の差は見られないが、総合満足度が高い回答者ほど希望通りの講習を受けられていることが読み取れる。



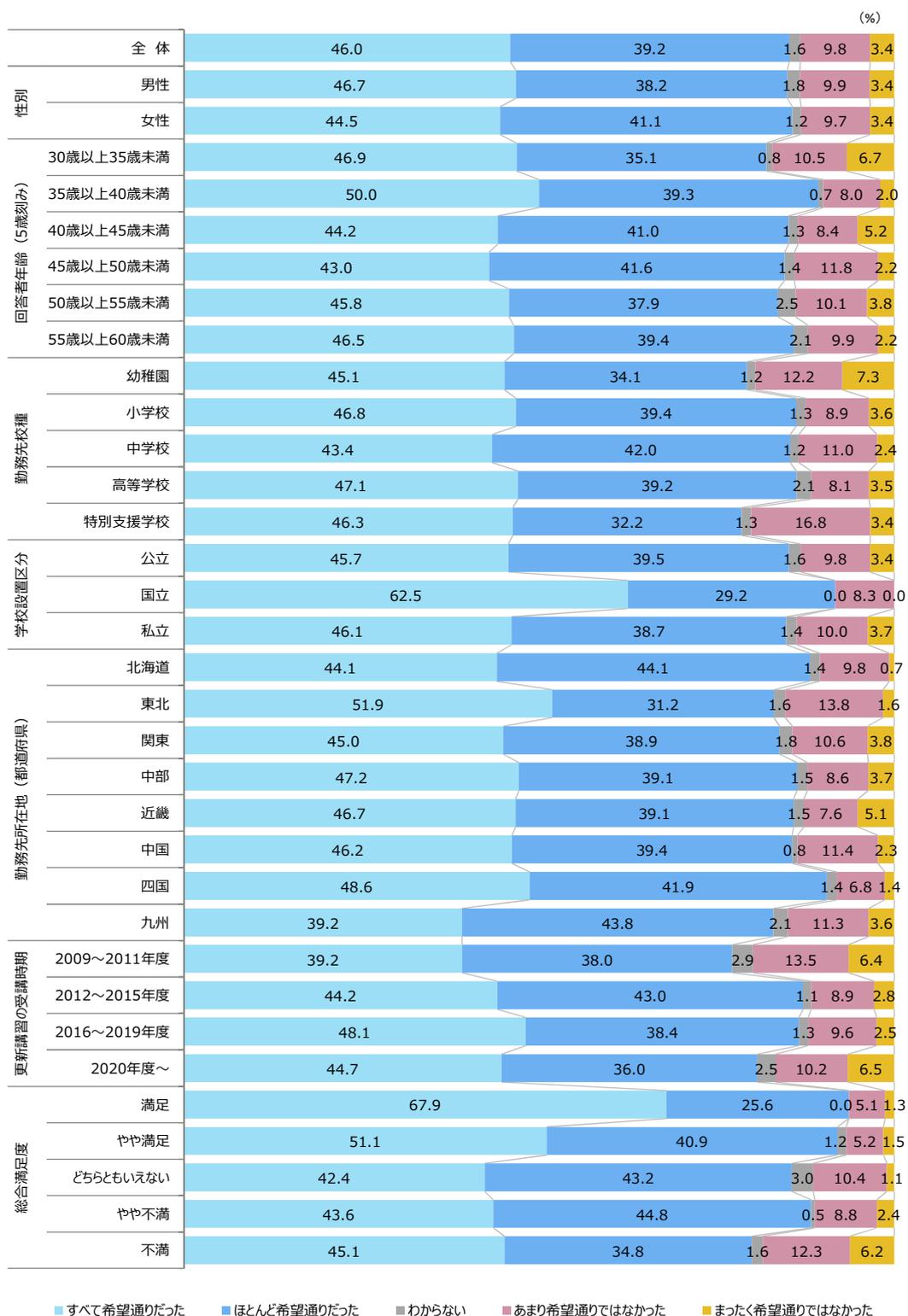
■希望通りの講習を受講できたか(受講会場)

- ✓ 受講会場についても属性別の差異は見られないが、更新講習の受講年度が古い(2009～2011年度)の回答者において希望通りであった割合がやや低くなっている。
- ✓ また、総合満足度で最も高い「満足」と回答した者は、会場について約8割が「すべて希望通りだった」と回答している。



■希望通りの講習を受講できたか(受講時期)

- ✓ 受講時期については、コロナ前(～2019年度)までは受講年度が新しくなるほど「すべて希望通り」の回答が高くなっていましたが、2020年度以降に受講した回答者は「すべて希望通り」の割合がやや低くなっている。
- ✓ コロナの流行により、開催される講習の絶対数が減少したことが影響しているものと考えられる。



### ③ 希望どおり受講できなかった内容と、その理由

- ✓ 希望どおりの更新講習を受講できなかった内容と、その理由について自由記述形式の任意回答で尋ね、結果を複数回答形式で分類・集計したものの上位 10 項目は以下のとおりである。
- ✓ 最も回答が多かった「講義の内容が期待していたものではなかった」(422 件、34.1%)では、「内容が求めているものとかげ離れていた」、「実務とあまり関係のない内容も多かった」、「当たり前の内容が多く、より深い内容について勉強したかった」、「内容に変更があった」、などのコメントが見られた。
- ✓ 続いて多かった「人数制限により希望の講習が受講できなかった(抽選含む)」(279 件、22.5%)では、「希望した講座が、定員に達していたから」、「申し込みが遅かったので、有名私学などに置かれた教科内容につながるような専門的講座がとれなかった」、「希望の講義の人数が多く、代わりに人気のない講義を選択した」、「人気の講座があつという間に予約でいっぱいになるから」などの記載があった。
- ✓ 「場所等の関係で講習の選択肢が少なかった」(177 件、14.3%)では、「場所の関係で、時期と講義内容を妥協するしかなかった」、「動き出しが遅れたため申込可能な講座の選択肢が狭まった。そのため他県での受講を余儀なくせざるを得なかったほか、気になっていた講座の受講ができなかった」、「日程優先のため選択肢が少なかった」などといったコメントがみられた。
- ✓ Q17 総合満足度において「満足」や「やや満足」と回答した者によるコメントでは、数は少ないものの「E ラーニングを今回選択してみました。講義内容がシラバスに書いてあるものと少し違っていました。ただ、何度も小テストに取り組むことができ、力をつけようとする大学の熱意は感じられました」や「講習の内容が若干、期待以上だったこと」といったポジティブな内容も散見された。
- ✓ なお、集計にあたっては、「なし」「特になし」といった回答を無回答と同一視することとし、回答数の分母には含めていない。

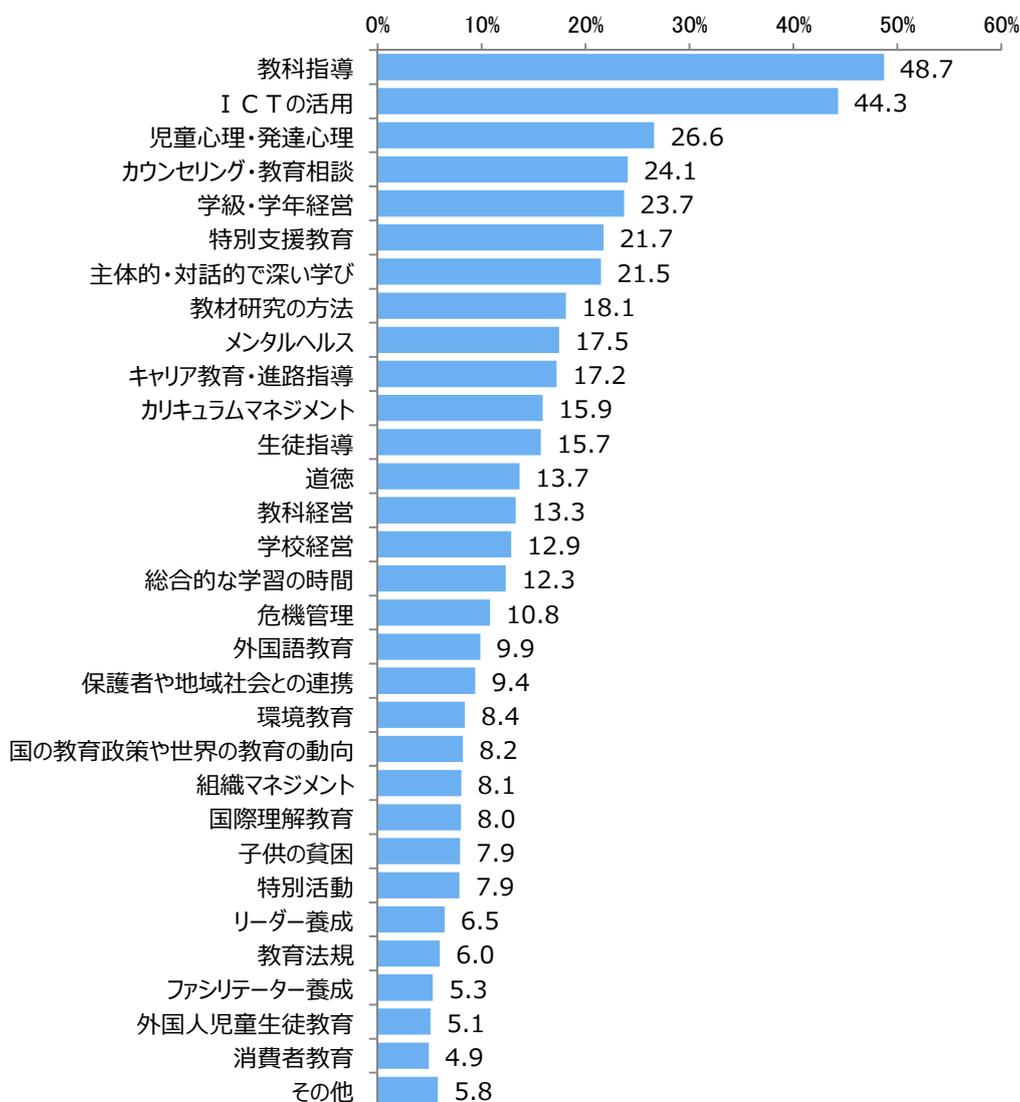
順位	回答分類	回答数	回答割合
1	講義の内容が期待していたものではなかった	422	34.1%
2	人数制限により希望の講習が受講できなかった(抽選含む)	279	22.5%
3	場所等の関係で講習の選択肢が少なかった	177	14.3%
4	受講したい内容の開催場所(会場)が遠かった	110	8.9%
5	日程の関係で希望する講義が受けられなかった	82	6.6%
6	学校行事や部活等と重なっていた	44	3.6%
7	コロナの影響による中止	40	3.2%
8	そもそも免許更新は不要・意義を感じない	37	3.0%
9	対面で受講したかったが通信教育でしか受けられなかった	30	2.4%
10	講習の受講時間が長かった	10	0.8%

(注) 回答割合を算出するための分母(1,238)には、無回答及び「なし」「特になし」等の回答を含まない。

#### ④ 今後受講してみたい講習テーマ

- ✓ 今後受講してみたい講習テーマについて複数回答で尋ねたところ、「教科指導」(48.7%)、「ICTの活用」(44.3%)が高くなった。これに、「児童心理・発達心理」(26.6%)、「カウンセリング・教育相談」(24.1%)、「学級・学年経営」(23.7%)が続いている。
- ✓ その他の内容としては、人権教育、ジェンダーに対する対応力や児童への指導、ゲーム障害・インターネット依存、金融教育(クラウドファンディング、経済、投資、税金など)、働き方改革、防災教育(救急処置含む)、学校教育のトラブル事例(クレーム対応含む)、歴史(地域の歴史・教育の歴史)、定年後の仕事の続け方、などが見られた。

【今後受講してみたい講習テーマ】

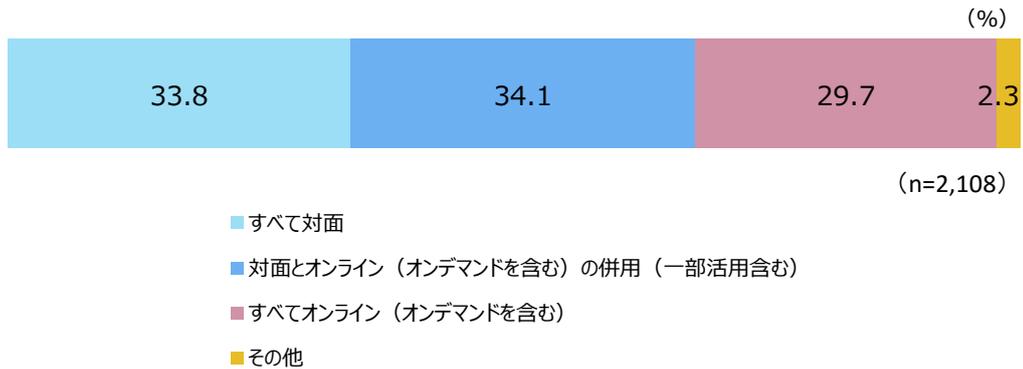


学級・学年	学級・学年数	教科指導	トカリキョウラムマシナシメン	教科経営	選修	特別活動	総合的な学習の時間	外国語教育	ICTの活用	基礎教育	国際理解教育	特別支援教育	環境教育	生徒指導	外国人児童生徒教育	子供の貧困	キャリア教育・進路指導	読カウセリンク教育	メンタルヘルス	リーディング	フアンシナシメン	組織マネジメント	危機管理	教育法規	国の動向	保護者や地域社会との連携	児童心理・発達心理	主体的・対話的探究学習	教材研究の方法	その他	
全体	237	467	159	133	137	79	123	99	443	49	80	217	84	157	51	79	172	241	175	65	53	81	108	60	82	94	266	215	181	58	
男性	1369	165	207	184	130	110	66	67	451	51	70	150	87	162	32	54	172	196	145	72	58	104	126	78	90	77	180	208	162	61	
女性	739	61	292	490	112	138	103	157	429	46	99	342	78	147	85	126	173	323	229	50	43	38	76	26	68	126	426	227	217	51	
30歳以上39歳未満	239	96	427	519	159	163	259	113	446	50	88	310	71	188	46	121	155	289	172	84	42	54	54	25	92	100	423	251	230	54	
35歳以上40歳未満	300	170	343	577	203	173	113	163	543	53	80	220	63	180	87	107	213	217	163	80	83	93	103	53	63	123	333	293	250	33	
40歳以上49歳未満	310	164	316	535	203	161	165	116	455	58	94	206	94	206	71	103	181	261	213	113	90	113	145	77	97	139	261	248	223	32	
45歳以上59歳未満	355	132	202	469	163	160	110	121	478	79	73	211	84	191	31	76	236	256	197	62	39	84	112	67	81	67	275	230	202	70	
50歳以上59歳未満	367	150	169	411	155	98	98	71	417	33	74	234	87	123	44	54	142	221	150	60	52	114	125	68	74	63	210	191	106	54	
55歳以上69歳未満	535	69	118	446	108	86	90	37	382	34	78	174	93	103	39	52	131	224	162	24	30	47	99	58	88	88	194	142	134	82	
幼稚園	82	12	207	110	146	00	61	110	49	73	85	00	85	122	12	49	159	24	220	85	37	37	110	12	37	305	488	244	207	85	
小学校	615	153	302	440	172	112	154	81	482	29	68	286	52	119	49	62	112	242	156	50	36	76	93	50	76	83	352	218	131	55	
中学校	498	149	267	584	167	163	261	88	474	38	82	203	82	229	60	80	215	283	189	88	64	82	120	64	106	88	267	257	181	54	
高等学校	763	121	189	532	156	148	50	64	442	71	93	97	107	156	45	77	206	212	174	64	63	93	121	88	76	77	164	186	211	63	
特別支援学校	149	67	134	336	101	114	134	60	383	87	54	490	81	161	60	114	188	248	181	34	47	54	67	67	81	94	309	195	221	40	
公立	1735	127	229	488	156	130	148	74	111	101	447	46	73	235	76	148	165	244	169	58	45	76	100	58	85	90	271	219	178	61	
私立	24	250	292	456	125	83	208	42	333	42	83	42	167	125	83	42	208	282	83	42	00	167	208	167	42	83	83	125	125	42	
区分	349	129	272	484	178	152	83	106	463	86	117	140	117	206	46	86	203	218	209	97	100	142	60	89	115	282	201	203	46		
北海道	143	105	224	448	161	98	91	49	476	28	105	217	91	77	21	84	147	252	168	35	35	63	42	21	91	49	224	168	133	77	
東北	189	127	196	508	228	159	101	132	503	74	79	212	95	143	42	79	175	254	169	53	53	106	143	74	58	127	206	228	164	53	
関東	553	109	242	491	167	120	145	86	102	405	59	79	197	104	145	50	73	177	240	192	75	70	86	116	68	70	95	276	224	210	56
中部	409	120	252	477	139	110	149	59	443	37	59	218	71	183	49	64	186	257	183	64	54	68	105	66	83	81	254	215	193	56	
近畿	409	164	269	516	159	147	149	88	452	49	103	240	78	208	61	110	176	249	159	81	56	83	120	42	100	112	330	210	186	51	
中国	132	114	129	477	121	167	83	76	447	23	61	136	61	61	53	53	138	136	144	23	45	91	91	38	68	91	242	258	167	45	
四国	71	81	216	419	95	135	95	68	554	14	54	284	27	189	54	108	95	216	149	68	14	68	149	122	108	95	270	162	54	122	
九州	194	175	256	479	160	165	180	103	407	72	88	263	88	155	62	67	191	247	180	62	31	72	77	67	93	82	232	211	175	57	
2009～2011年度	171	222	158	469	205	88	123	47	82	70	415	18	76	105	41	29	140	170	129	64	58	99	158	64	53	58	228	205	105	41	
2012～2015年度	530	145	257	485	149	123	128	79	121	98	432	45	83	183	81	162	55	77	181	232	166	87	111	123	66	87	100	192	208	166	53
2016～2019年度	1132	111	225	492	156	137	132	79	128	98	455	55	78	225	82	163	46	78	178	252	178	55	48	98	59	82	93	297	220	200	62
2020年度～	275	109	288	502	160	164	182	98	433	55	87	240	102	153	69	120	149	255	204	62	40	47	91	47	91	109	305	215	182	62	
講座	78	269	285	538	231	269	167	244	462	64	115	218	154	231	64	77	205	333	256	141	77	128	154	141	141	218	231	256	218	38	
総合満足度	325	117	268	526	169	169	151	98	425	86	89	237	129	166	62	95	240	286	203	77	77	86	111	77	120	114	308	206	203	28	
やや満足	472	131	239	475	178	131	159	81	441	47	64	256	72	167	51	72	172	222	189	59	49	70	100	61	81	95	278	203	178	28	
どちらともいえない	411	146	243	516	175	131	161	88	481	56	80	209	75	148	56	83	173	243	151	73	63	85	127	41	85	107	304	246	175	34	
やや不満足	822	108	215	460	129	107	103	57	426	32	83	191	71	145	43	75	142	223	159	51	39	78	99	54	61	67	227	206	174	101	

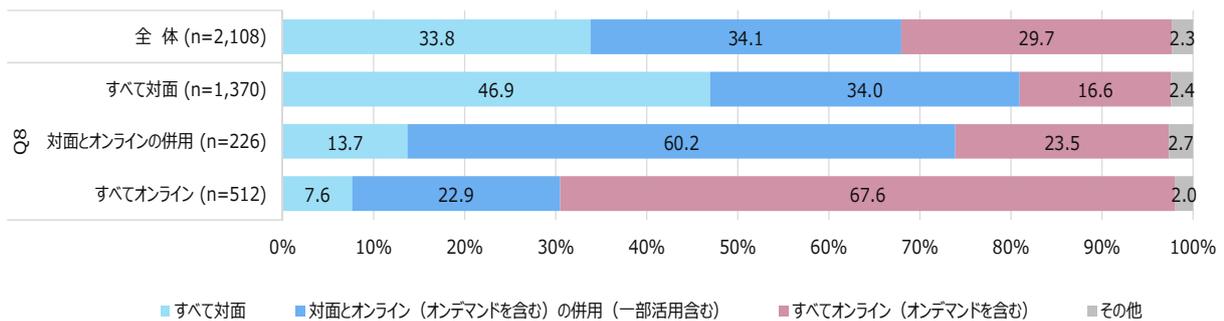
⑤ 希望する受講方法

- ✓ 希望する受講方法については、「対面とオンライン(オンデマンドを含む)の併用(一部活用含む)」が34.1%、「すべて対面」が33.8%、「すべてオンライン(オンデマンドを含む)」が29.7%と、それぞれがほぼ同程度の回答となった。

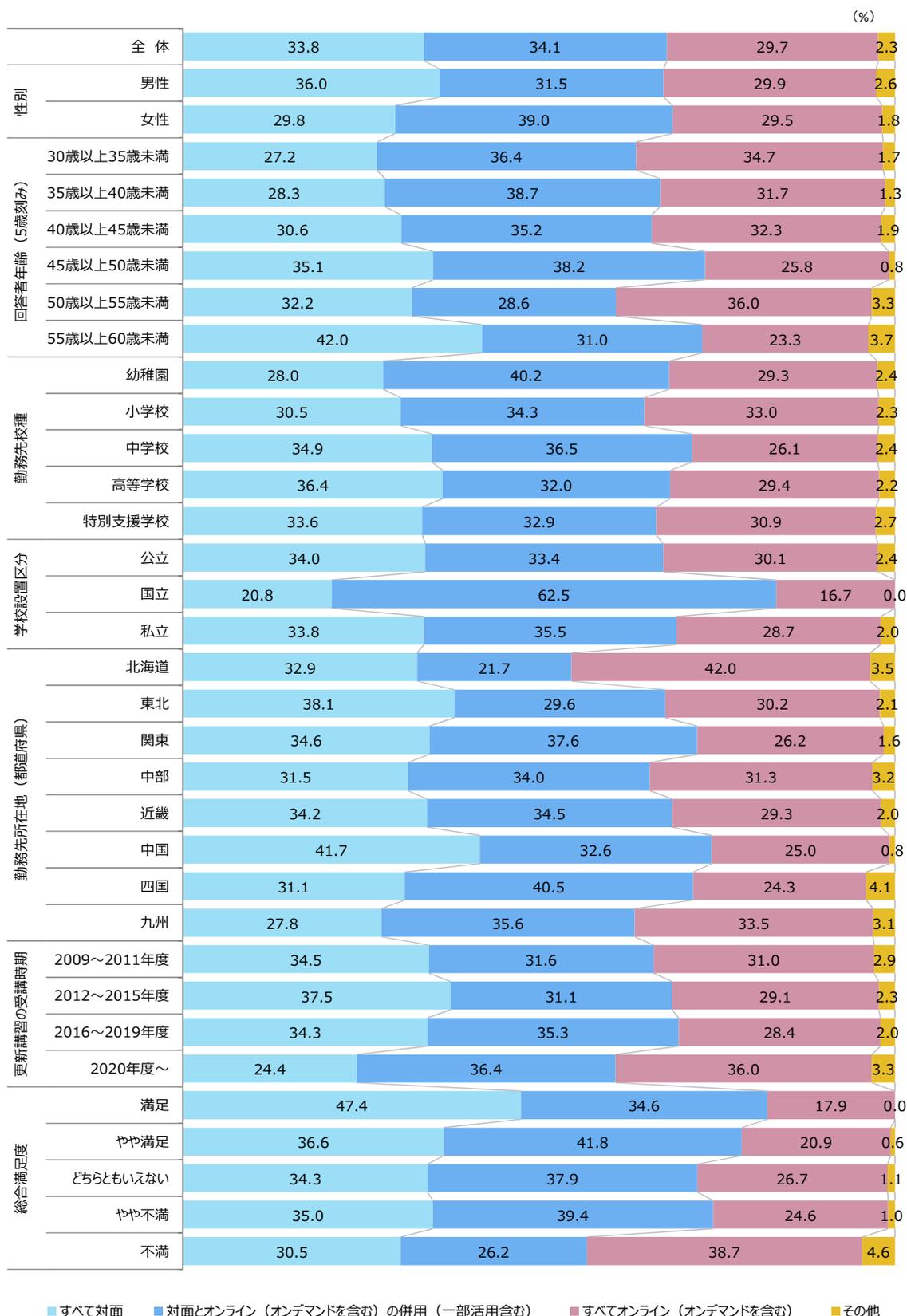
【希望する受講方法について】



- ✓ 実際に受講した方法別にみると、すべて対面で受講した回答者は次回の希望についても引き続き「すべて対面」を半数程度が希望している一方、「対面とオンラインの併用」も 35%程度が希望している。ただし、本調査の実施時期が緊急事態宣言中ということで、対面での講習開催が減少している状況にあった点には留意が必要である。
- ✓ すべてオンラインで受講した回答者については、約 7 割が再びすべてオンラインで受講することを希望しており、内容面あるいは受講のしやすさにおいて、オンライン講習の効果が出ているものと考えられる。



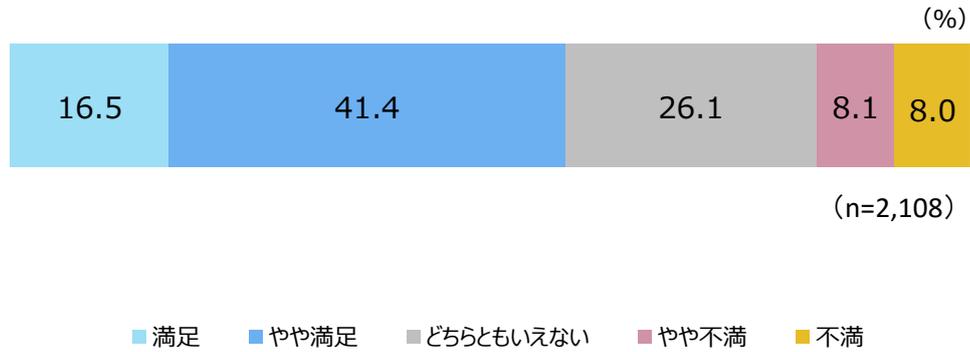
- ✓ 属性別では、「50歳以上 55歳未満」を除き、年齢が高い回答者ほど「すべて対面」での講習を機能する傾向がある。
- ✓ また、総合満足度が最も高い回答者はすべて対面での講習を希望する割合が高い。



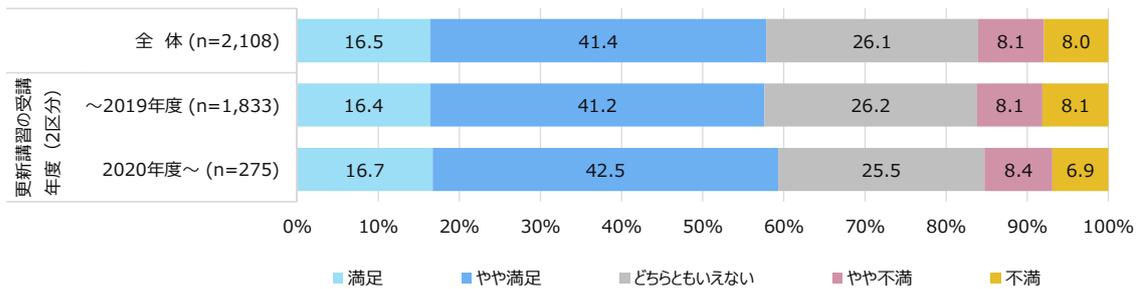
⑥ 受講した講習内容の満足度(受講直後の感想)

- ✓ 受講した講習の受講直後の内容面に限った満足度は、「満足」と「やや満足」の合計が57.9%と過半を占めており、「不満」および「やや不満」はそれぞれ8.1%、8.0%と低い。

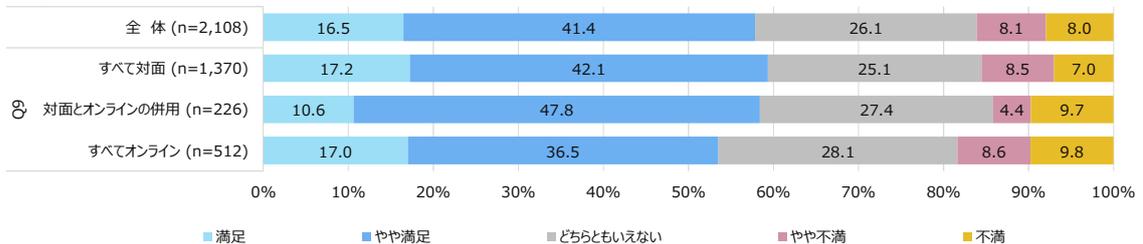
【講習内容の満足度】



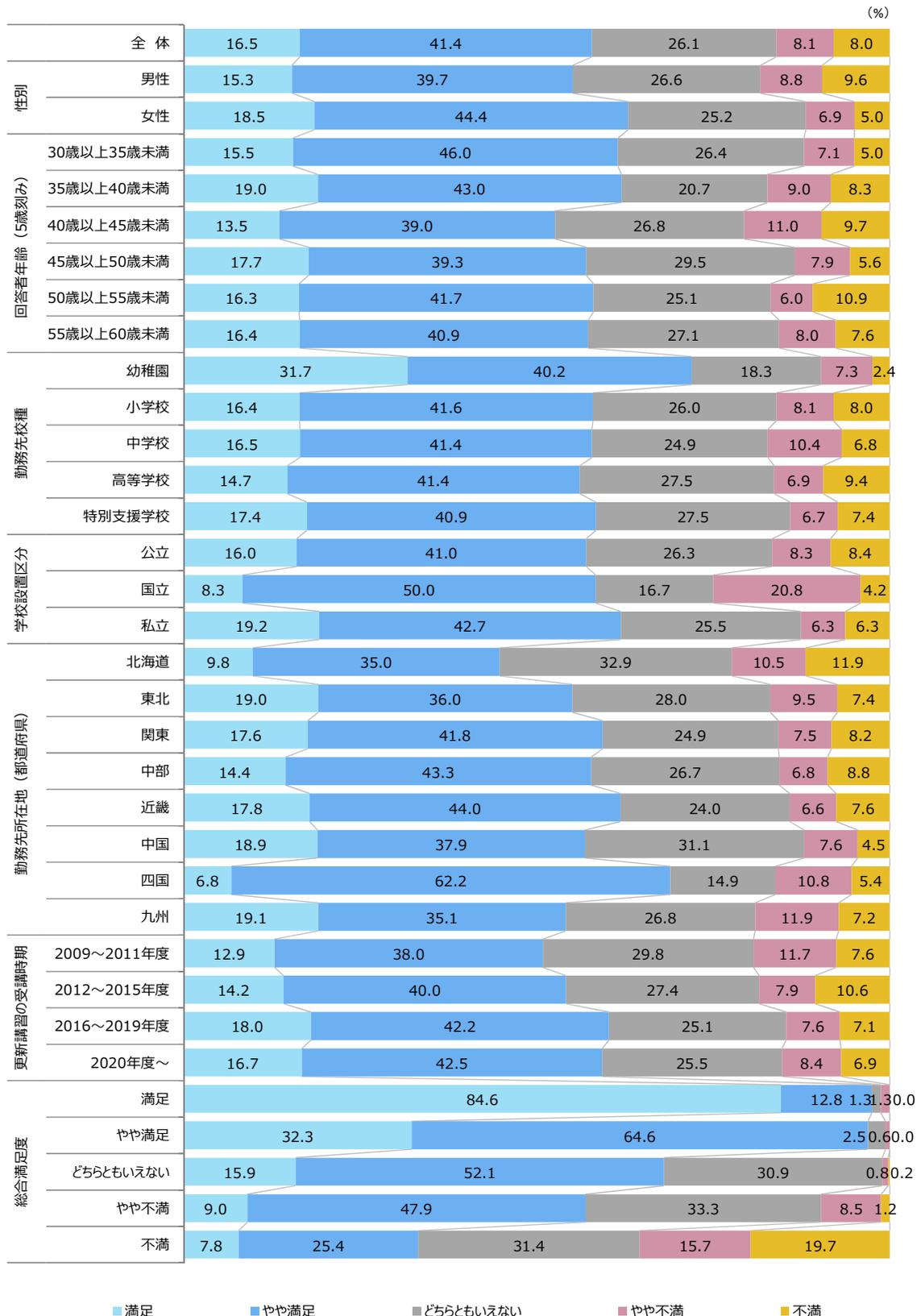
- ✓ 受講時期がコロナ前か後かでの、内容面の満足度の差は見られない。



- ✓ 受講方法別では、「対面とオンラインの併用」で受講した回答者で内容面の満足度がやや低い、「すべて対面」と「すべてオンライン」では「満足」の割合がほぼ同じ(17.2%、17.0%)になった。



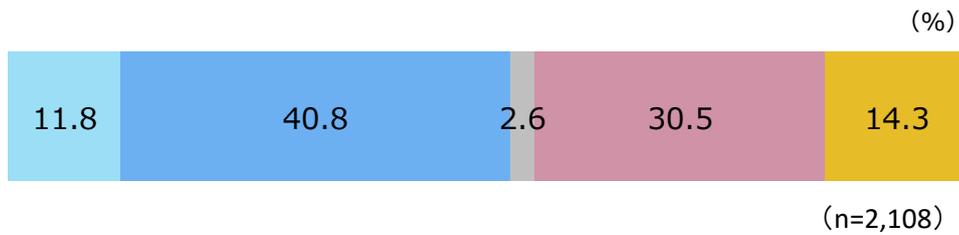
- ✓ 受講直後の内容面の満足度について、属性別では幼稚園教諭の満足度が高い。
- ✓ また、時間や費用の負担感等も含めた総合満足度と、本設問の関連性は高く、総合満足度で「満足」とした回答者は、その約 85%が受講直後の内容面の満足度についても「満足」と回答している。



⑦ 受講した講習は、最新の知識・技能を修得できる内容であったか

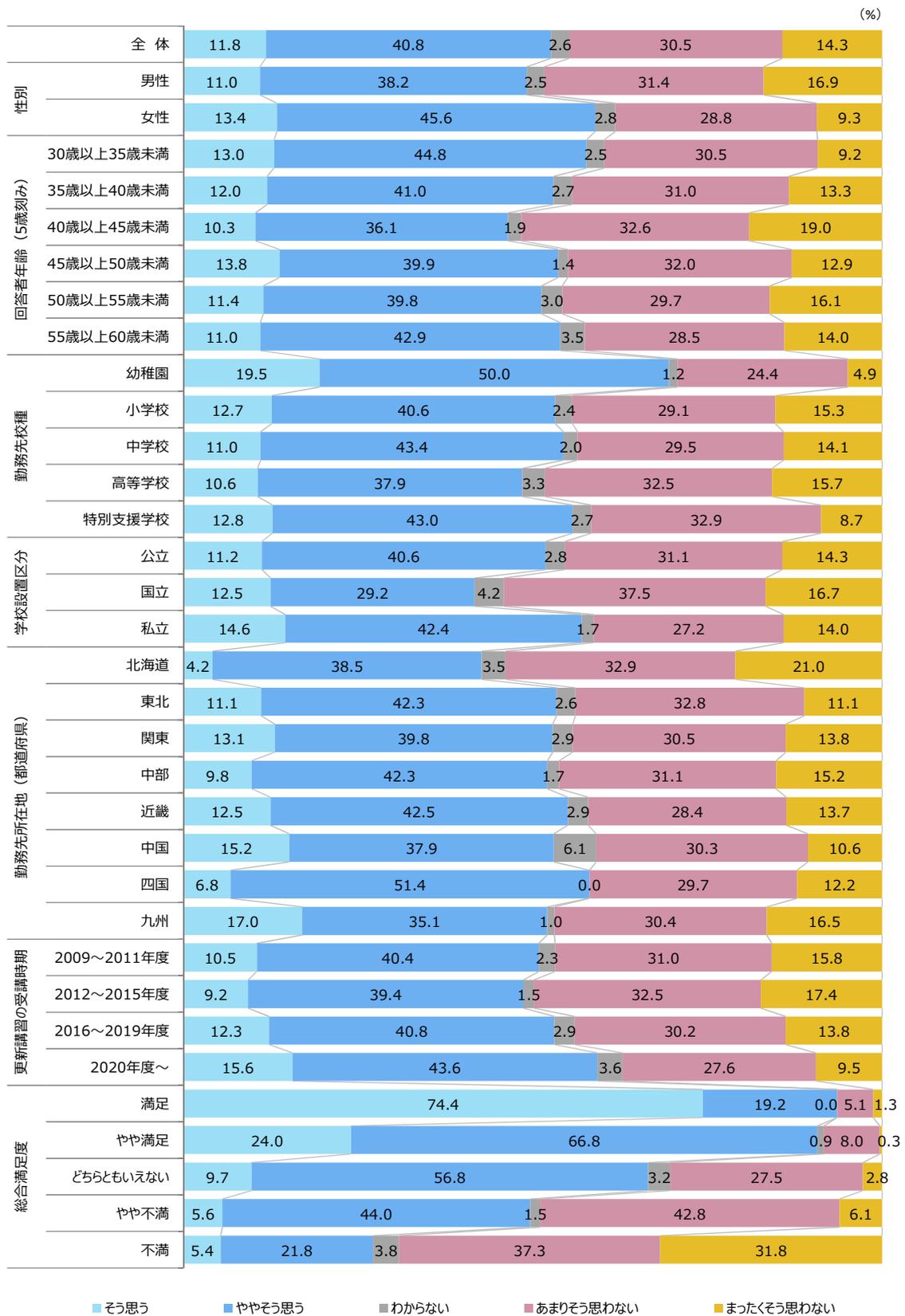
- ✓ 受講した講習が最新の知識・技能を修得できる内容であったかどうかについて、全体では、「そう思う」+「ややそう思う」が 52.6%と過半を占め、「あまりそう思わない」+「思わない」は 44.8%となった。

【最新の知識・技能の修得に寄与する内容かどうか】



■ そう思う ■ ややそう思う ■ わからない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない

- ✓ 属性別では、幼稚園教諭でやや高いものの、その他について大きな差は見られない。
- ✓ また、内容面の満足度と同様、本間についても総合満足度との関連が高くなっている。



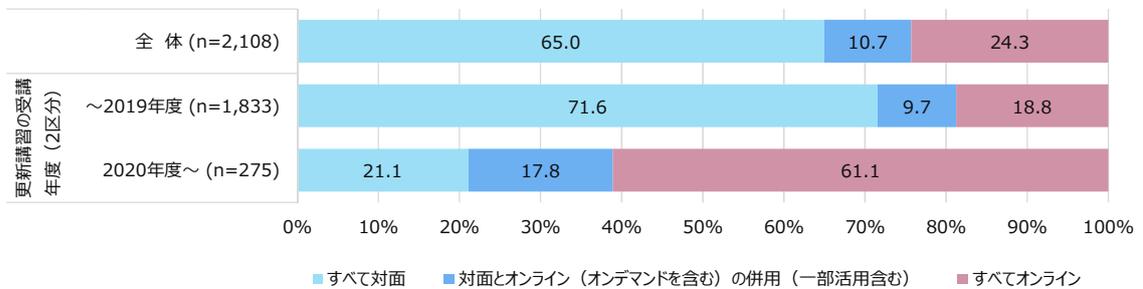
⑧ 受講した講習の受講方法

- ✓ 受講した講習の受講方法について尋ねたところ、「すべて対面」65.0%が圧倒的に高く、次いで、「すべてオンライン(オンデマンドを含む)」24.3%と続いた。

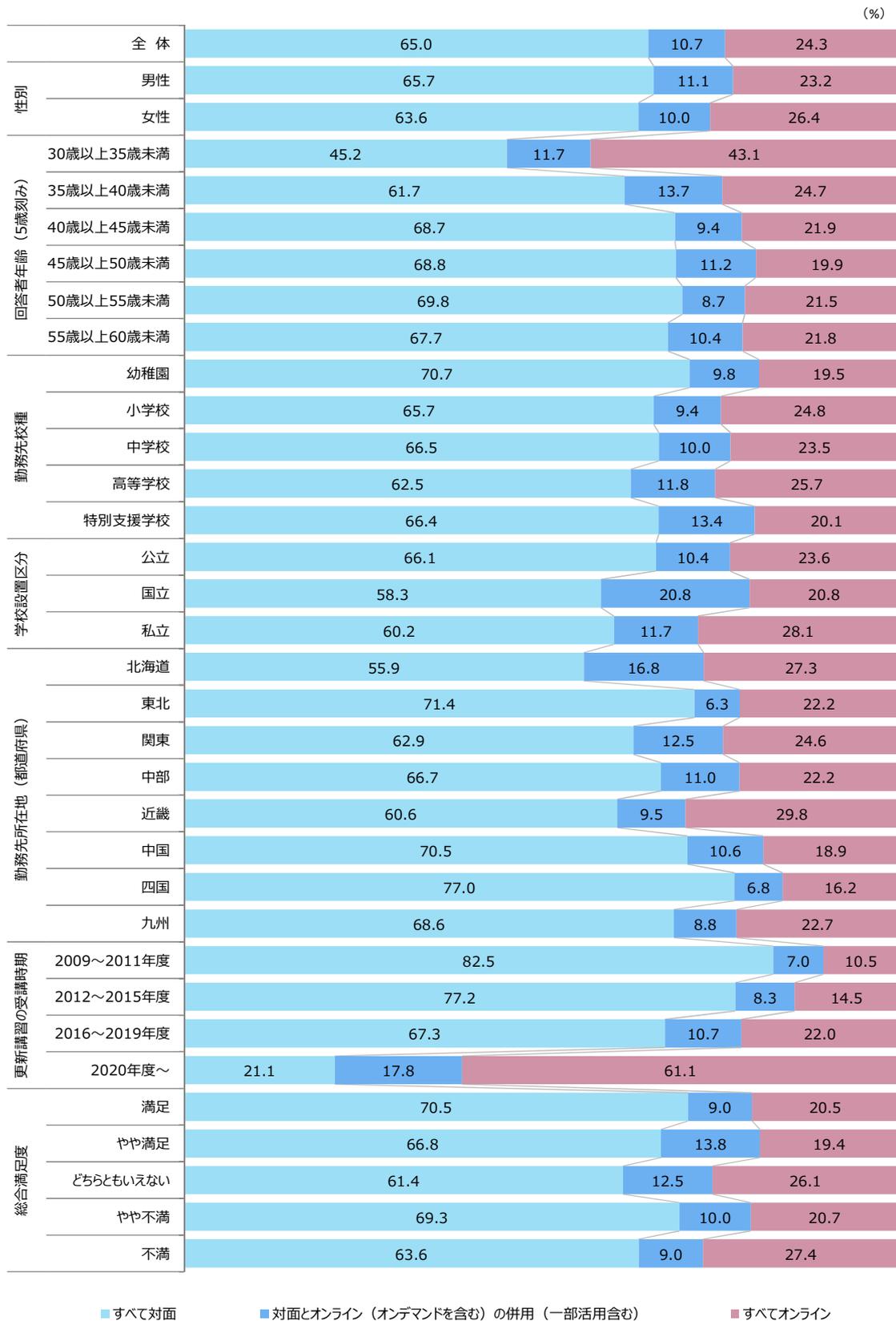
【受講した講習の受講方法】



- ✓ 受講時期がコロナ前か後かで比較すると、コロナ前(～2019 年度)は「すべて対面」が65.0%と主流であった一方で、コロナ後(2020 年度～)では「すべてオンライン」が61.1%でメインとなっている。



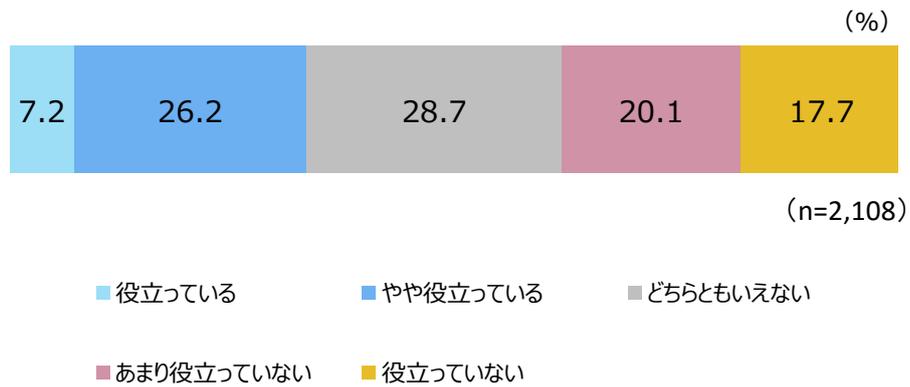
- ✓ 属性別では 35 歳未満の層で「すべてオンライン」での受講が目立つ。
- ✓ また、受講時期が新しくなるほど「すべてオンライン」での受講割合が高まっており、特に 2020 年度以降の受講者はコロナの影響もありオンラインの割合が急激に高くなっている。



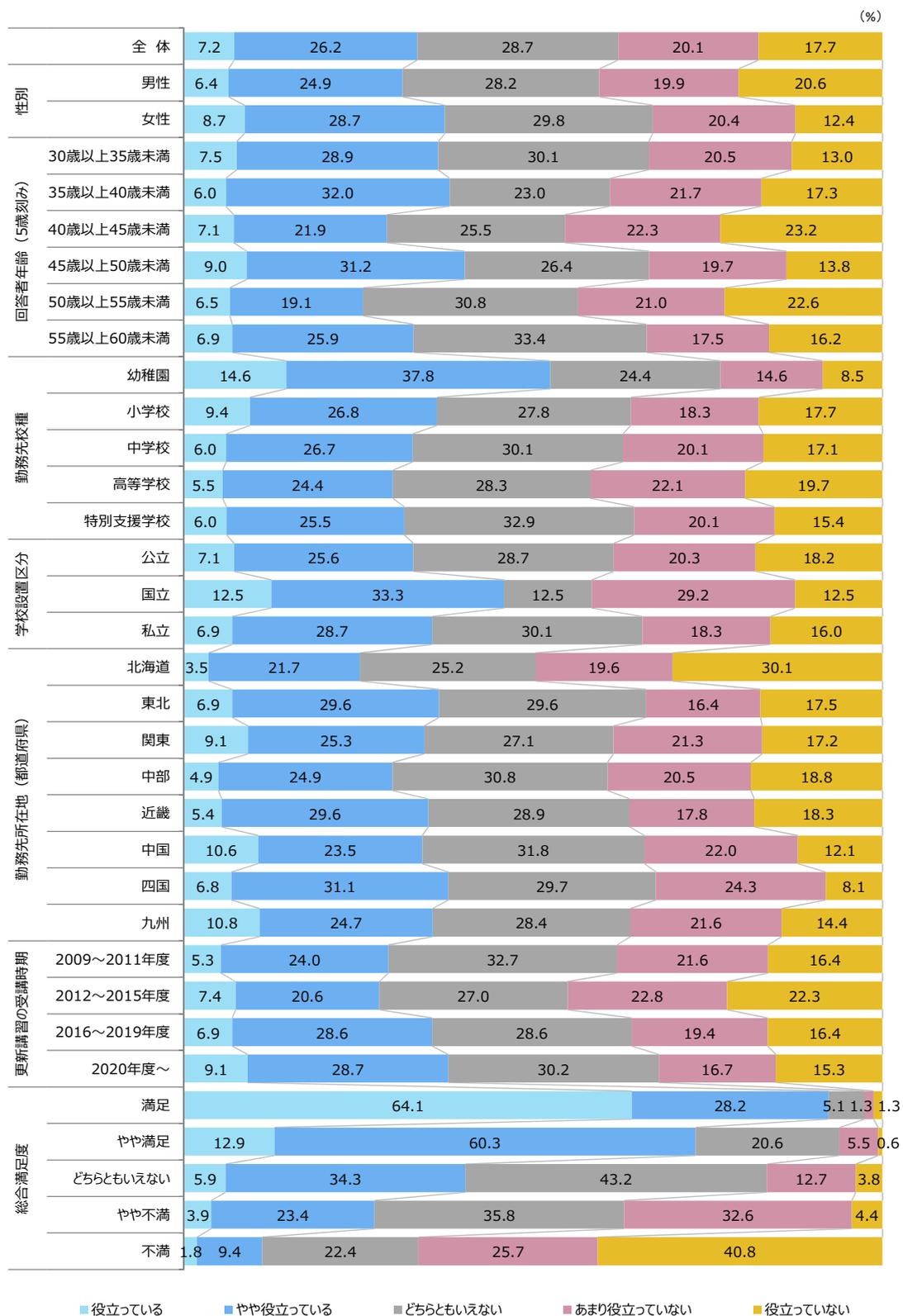
⑨ 受講した講習が現在の教育現場で役に立っているか

- ✓ 受講した講習が現在の教育現場で役に立っているかどうかについて、全体では、「役立っている」+「やや役立っている」と「どちらともいえない」、「あまり役立っていない」+「役立っていない」の3区分がそれぞれ3割前後と分散している。

【講習が教育現場で役に立っているか】



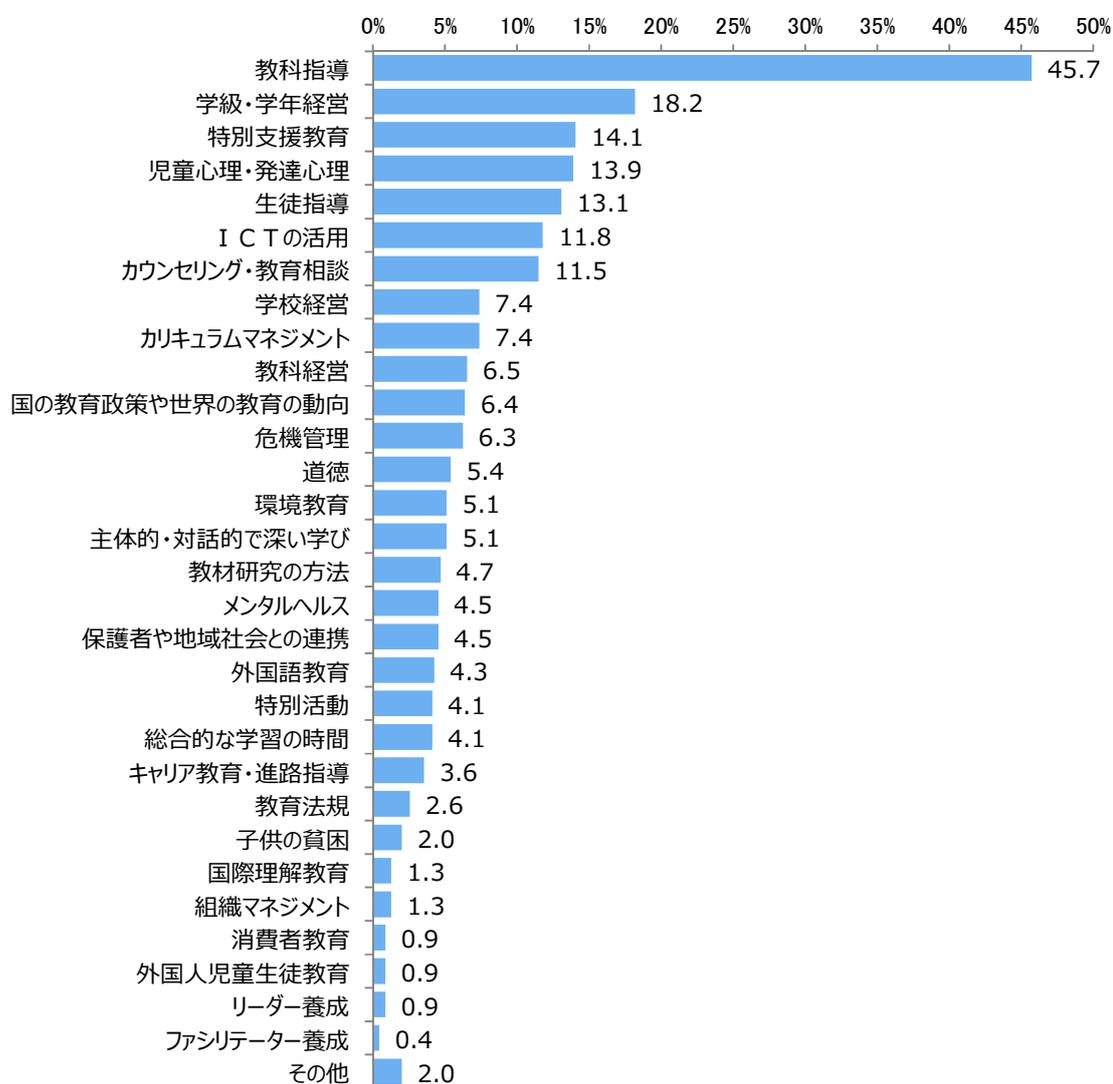
- ✓ 属性別では、幼稚園教諭において、現場で「役立っている」、「やや役立っている」との回答割合が高い。
- ✓ 回答者数が少ないため参考値ではあるが、国立学校の勤務者も「役立っている」との回答が高くなっている。
- ✓ また、現場で役立っている実感と更新講習の総合満足度の関連性も高い。



⑩ 教育現場で役立っている内容

- ✓ 前問で、受講した講習が現在の教育現場で「役に立っている」、「やや役に立っている」と回答した人に対して、その内容を複数回答で尋ねたところ、「教科指導」45.7%が圧倒的に高くなった。これに、「学級・学年経営」(18.2%)、「特別支援教育」(14.1%)、「児童心理・発達心理」(13.9%)、「生徒指導」(13.1%)と続く。
- ✓ その他の内容としては、薬物乱用防止教育, 食育, 防災教育, 発達障害, 専門知識, スポーツ科学、などが見られた。

【役立っている内容((回答割合が高い順))】





⑪ 教育現場で役立っていないと感じる理由

- ✓ 講習内容が普段の業務で役立っていないと感じる理由について、自由記述形式の任意回答で尋ね、結果を複数回答形式で分類・集計したものの上位 10 項目は以下のとおりである。
- ✓ 最も回答が多かった「現実との乖離・実践的な内容でないため」(399 件、52.3%)では、「現場では役に立たない講義内容ばかりだった」、「広い範囲の職種の人向けのため、広く浅い内容のものが多く」、「知識としては勉強になるが、現場で活かされるかは別物」などのコメントが見られた。
- ✓ 続いて多かった「希望した講義ではなかった・義務感で受講したため」(102 件、13.4%)では、「自分の受けた講義ばかりではないため」、「結局免許を更新するためにテストを簡単に受けられるものを選ぶから、内容が役に立つか立たないかは関係ないため」、「内容が案内と違っていった」などといったコメントがみられた。
- ✓ 「情報が古い・既に知っている内容だったため」(84 件、11.0%)では、「必修はすでに承知していた内容であった」、「講義内容で古くさいものがあつたり、パワーポイントの文章をそのまま読むだけのものがあつたりした」、「(教育分野の)変化が激しいのに追いついていけない」、などの記載があつた。
- ✓ 本問の結果に鑑みると、講習の開催者には、内容面で時流を捉えており現場に即した実践的な内容が求められており、講習受講前に自身が受講したい内容かどうか十分に判断できるだけの情報開示が求められているものと考えられる。
- ✓ なお、集計にあたっては、「なし」「特になし」といった回答を無回答と同一視することとし、回答数の分母には含めていない。

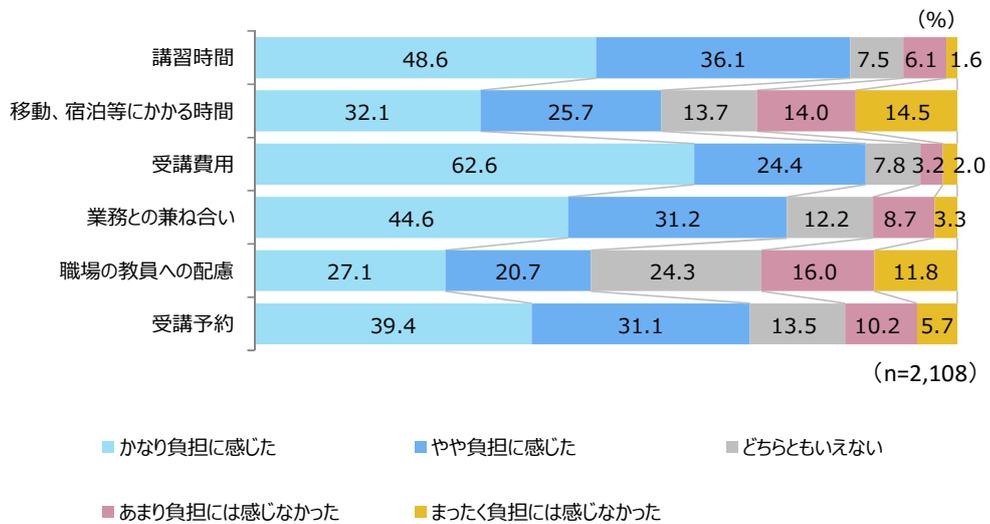
順位	回答分類	回答数	回答割合
1	現実との乖離があり、実践的な内容でないため	399	52.3%
2	希望した講義ではなかった・義務感で受講したため	102	13.4%
3	情報が古い・既に知っている内容だったため	84	11.0%
4	制度や講義自体に意味がない	58	7.6%
5	選択肢が少なかった・魅力的な講義がなかった	34	4.5%
6	内容を覚えていない	30	3.9%
7	多忙ゆえに現場で活かせる時間・機会がない	25	3.3%
8	知識としては有益であるが現場で活かせるかは別	14	1.8%
9	現場の経験に勝るものはない	10	1.3%
10	講義内容が専門的過ぎたため	8	1.0%

(注) 回答割合を算出するための分母 (763) には、無回答及び「なし」「特になし」等の回答を含まない。

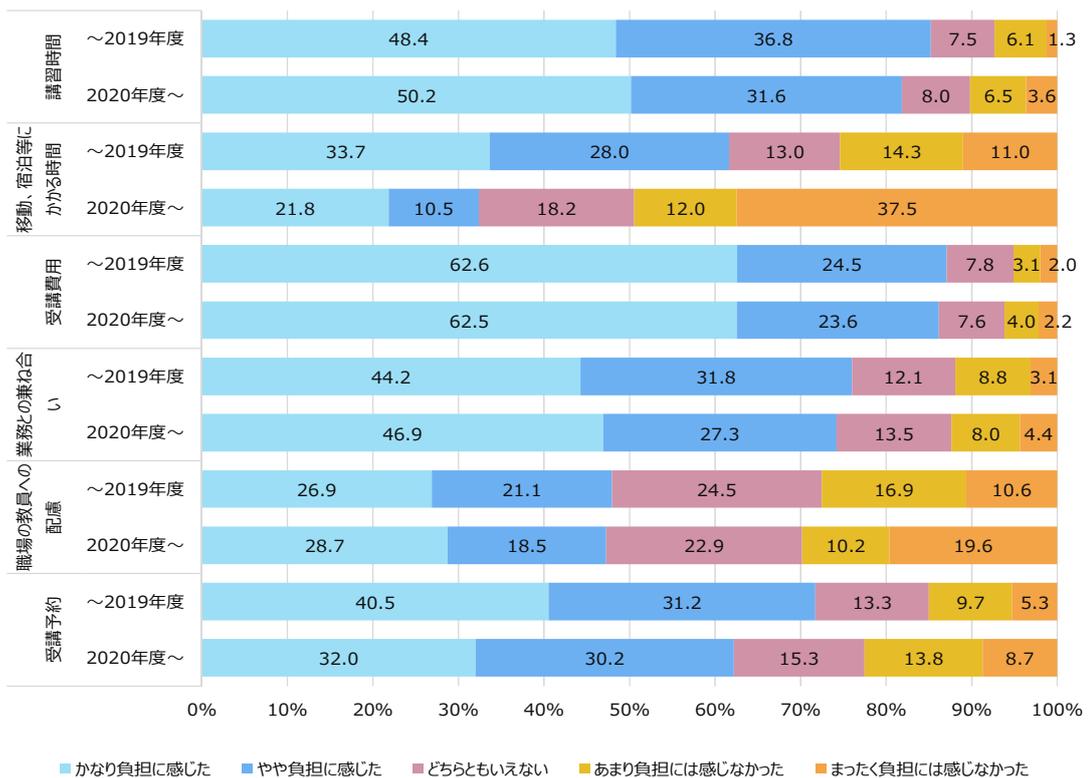
⑫ 受講にあたっての観点別の負担感

- ✓ 受講にあたっての負担感について「講習時間」、「移動、宿泊等にかかる時間」、「受講費用」、「業務との兼ね合い」、「職場の教員への配慮」、「受講予約」の6つの観点でその割合を尋ねたところ、「講習時間」および「講習費用」で特に負担感が大きく、「講習時間」では全体の48.6%が、「受講費用」では62.6%が「かなり負担に感じた」と回答している。
- ✓ 一方で「移動、宿泊にかかる時間」と「職場の教員への配慮」については、「まったく負担に感じなかった」との回答が他の項目と比較して高くなっている(それぞれ14.5%、11.8%)。

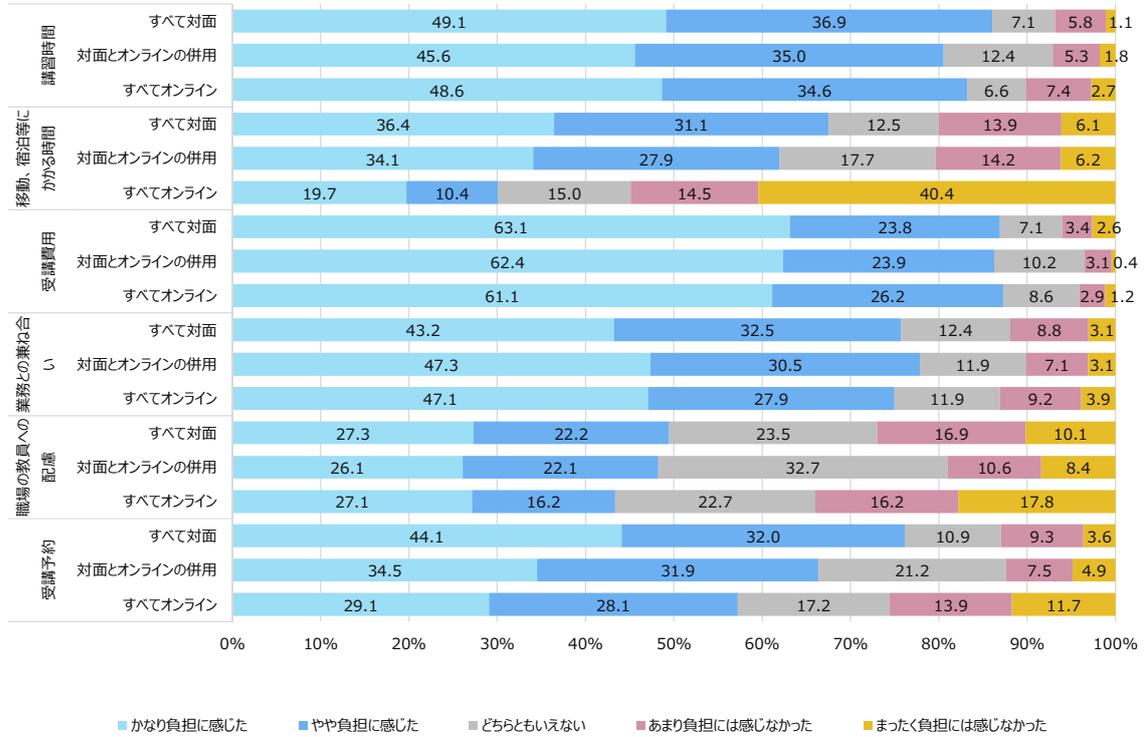
【受講にあたっての負担感】



- ✓ コロナ前と比較してコロナ後は各項目の負担感が同程度もしくはやや減少している。

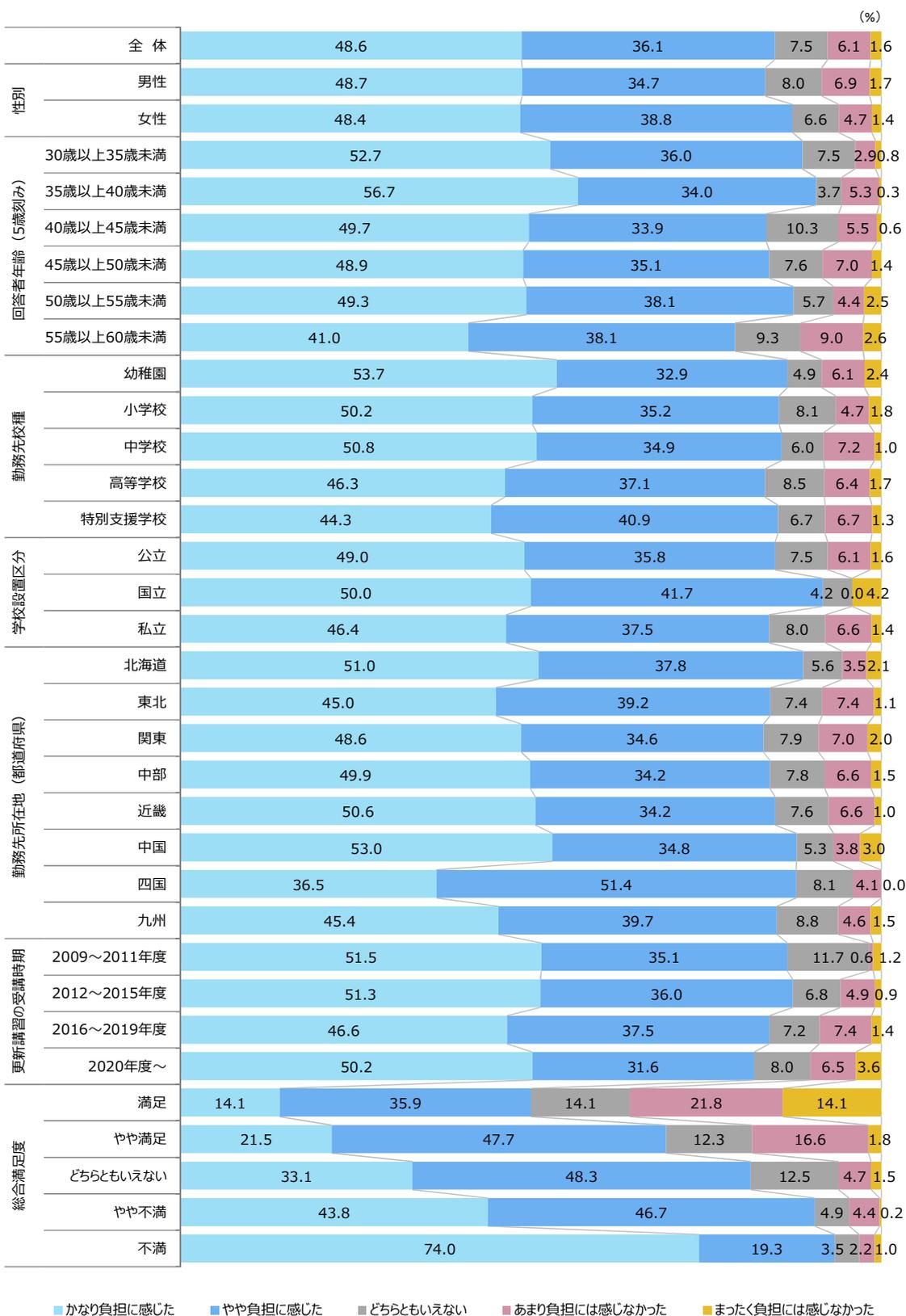


- ✓ 受講方法別では、「受講時間」や「受講費用」、「業務との兼ね合い」、「職場の教員への配慮」では負担感に差が見られない一方で、「移動、宿泊にかかる時間」と「受講予約」ではすべてオンラインで受講した回答者においてより負担感が少ない傾向にある。



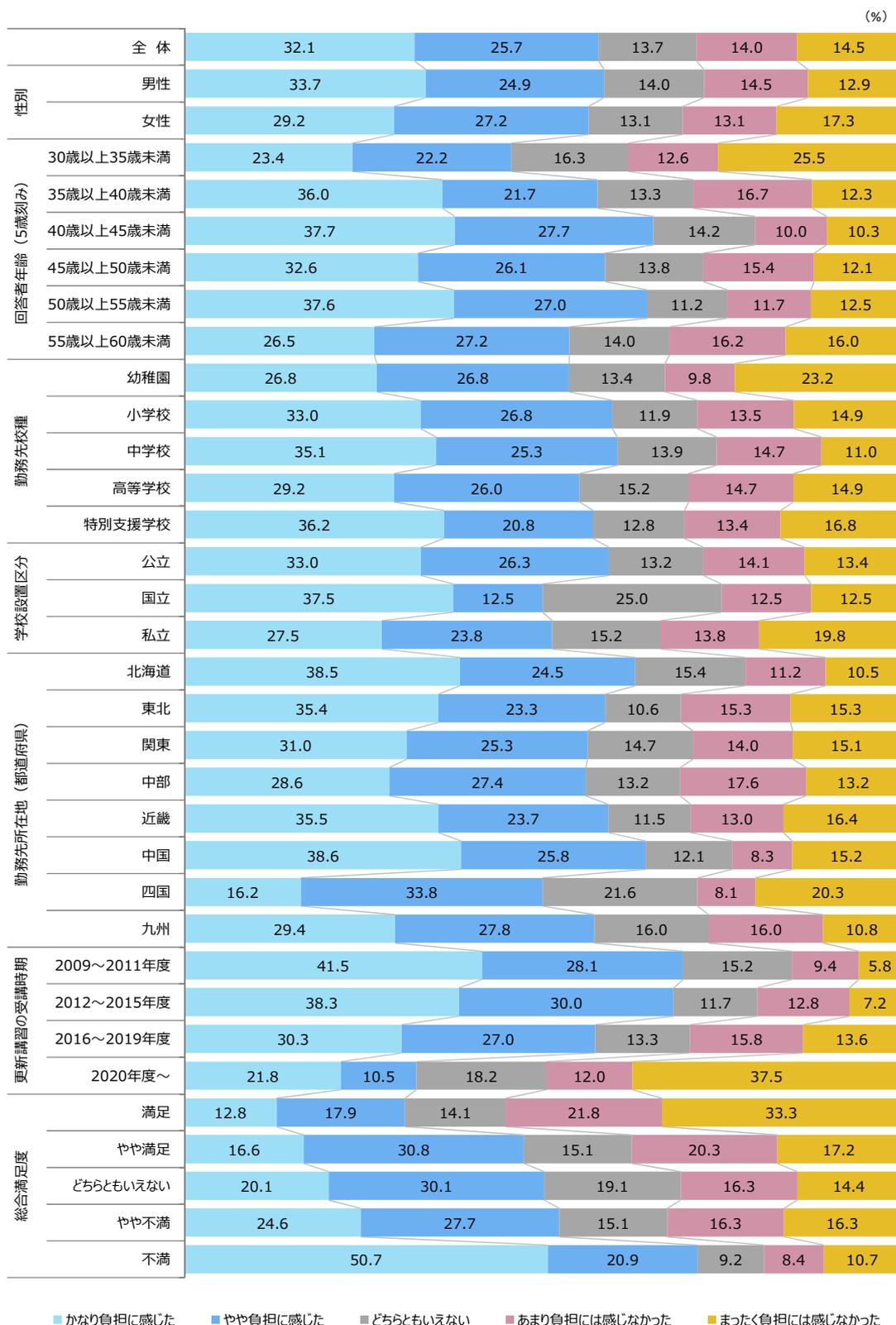
## ■受講の負担感(講習時間)

- ✓ 講習時間については、属性別の大きな差はみられないが、「55歳以上60歳未満」と「四国」で負担感がやや少なくなっている。
- ✓ 総合満足度が高い回答者は、講習時間について負担に感じている割合が低くなっている。



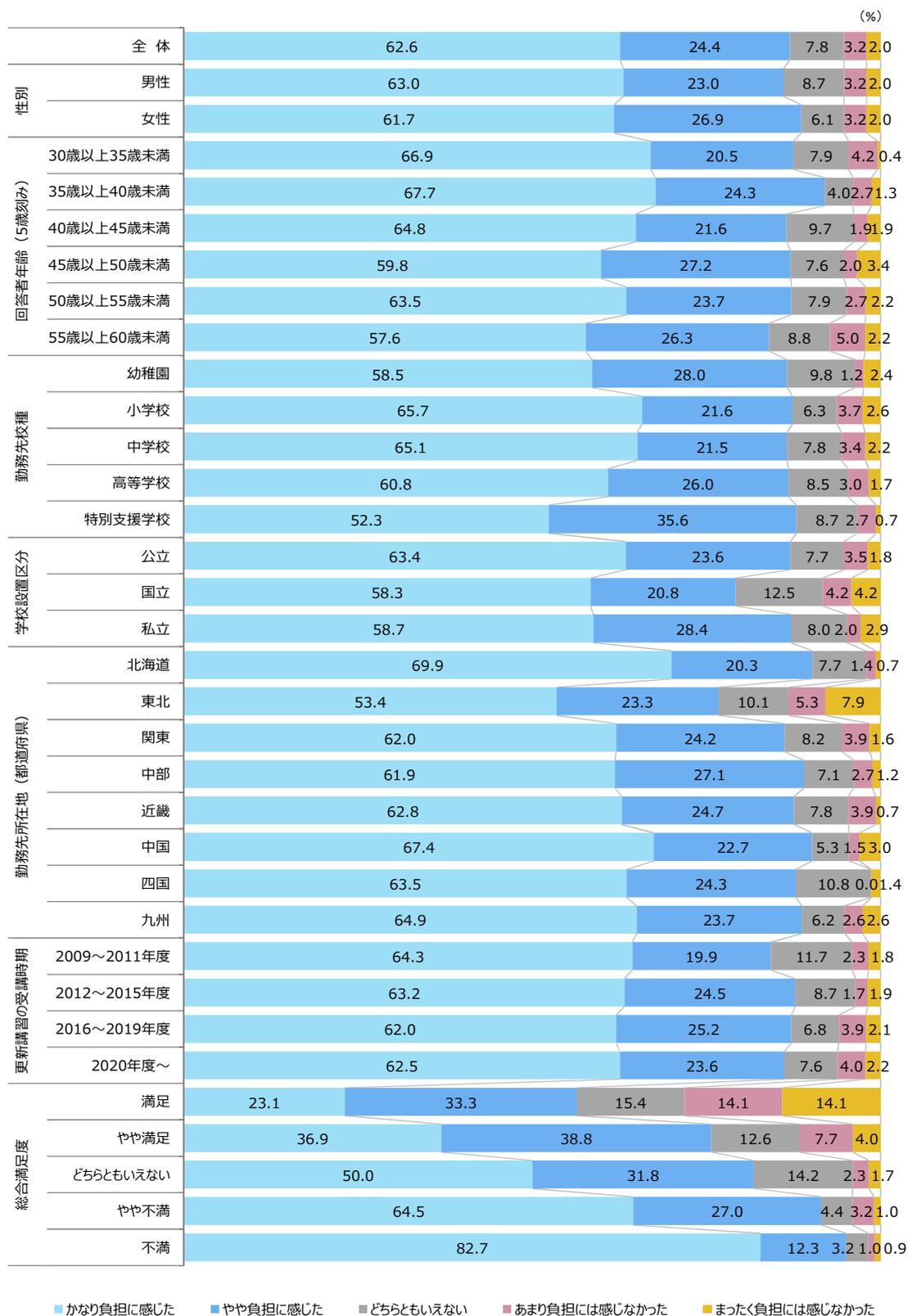
■受講の負担感(移動・宿泊等にかかる時間)

- ✓ 移動・宿泊等にかかる時間に対する負担感については、「四国」、「九州」を除く地域で高い。
- ✓ 受講年度が新しいほど負担感が減少している点については、オンライン講習の拡大等が影響している可能性が考えられる。



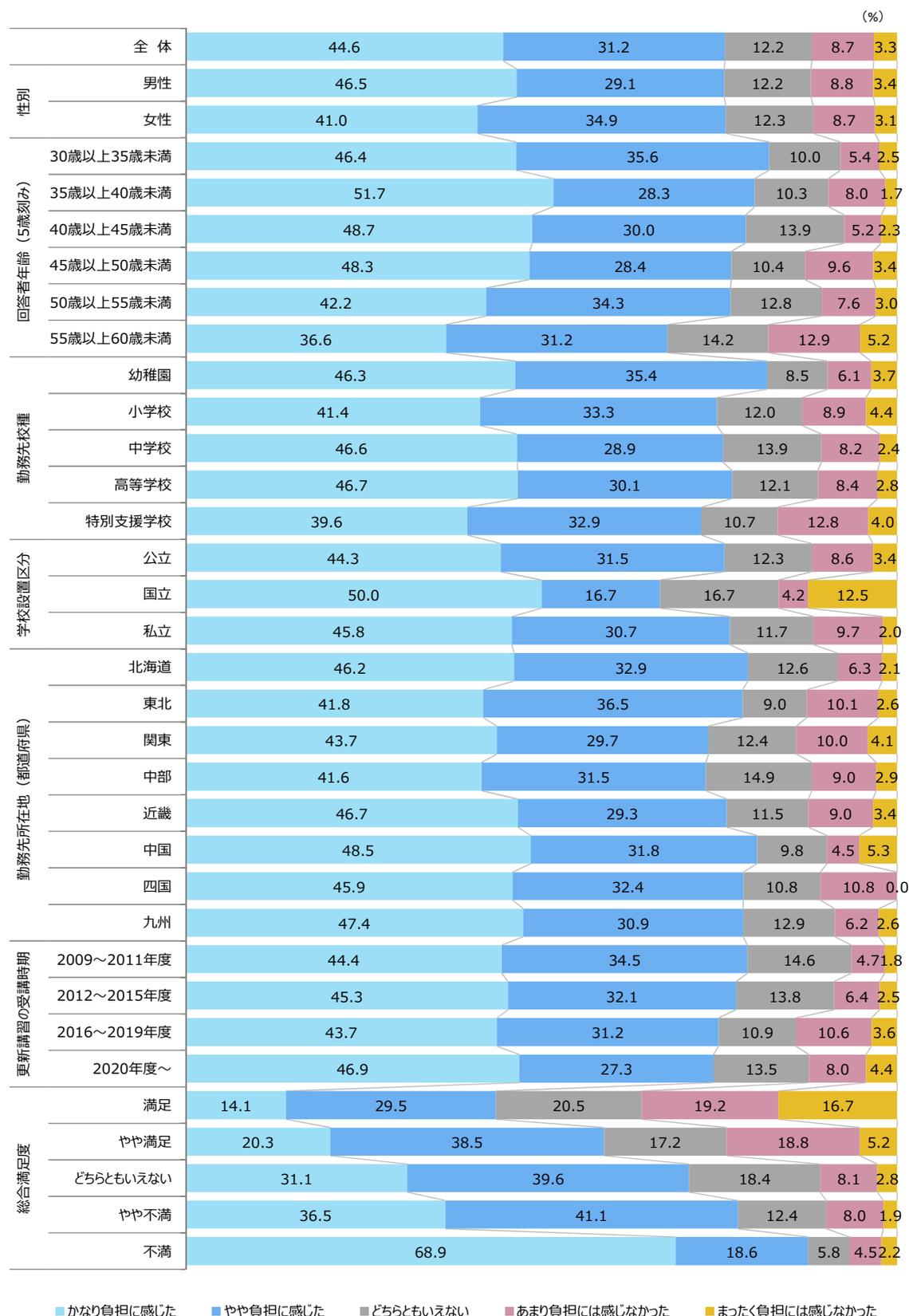
## ■受講の負担感(受講費用)

- ✓ 総合満足度で「不満」と回答した層は、受講費用について「かなり負担に感じた」とする割合が82.7%と、他の負担項目の中でもっとも高くなっており、講習費用の自己負担が満足度の低下を招いている可能性がある。



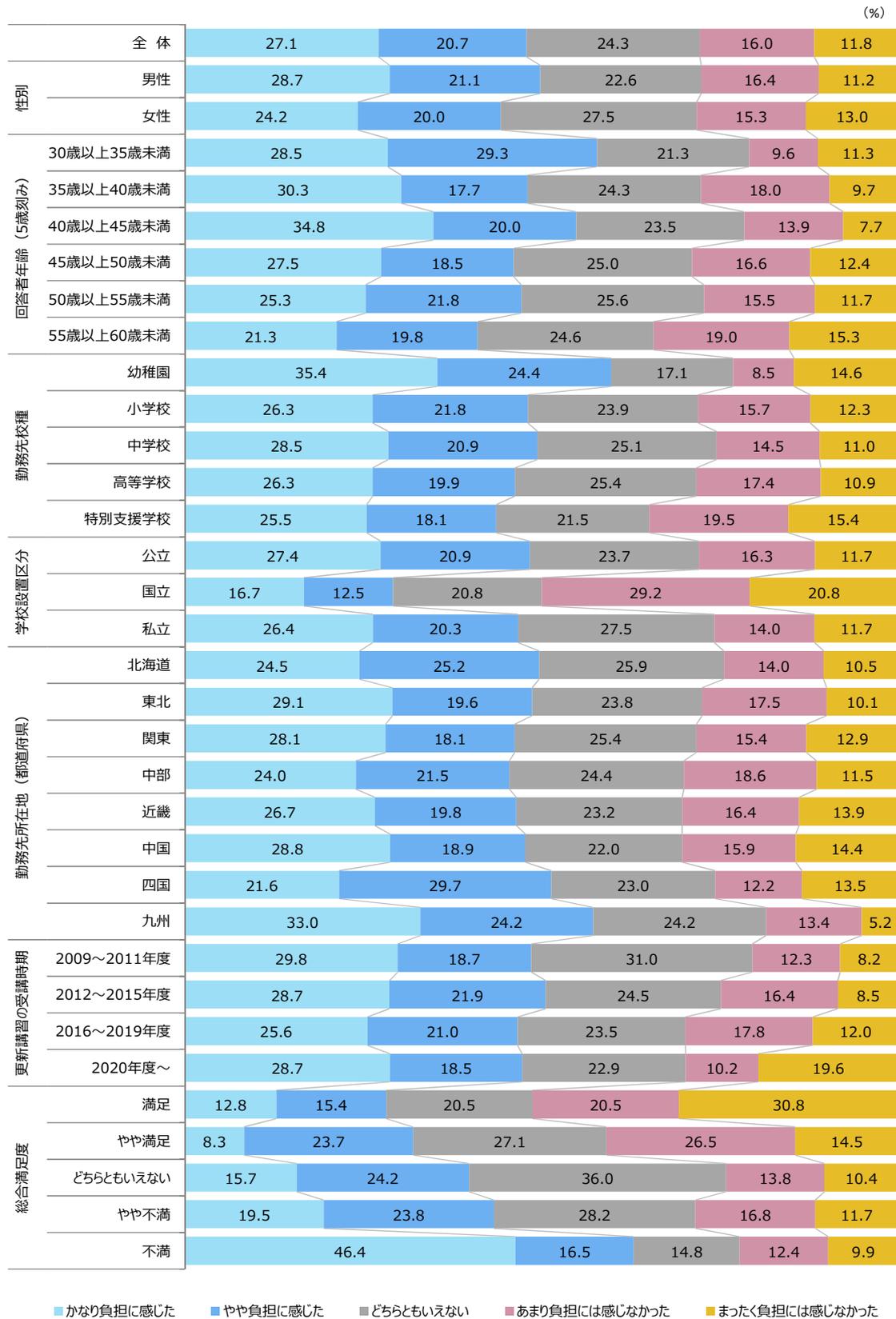
■受講の負担感(業務との兼ね合い)

✓ 「35歳以上40歳未満」の層で業務との兼ね合いの観点で「かなり負担に感じた」とする割合が最も高く(51.7%)、年代が上がるにつれて負担割合は若干下がっている。



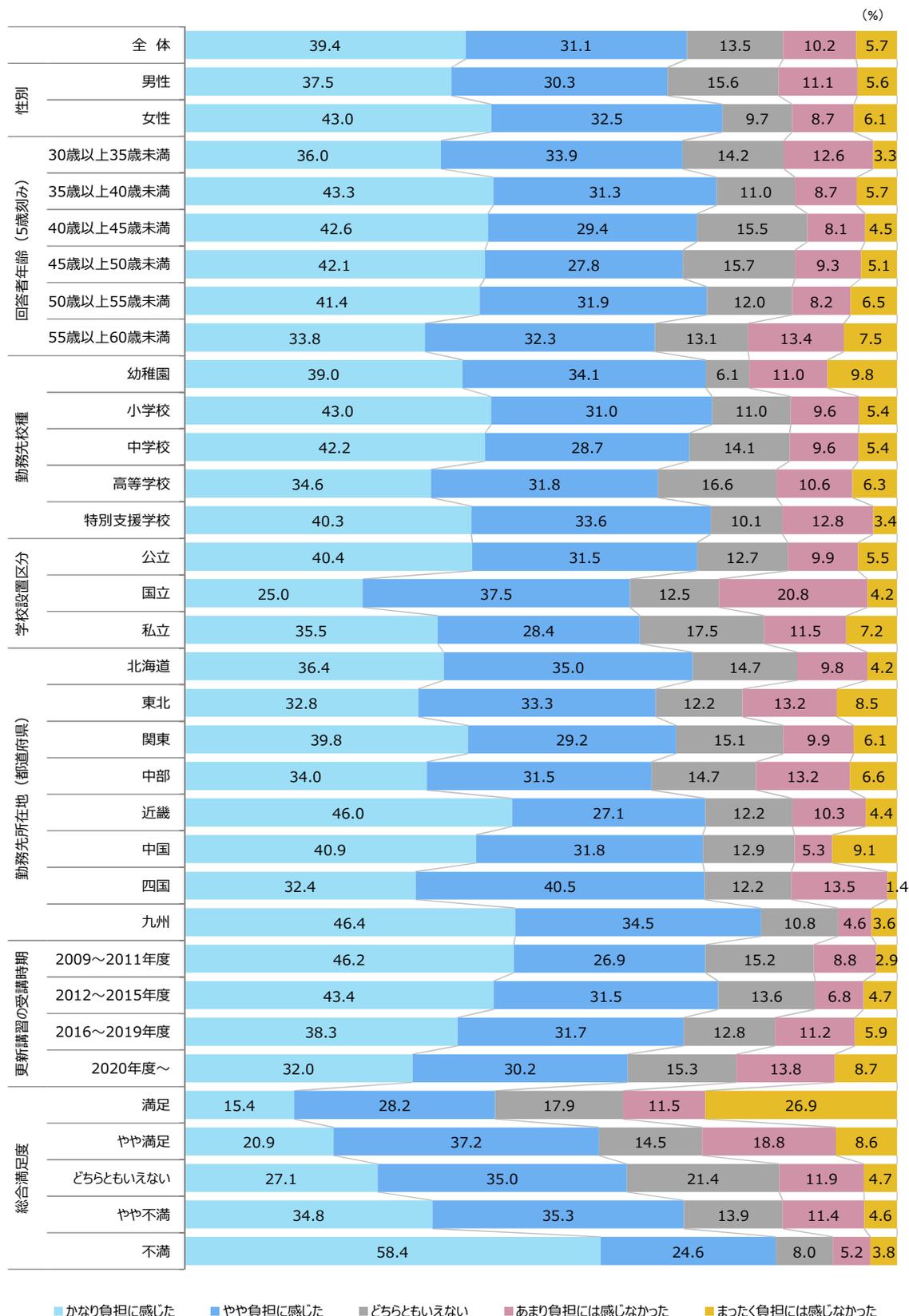
■受講の負担感(職場の教員への配慮)

✓ 幼稚園教諭による職場の教員への配慮が他の校種と比較して高くなっている。



## ■受講の負担感(受講予約)

- ✓ 更新講習の受講時期が新しくなるにつれ受講予約に係る負担感は減少しており、主催者側による手続の簡素化や受講枠の調整などの改善が図られてきていることがうかがえる。



⑬ 55歳時における免許状更新講習の受講負担

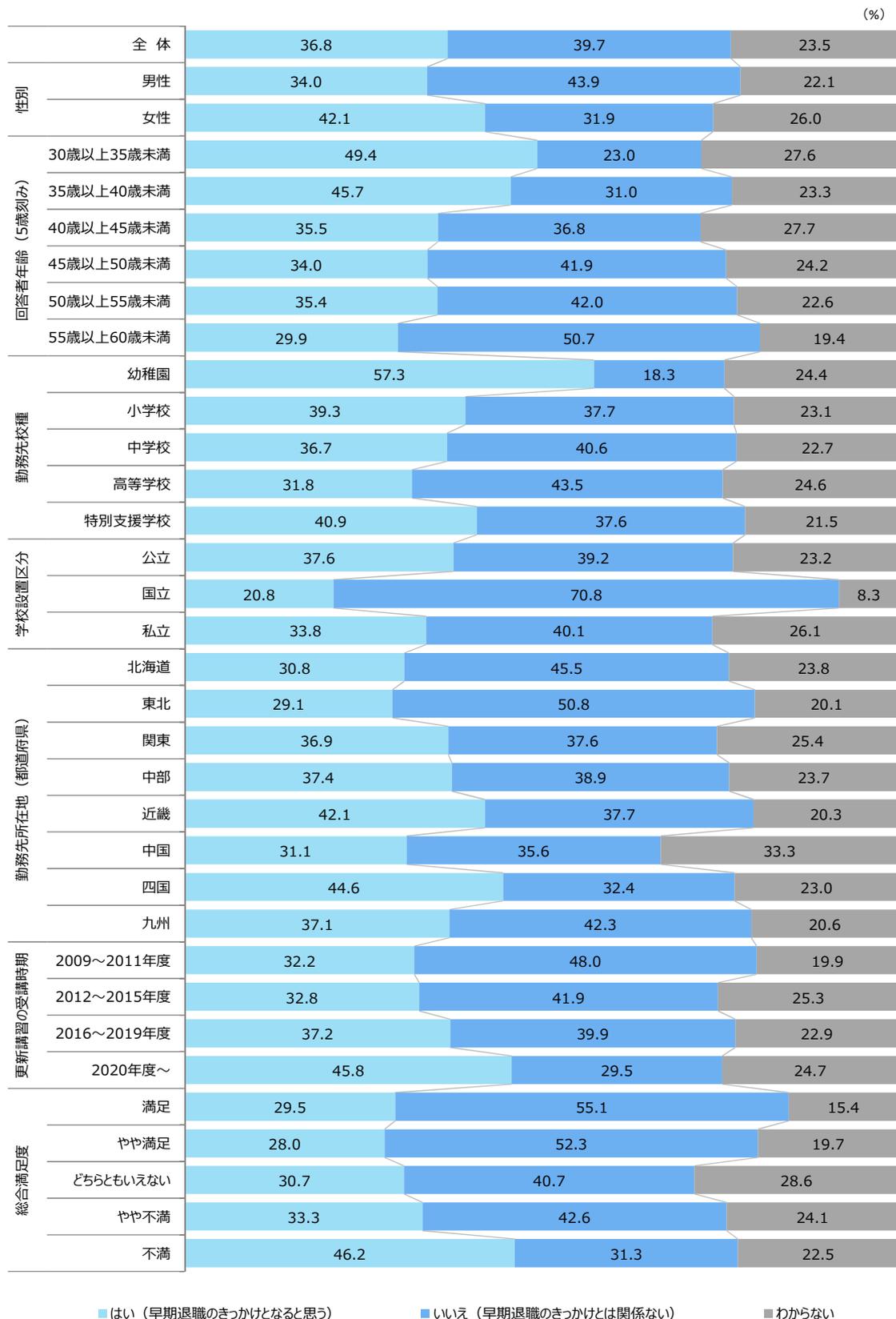
- ✓ 55歳時における免許状更新講習の受講負担が早期退職のきっかけになるかどうかを尋ねたところ、「はい(早期退職のきっかけとなると思う)」36.8%と「いいえ(早期退職のきっかけとは関係ない)」39.7%が同程度となった。

【早期退職のきっかけになるかどうか】



- はい (早期退職のきっかけとなると思う)
- いいえ (早期退職のきっかけとは関係ない)
- わからない

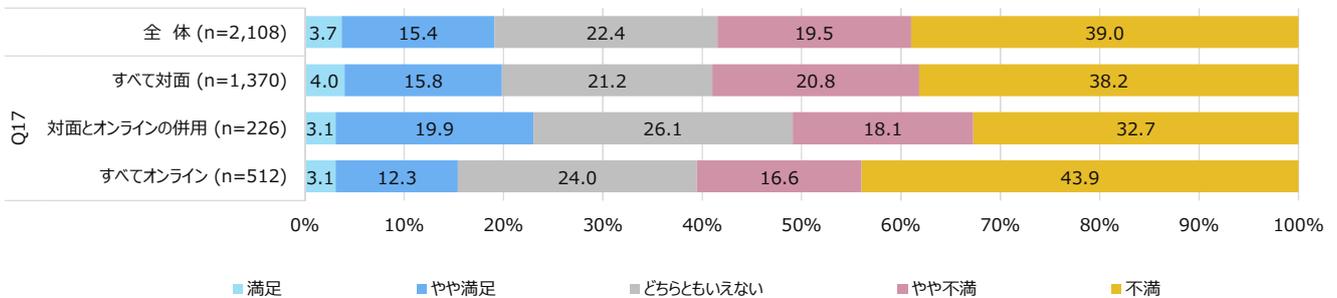
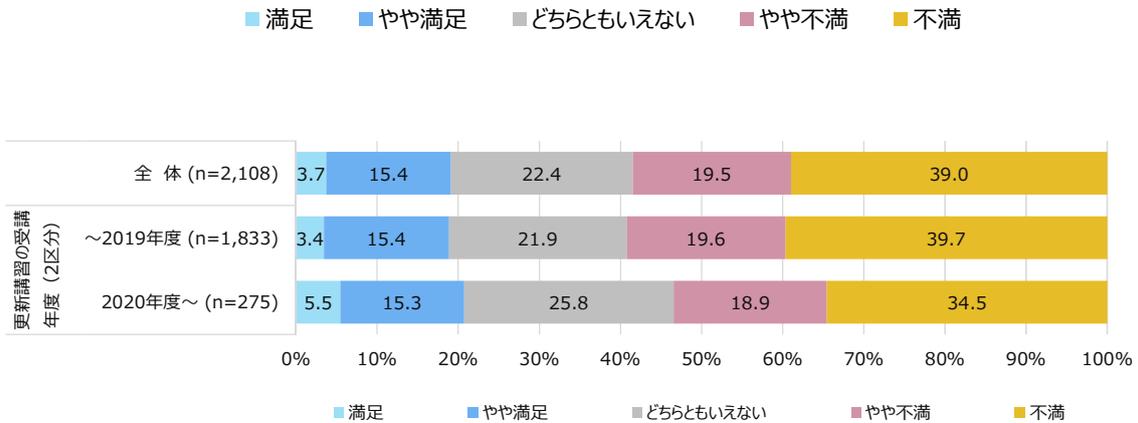
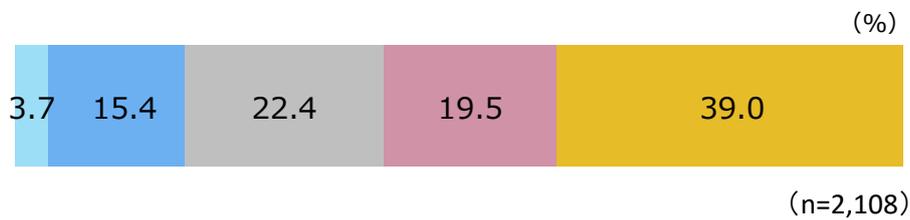
- ✓ 属性別では、幼稚園教諭でもっとも「早期退職のきっかけとなると思う」の割合が高いほか、年代が若いほど「早期退職のきっかけとなると思う」の回答割合が高い。



⑭ 免許状更新講習の総合的な満足度

- ✓ 全体では、「不満」が 39.0%と最も高く、「やや不満」も 19.5%と高い。これらネガティブな回答の合計が 58.5%と過半を占めている。一方で「満足」「やや満足」の合計は 19.1%にとどまる。
- ✓ 受講時期別では、水準は低いものの、コロナ前よりもコロナ後の方が「満足」の割合が高い(3.4%→5.5%)
- ✓ 受講方法別では、対面とオンラインの併用で受講した層で「満足」と「やや満足」の合計が他の受講方法の層と比較して高くなっている。一方で、すべてオンラインで受講した層の総合満足度が低くなっている(「不満」の割合が 43.9%と他の方法と比較して最も高い)。

【免許状更新講習の総合的な満足度】



- ✓ 総合満足度に影響を及ぼす要因を探るため、講習の負担感や選択にあたり重視する点等の設問の回答状況と総合満足度との相関<sup>1</sup>を分析した。
- ✓ 対象設問は Q15(各観点での負担の度合い)、Q4(各観点での重視する度合い)、Q5(各観点での希望合致度合い)とし、処理にあたっては選択肢の順番と回答の意味的順番を揃えるため、いずれの設問においてもニュートラルな選択肢(どちらともいえない、わからない)を選択肢の中心(3番目)に配置している。
- ✓ ここで、総合満足度との設問間クロス集計(次ページ参照)の結果より、Q15(各観点での負担の度合い)については、いずれの観点においても負担感が大きいほど総合満足度が低くなっていることが確認できる(すなわち、総合満足度が不満に向かうほど「かなり負担に感じた」の回答割合が高くなる)。このため、負担感と総合満足度との相関係数はいずれも負の値をとるが、影響の大小は係数の絶対値が表現していることとなる。
- ✓ 以上を踏まえ、Q15(負担の度合い)では、講習そのものの時間数(30時間)の負担感と総合満足度の低さが最も相関しており(相関係数▲0.44)、満足度低下の一因となっている可能性が高い。次いで、受講費用に対する負担感および業務との兼ね合いについてで相関が高くなっており(いずれも相関係数▲0.40)、総合満足度向上に向けては、これらについても負担軽減が図られる必要がある。
- ✓ その他、各負担の観点ほどではないものの、希望合致度合いでは「講義内容が希望通りではなかった」と回答した者ほど総合満足度が低くなっており(相関係数 0.25)、満足度の向上にあたっては内容面のいっそうの充実が図られる必要があると考えられる。

■検定結果(相関係数)

【記号の意味】  
 \*\* 1%水準で有意。  
 \* 5%水準で有意。  
 ・ 10%水準で有意。

質問	質問	選択肢	回答人数	スピアマン	
				相関係数	有意水準
Q17 免許状更新講習の総合的な満足度 (選択肢) 1. 満足 2. やや満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満	Q15_1 各観点での負担度合い(講習時間)	1. かなり負担に感じた	2108	-0.44	**
	Q15_2 各観点での負担度合い(移動、宿泊等にかかる時間)	2. やや負担に感じた	2108	-0.28	**
	Q15_3 各観点での負担度合い(受講費用)	3. どちらともいえない	2108	-0.40	**
	Q15_4 各観点での負担度合い(業務との兼ね合い)	4. あまり負担には感じなかった	2108	-0.40	**
	Q15_5 各観点での負担度合い(職場の教員への配慮)	5. まったく負担には感じなかった	2108	-0.28	**
	Q15_6 各観点での負担度合い(受講予約)		2108	-0.33	**
	Q4_1 受講する講習を選ぶにあたって重視する点(講義内容)	1. とても重視する	2108	0.17	**
	Q4_2 受講する講習を選ぶにあたって重視する点(受講会場)	2. やや重視する	2108	-0.10	**
	Q4_3 受講する講習を選ぶにあたって重視する点(受講時期)	3. わからない	2108	-0.07	**
	Q5_1 あなたは希望通りの講習を受講できたか(講義内容)	4. あまり重視しない	2108	0.25	**
Q5_2 あなたは希望通りの講習を受講できたか(受講会場)	1. すべて希望通りだった	2108	0.08	**	
Q5_3 あなたは希望通りの講習を受講できたか(受講時期)	2. ほとんど希望通りだった	2108	0.09	**	
		3. わからない			
		4. あまり希望通りではなかった			
		5. まったく希望通りではなかった			

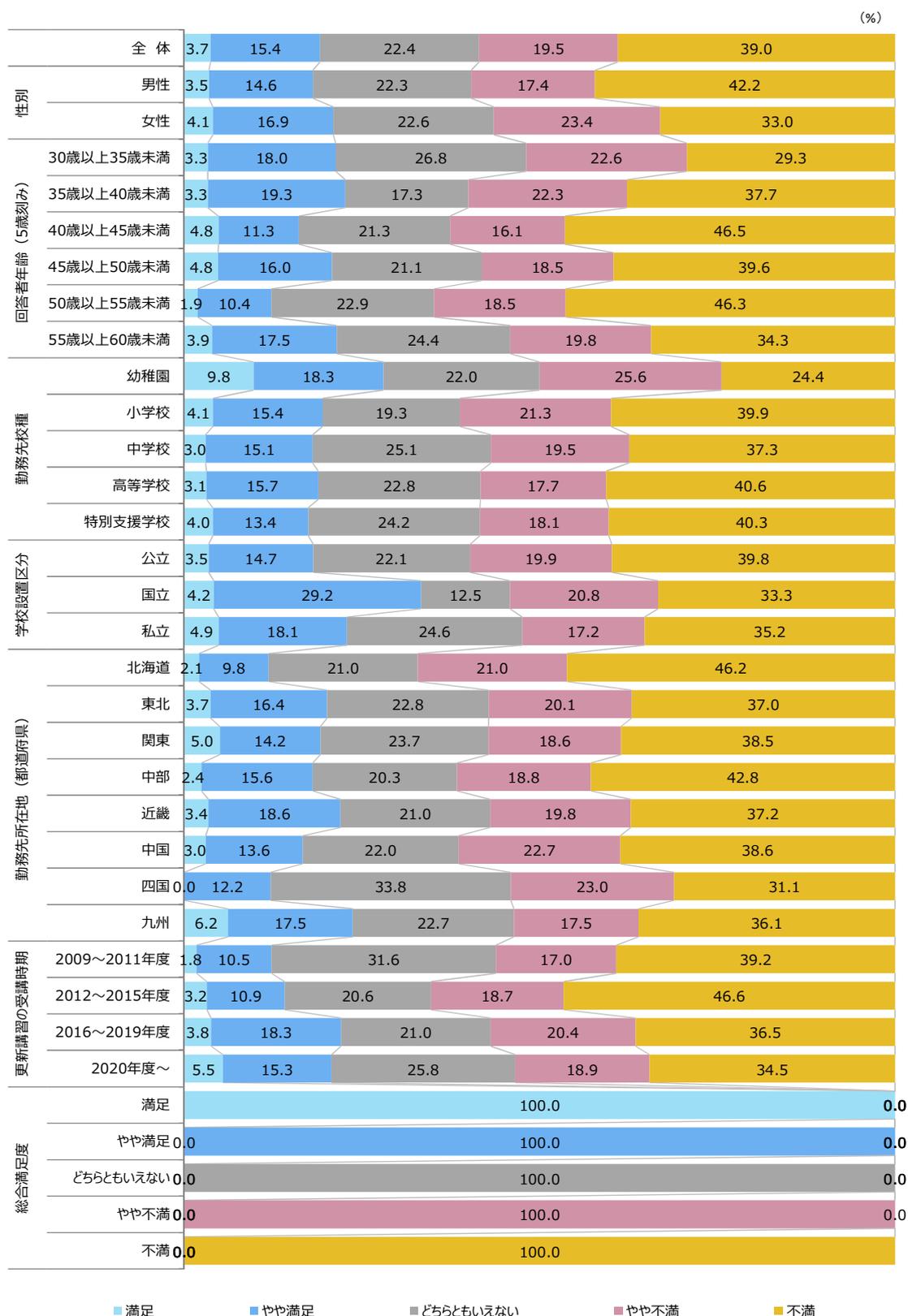
<sup>1</sup> 本分析で扱う変数はいずれも連続変数ではなく順序尺度を持つカテゴリ変数であることから、スピアマンの順位相関係数を採用している。ただし、(一般的な)ピアソン係数で処理しても設問内での順位は不変である。

(参考) 相関分析で取り上げた質問間のクロス集計結果(%表)

		該当数	かなり負担に感じた	やや負担に感じた	どちらともいえない	あまり負担には感じなかつた	まったく負担には感じなかつた
講習時間		2108	48.6	36.1	7.5	6.1	1.6
総合満足度	満足	78	14.1	35.9	14.1	21.8	14.1
	やや満足	325	21.5	47.7	12.3	16.6	1.8
	どちらともいえない	472	33.1	48.3	12.5	4.7	1.5
	やや不満	411	43.8	46.7	4.9	4.4	0.2
	不満	822	74.0	19.3	3.5	2.2	1.0
移動、宿泊等にかかる時間		2108	32.1	25.7	13.7	14.0	14.5
総合満足度	満足	78	12.8	17.9	14.1	21.8	33.3
	やや満足	325	16.6	30.8	15.1	20.3	17.2
	どちらともいえない	472	20.1	30.1	19.1	16.3	14.4
	やや不満	411	24.6	27.7	15.1	16.3	16.3
	不満	822	50.7	20.9	9.2	8.4	10.7
受講費用		2108	62.6	24.4	7.8	3.2	2.0
総合満足度	満足	78	23.1	33.3	15.4	14.1	14.1
	やや満足	325	36.9	38.8	12.6	7.7	4.0
	どちらともいえない	472	50.0	31.8	14.2	2.3	1.7
	やや不満	411	64.5	27.0	4.4	3.2	1.0
	不満	822	82.7	12.3	3.2	1.0	0.9
業務との兼ね合い		2108	44.6	31.2	12.2	8.7	3.3
総合満足度	満足	78	14.1	29.5	20.5	19.2	16.7
	やや満足	325	20.3	38.5	17.2	18.8	5.2
	どちらともいえない	472	31.1	39.6	18.4	8.1	2.8
	やや不満	411	36.5	41.1	12.4	8.0	1.9
	不満	822	68.9	18.6	5.8	4.5	2.2
職場の教員への配慮		2108	27.1	20.7	24.3	16.0	11.8
総合満足度	満足	78	12.8	15.4	20.5	20.5	30.8
	やや満足	325	8.3	23.7	27.1	26.5	14.5
	どちらともいえない	472	15.7	24.2	36.0	13.8	10.4
	やや不満	411	19.5	23.8	28.2	16.8	11.7
	不満	822	46.4	16.5	14.8	12.4	9.9
受講予約		2108	39.4	31.1	13.5	10.2	5.7
総合満足度	満足	78	15.4	28.2	17.9	11.5	26.9
	やや満足	325	20.9	37.2	14.5	18.8	8.6
	どちらともいえない	472	27.1	35.0	21.4	11.9	4.7
	やや不満	411	34.8	35.3	13.9	11.4	4.6
	不満	822	58.4	24.6	8.0	5.2	3.8

		該当数	とても重視する	やや重視する	わからない	あまり重視しない	まったく重視しない
講習内容		2108	40.7	37.8	1.3	14.0	6.2
総合満足度	満足	78	66.7	25.6	0.0	5.1	2.6
	やや満足	325	50.8	40.6	0.3	7.7	0.6
	どちらともいえない	472	37.9	49.2	2.3	13.8	2.8
	やや不満	411	38.9	42.3	0.2	14.6	3.9
	不満	822	36.7	32.5	1.8	17.2	11.8
受講会場		2108	61.3	29.7	1.0	6.0	1.9
総合満足度	満足	78	73.1	24.4	0.0	2.6	0.0
	やや満足	325	51.7	38.8	0.0	8.6	0.9
	どちらともいえない	472	55.3	32.6	2.8	8.1	1.3
	やや不満	411	59.6	32.4	0.2	5.4	2.4
	不満	822	68.4	23.7	0.9	4.4	2.7
受講時期		2108	57.4	32.3	1.1	7.2	2.0
総合満足度	満足	78	61.5	26.9	0.0	9.0	2.6
	やや満足	325	52.0	37.5	0.0	9.2	1.2
	どちらともいえない	472	51.9	35.4	2.8	9.3	0.6
	やや不満	411	57.7	35.5	0.2	4.1	2.4
	不満	822	62.3	27.3	1.1	6.6	2.8
講習内容		2108	28.8	42.8	2.2	20.1	6.1
総合満足度	満足	78	62.8	33.3	1.3	2.6	0.0
	やや満足	325	33.5	57.2	1.2	7.7	0.3
	どちらともいえない	472	28.8	51.1	3.4	15.5	1.3
	やや不満	411	24.1	47.9	0.7	24.3	2.9
	不満	822	26.0	30.8	2.7	27.3	13.3
受講会場		2108	49.2	36.7	1.5	9.5	3.0
総合満足度	満足	78	79.5	17.9	1.3	1.3	0.0
	やや満足	325	51.7	40.3	0.9	6.2	0.9
	どちらともいえない	472	44.9	42.8	3.2	7.8	1.3
	やや不満	411	47.2	39.4	0.5	10.7	2.2
	不満	822	48.8	32.2	1.3	12.0	5.6
受講時期		2108	46.0	39.2	1.6	9.8	3.4
総合満足度	満足	78	67.9	25.6	0.0	5.1	1.3
	やや満足	325	51.1	40.9	1.2	5.2	1.5
	どちらともいえない	472	42.4	43.2	3.0	10.4	1.1
	やや不満	411	43.6	44.8	0.5	8.8	2.4
	不満	822	45.1	34.8	1.6	12.3	6.2

- ✓ 属性別では、幼稚園教諭で「満足」が 9.8%、「やや満足」が 18.3%と他の校種と比較して高くなっている。その他の校種については大きな差は見られない。
- ✓ 年代別の満足度は「50 歳以上 55 歳未満」で低いものの、傾向は見られず分散している。
- ✓ 受講時期別では、時期が新しいほど若干満足度が向上しているものの、水準は低い。



⑮ 教員免許更新制全般に対する自由意見

- ✓ 教員免許更新制全般に対する意見を自由記述形式の任意回答で尋ね、結果を複数回答形式で分類・集計したものの上位 10 項目は以下のとおりである。
- ✓ 「制度自体を廃止すべき・免許更新制度に意義を感じない」という意見が 50.4%と半数以上を占めた。具体的なコメントでは、「研修がたくさんあるので、必要ないと思う」や「経済的な負担、時間的な負担、受講内容の有効性など様々な問題がある免許更新制は即刻廃止すべきだと考える」、「個人の負担感が増し、現場の負担も増える。無くしてほしい」などといった意見がみられた。
- ✓ 次いで多く挙げた「受講料の支出(交通費含む)が負担・受講料が高い」についても、回答があった 1,693 名の 19.8%にあたる 335 名から指摘があった。その後も、時間的な負担や肉体的な負担等に関する内容が続いている。
- ✓ また、その他の内容としては「私は育休中だった為業務への負担はなかったが、対面式の受講となると、託児を考えなければならず、拘束時間等を考えても、とても厳しいものがあった」といった育児をする教員への配慮を求める意見や、「どうせしなければならないなら、10年に1回30時間の講習を受けるよりも、日頃からの講習機会を充実させてほしい」といった、受講時期の自由化・平準化を求める意見がみられた。
- ✓ なお、集計では「なし」「特になし」といった回答を無回答と同一視することとし、回答数の分母に含めていない。

順位	回答分類	回答数	回答割合
1	制度自体を廃止すべき・免許更新制度に意義を感じない	853	50.4%
2	受講料の支出(交通費含む)が負担・受講料が高い	335	19.8%
3	多忙の要因・負担増の要因(現場での負担増も含む)	140	8.3%
4	時間・肉体的・精神的な負担(費用以外)	115	6.8%
5	講義内容の充実化	92	5.4%
6	受講内容や受講時期・場所の選択肢を増やして欲しい	82	4.8%
7	教員不足の要因となっている	78	4.6%
8	受講免除の基準を見直して欲しい 受講すべき人のみが受講すべき(復職・不適格者など)	70	4.1%
9	(他の職業と比較して)教員に更新制があるのは納得できない	65	3.8%
10	働き方改革に逆行している(休日出勤など含む)	50	3.0%

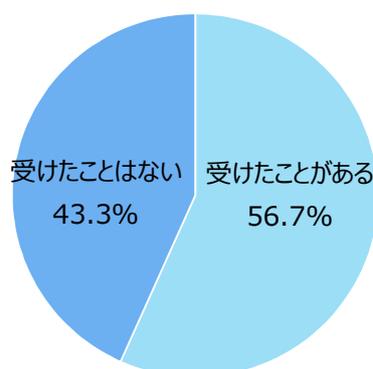
(注) 回答割合を算出するための分母(1,693)には、無回答及び「なし」「特になし」等の回答を含まない。

#### (4) 現職研修について

##### ① 現職研修の受講経験有無

- ✓ 現職研修(中堅教諭等資質向上研修(以下「中堅研」という)(10 年次研修)やキャリアアップ研修等)の受講経験の有無を確認したところ、「受けたことがある」56.7%が若干高いが「受けたことはない」も 43.3%と同程度となった。以降の設問は、本問で研修を「受けたことがある」と回答した人にものみを対象としている。

【研修の受講有無】



##### ② 講習と研修の内容重複の有無

- ✓ 相互認定講習(※)を除き、免許状更新講習と現職研修(中堅研(10 年次研修)やキャリアアップ研修等)の内容に重複があったかを尋ねたところ、全体では、「ほとんど重複していた」は 8.8%にとどまり、「一部重複していた」(33.1%)と「あまり重複はなかった」(27.6%)の割合がそれぞれ高くなっている。

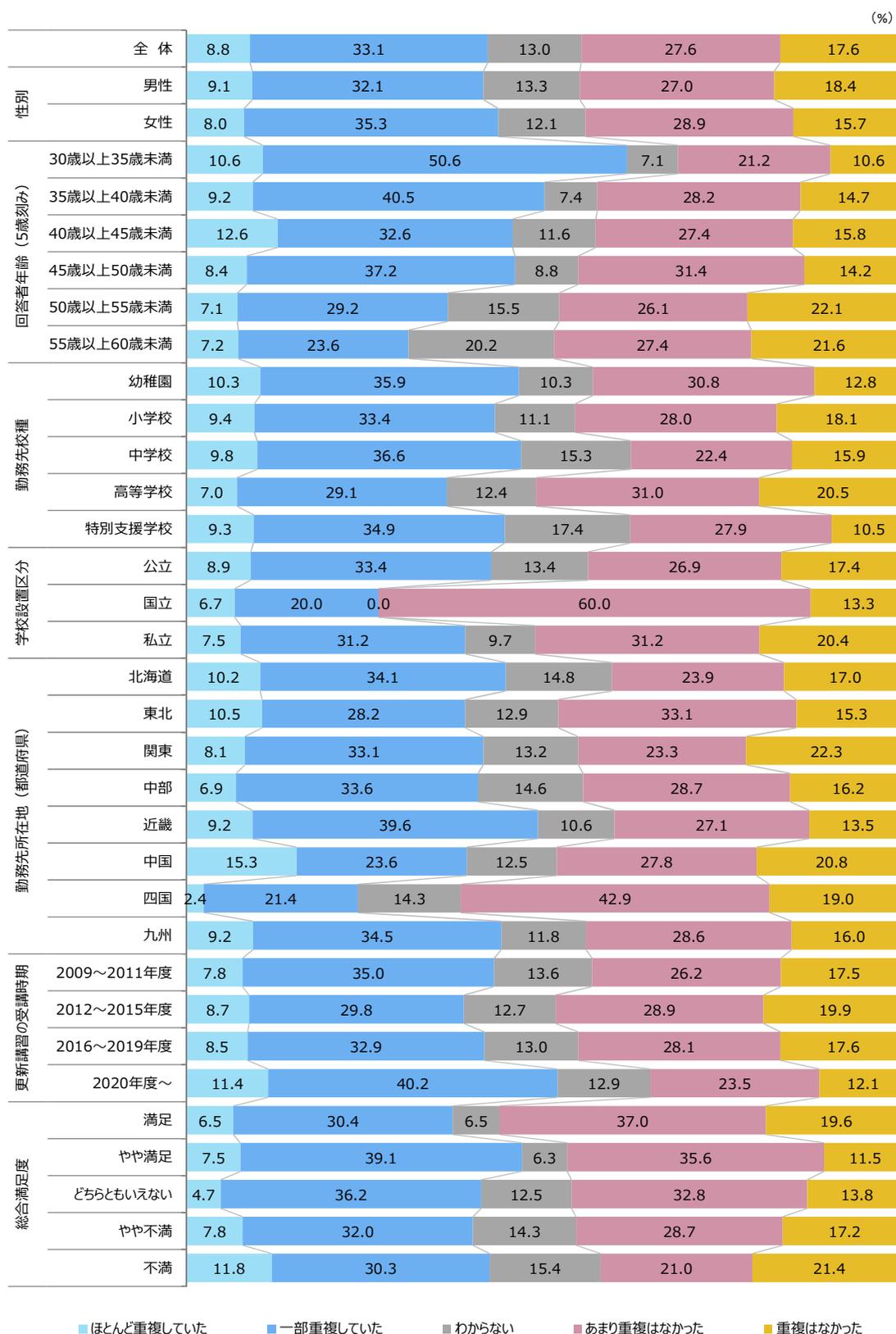
※免許状更新講習として認定を受けた現職研修の講習科目

【研修内容の重複】



■ほとんど重複していた ■一部重複していた ■わからない  
■あまり重複はなかった ■重複はなかった

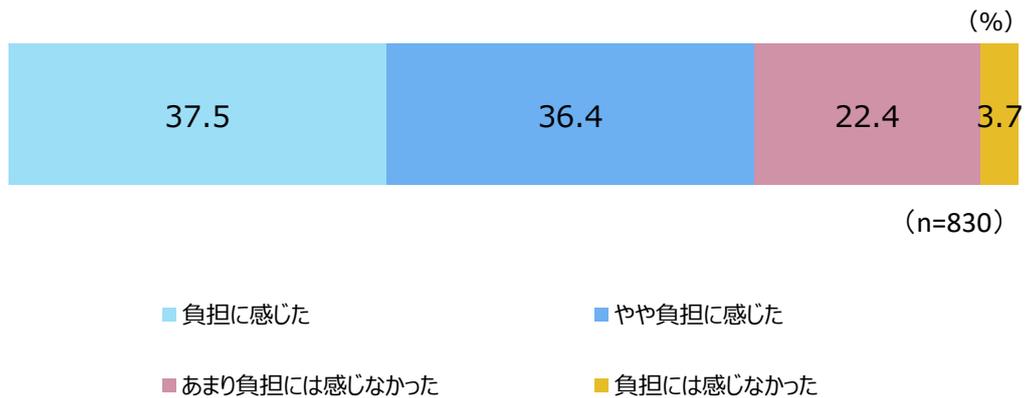
- ✓ 属性別では、「30歳以上35歳未満」の層で「ほとんど重複していた」と「一部重複していた」の合計が他の年代よりも高くなっており、年代が上がるにつれて重複感は低下している。
- ✓ 地域別では、「ほとんど重複していた」とする回答が「中国」で最も高く(15.3%)、「四国」で最も低い(2.4%)。更新講習と現職研修の内容調整については地域差がある可能性がある。



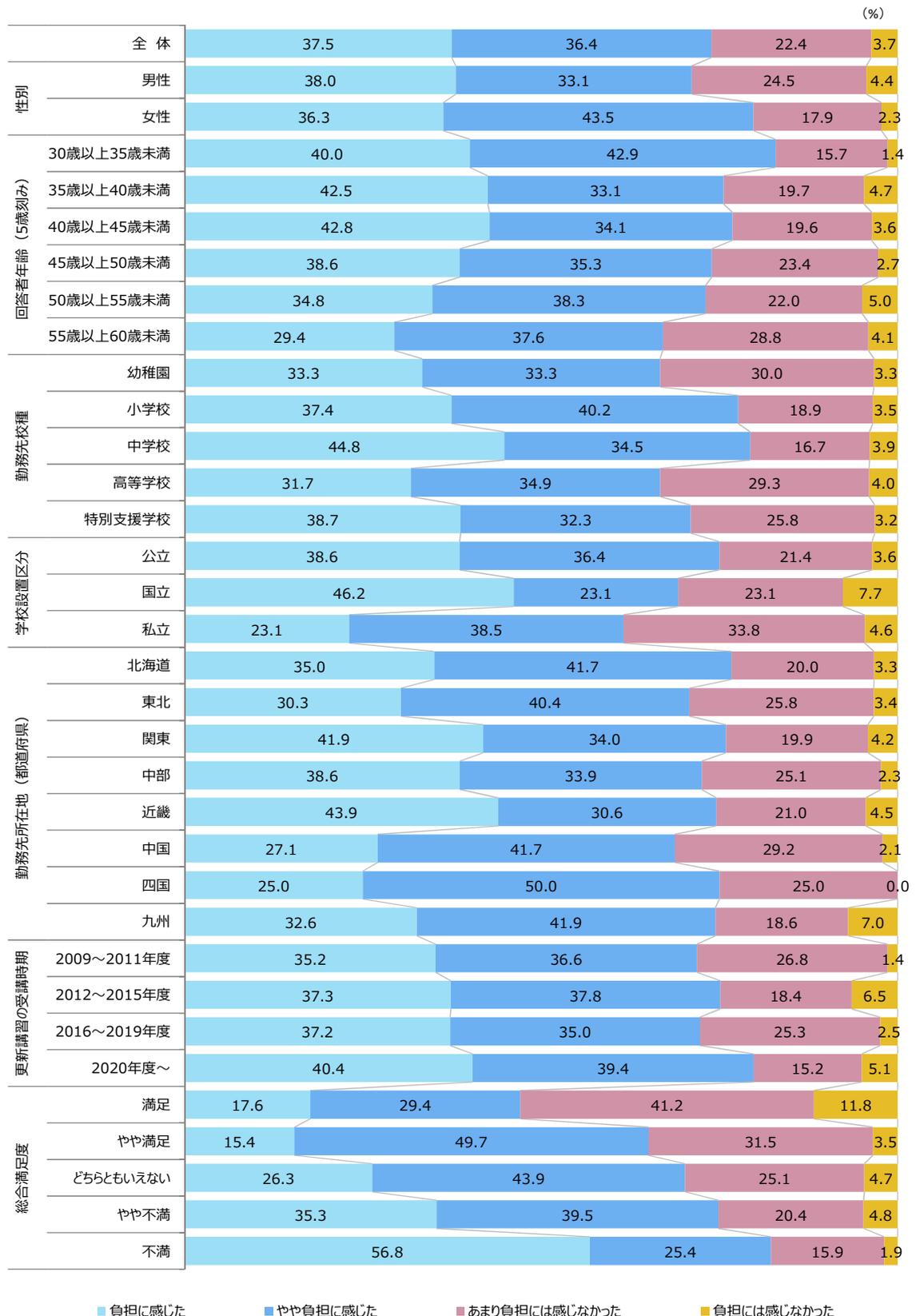
③ 講習と研修の内容重複による負担感

- ✓ 前問で「ほとんど重複していた」、「一部重複していた」、「あまり重複はなかった」と回答した人に、内容重複による負担感を尋ねたところ、全体では、「負担に感じた」(37.5%)と「やや負担に感じた」(36.4%)が高く、講習と研修の内容面の重複が負担感につながっている可能性が指摘できる。

【受講内容重複による負担感】



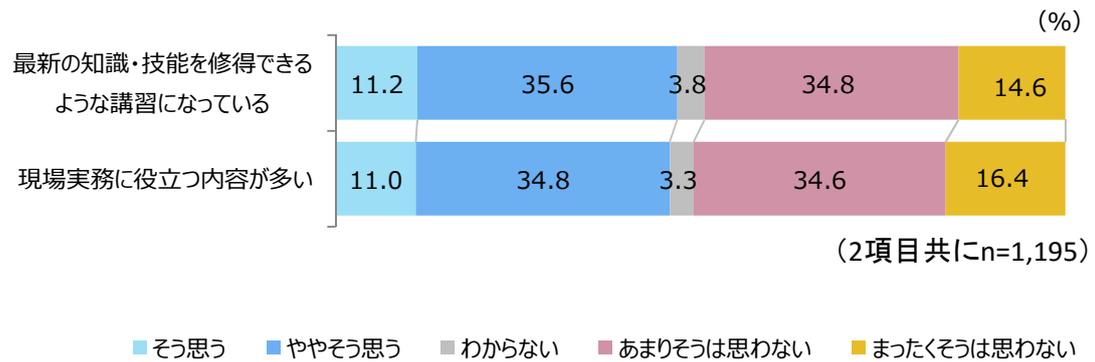
- ✓ 属性別では、若い世代のほうが比較的重複による負担を感じている傾向にあるほか、更新講習の総合満足度の高低と研修との重複による負担感の相互関連性が読み取れる。  
(総合満足度が低い回答者ほど、研修との重複による負担を感じている)



④ 現職研修の内容について

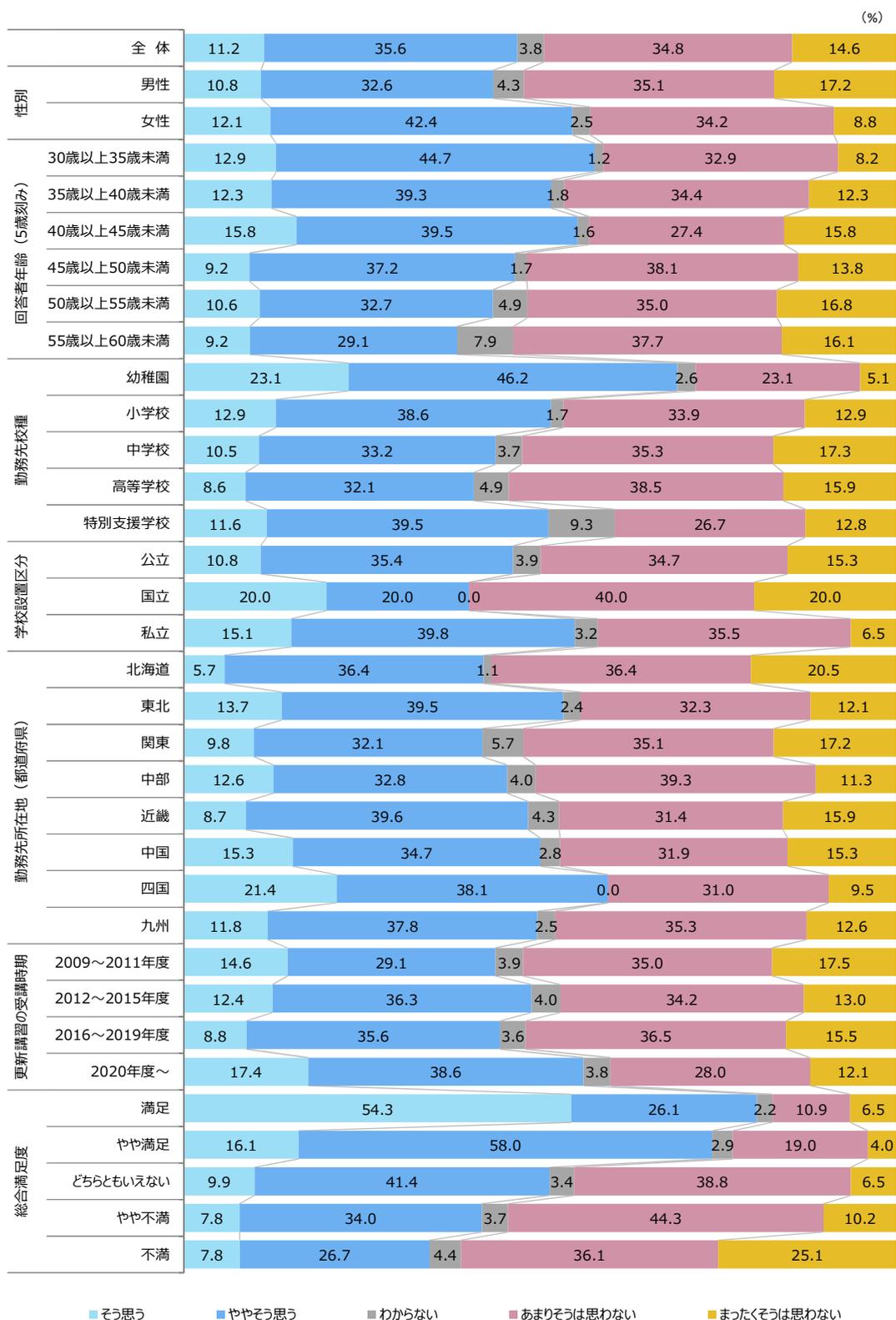
- ✓ 現職研修について、最新の知識・技能を修得できるような講習になっているかどうかについては、「そう思う」「ややそう思う」と「あまりそうは思わない」「まったくそうは思わない」がそれぞれ半数程度を占めている。
- ✓ 現場実務に役立つ内容が多いかどうかについても回答分布は上記と同様となっている。

【現職研修(中堅研(10年次研修)やキャリアアップ研修等)の内容】



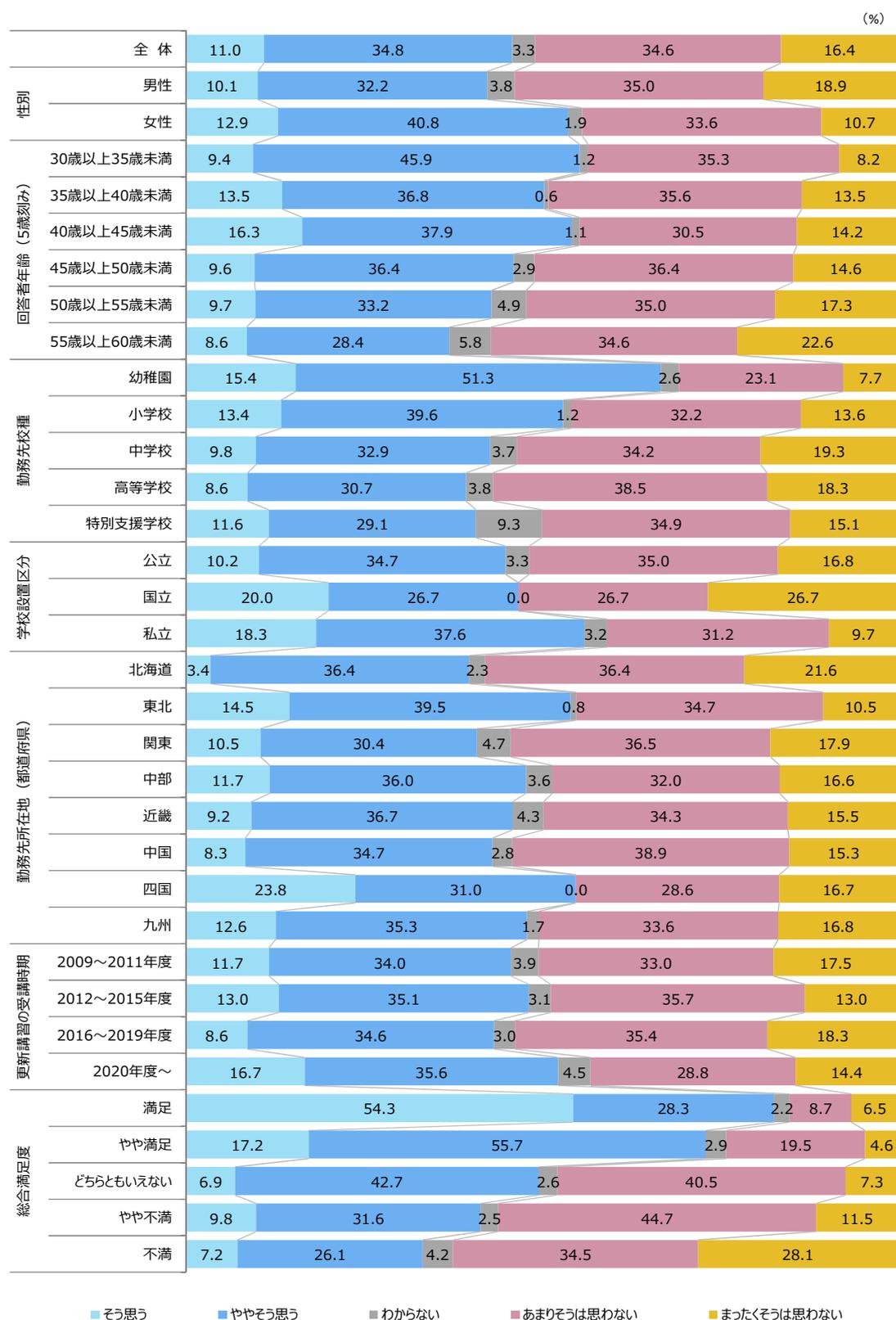
■現職研修の内容(最新の知識・技能を修得できるような講習になっている)

- ✓ 現職研修が最新の知識・技能を修得できるような講習になっているかどうかについて、属性別では「40歳以上45歳未満」でやや評価が高いほか、幼稚園教諭で「そう思う」の割合が23.1%と、他の校種と比較して高くなっている。
- ✓ 更新講習で満足度が高い層で、研修への評価も高く、相互の関連が見受けられる。



■現職研修の内容(現場実務に役立つ内容が多い)

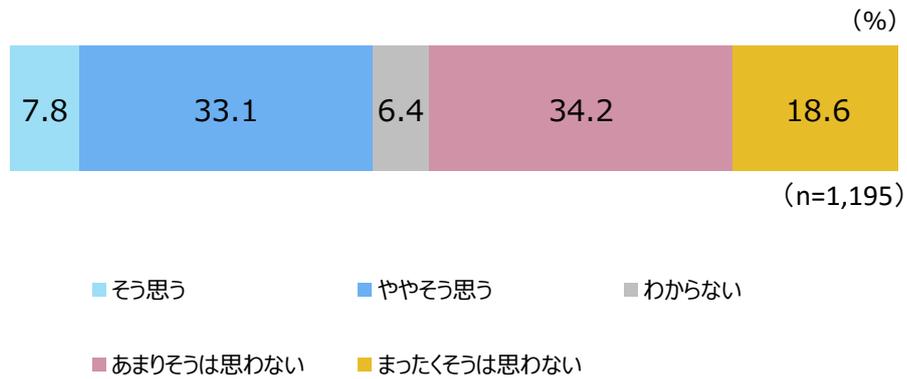
- ✓ 現場実務に役立つ内容が多いかどうかについて、属性別では前問と同様に「40歳以上45歳未満」と幼稚園教諭で評価が高いほか、私立学校に勤務する教員も「そう思う」と「ややそう思う」の合計割合が、他の設置区分と比較して高くなっている。



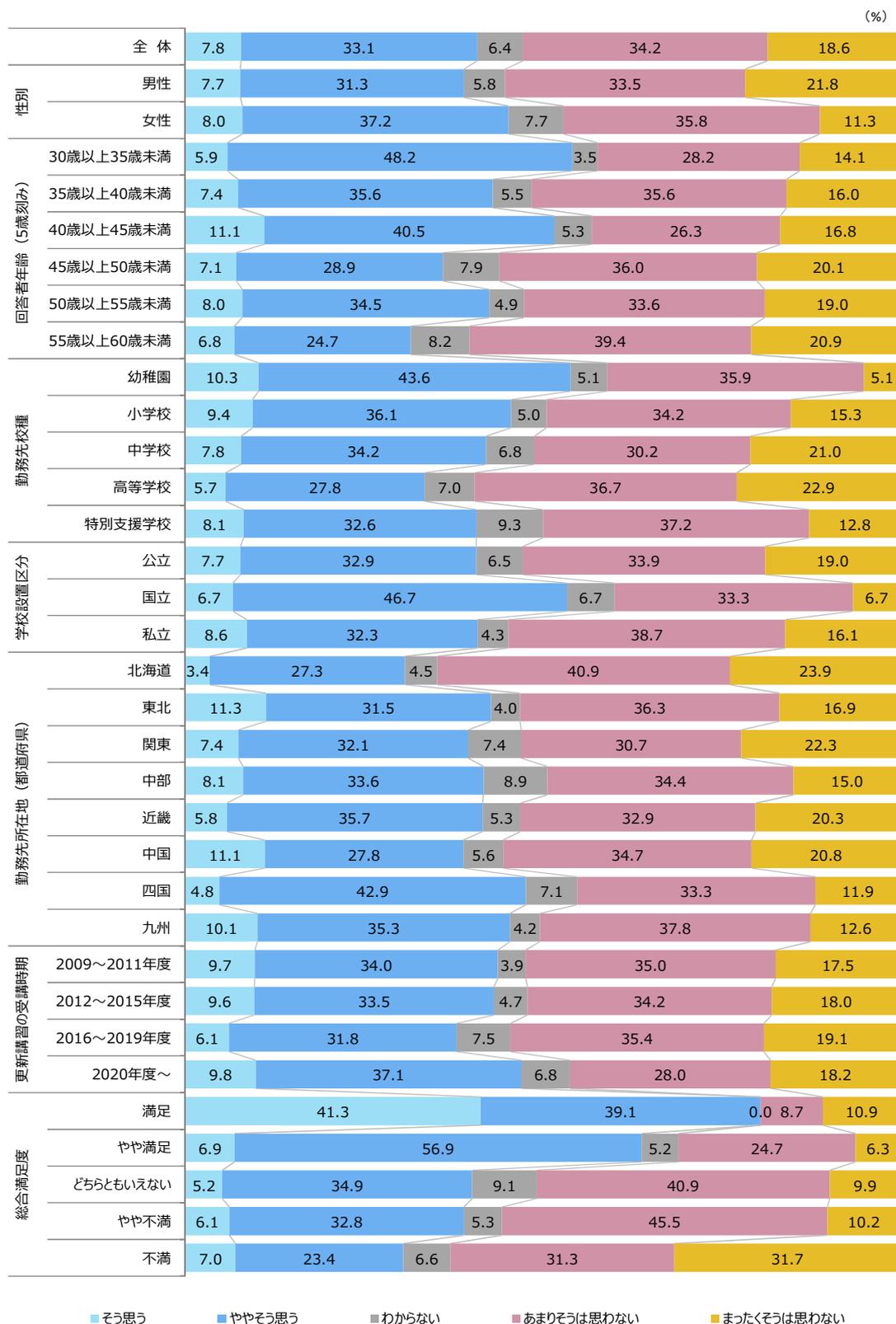
⑤ 研修が体系的、計画的に受講出来る仕組みとなっているか

- ✓ 教育委員会等(私立の場合は学校法人等)が主催する研修(キャリアアップ研修等)は体系的、計画的に受講出来る仕組みとなっているか尋ねたところ、全体の4割超が「そう思う」「ややそう思う」と回答している一方で、「まったくそうは思わない」も18.6%存在している。

【研修が体系的、計画的に受講できる仕組みとなっているか】



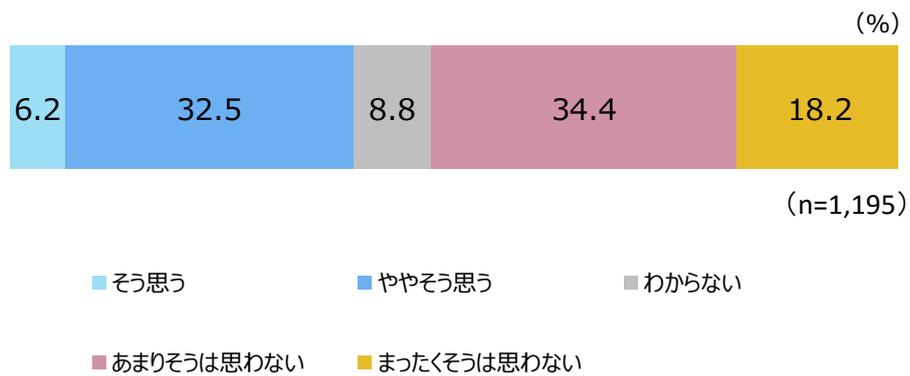
- ✓ 属性別で特段の差異は見られないものの、北海道で「そう思う」の割合が低いなど、地域差が見受けられる。
- ✓ 更新講習の総合満足度別では、満足度が高い層（「満足」と回答）は研修が体系的、計画的に受講できる仕組みとなっていると考えている割合が高い。



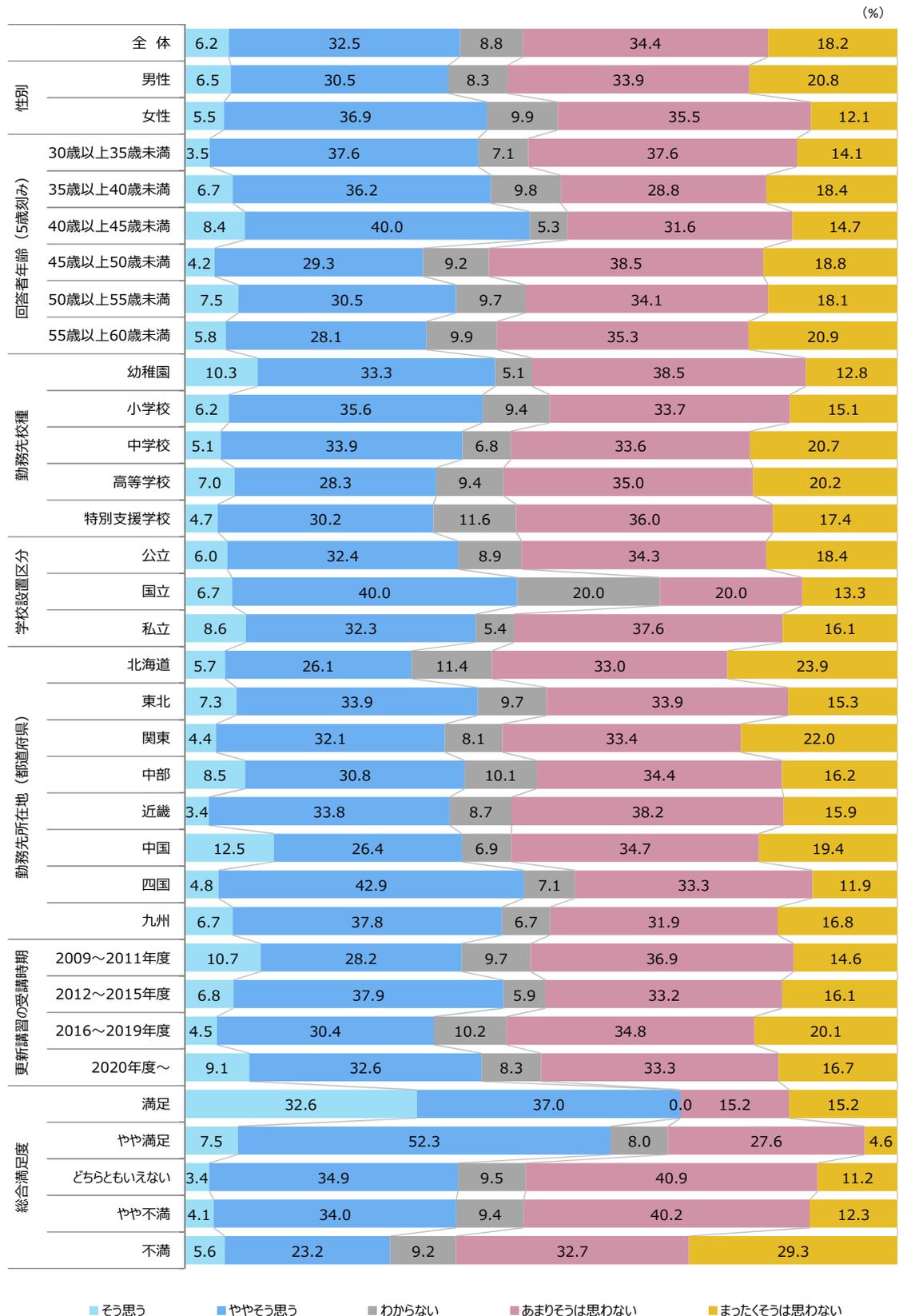
⑥ 研修の改善状況について

- ✓ 教育委員会等が主催する研修の改善状況について、全体の 4 割弱が「そう思う」「ややそう思う」と回答している一方で、「まったくそうは思わない」も 18.2%存在している。
- ✓ 前問(計画的、体系的に受講できる仕組みになっているか)と同様の回答分布となっている。

【教育委員会等が主催する研修の改善状況について】



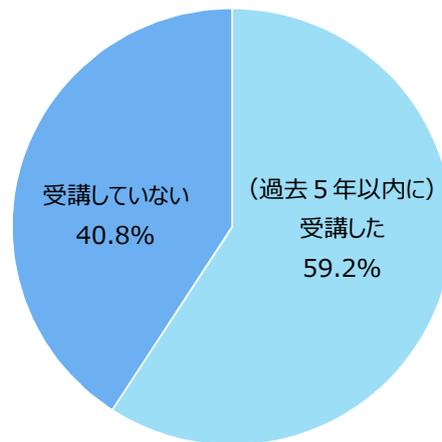
- ✓ 属性別では「40 歳以上 45 歳未満で」現職研修が改善してきていると考える割合が高い (8.4%)ものの、それ以外の項目については大きな差は見られない。



⑦ 自己研鑽のために受講した研修について(過去5年以内)

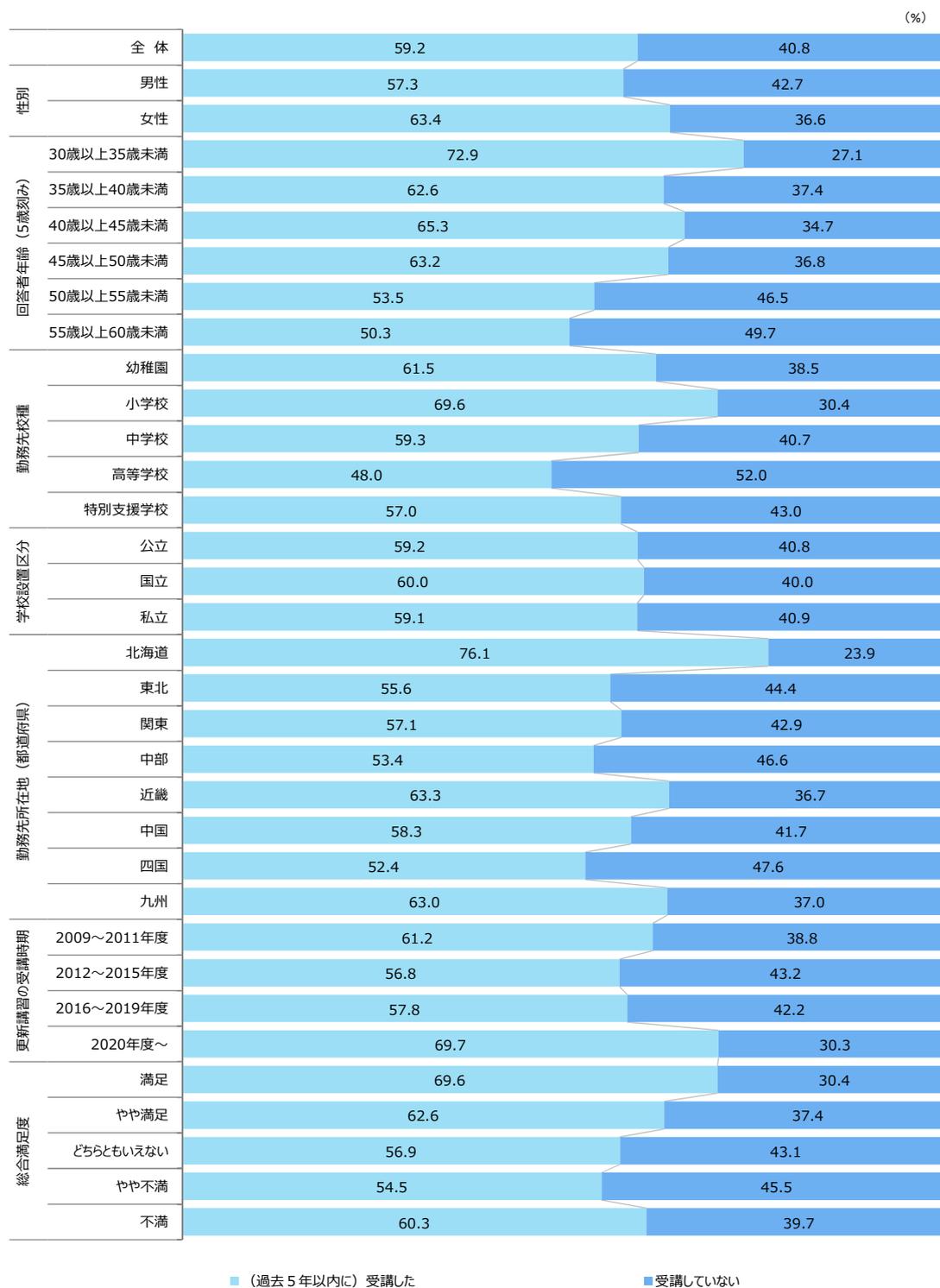
- ✓ 現職研修を受講した回答者 1,195 名のうち、自己研鑽のための研修を「(過去5年以内に)受講した」との回答が6割程度を占めている。

【自己研鑽のために受講した研修の有無】



(n=1,195)

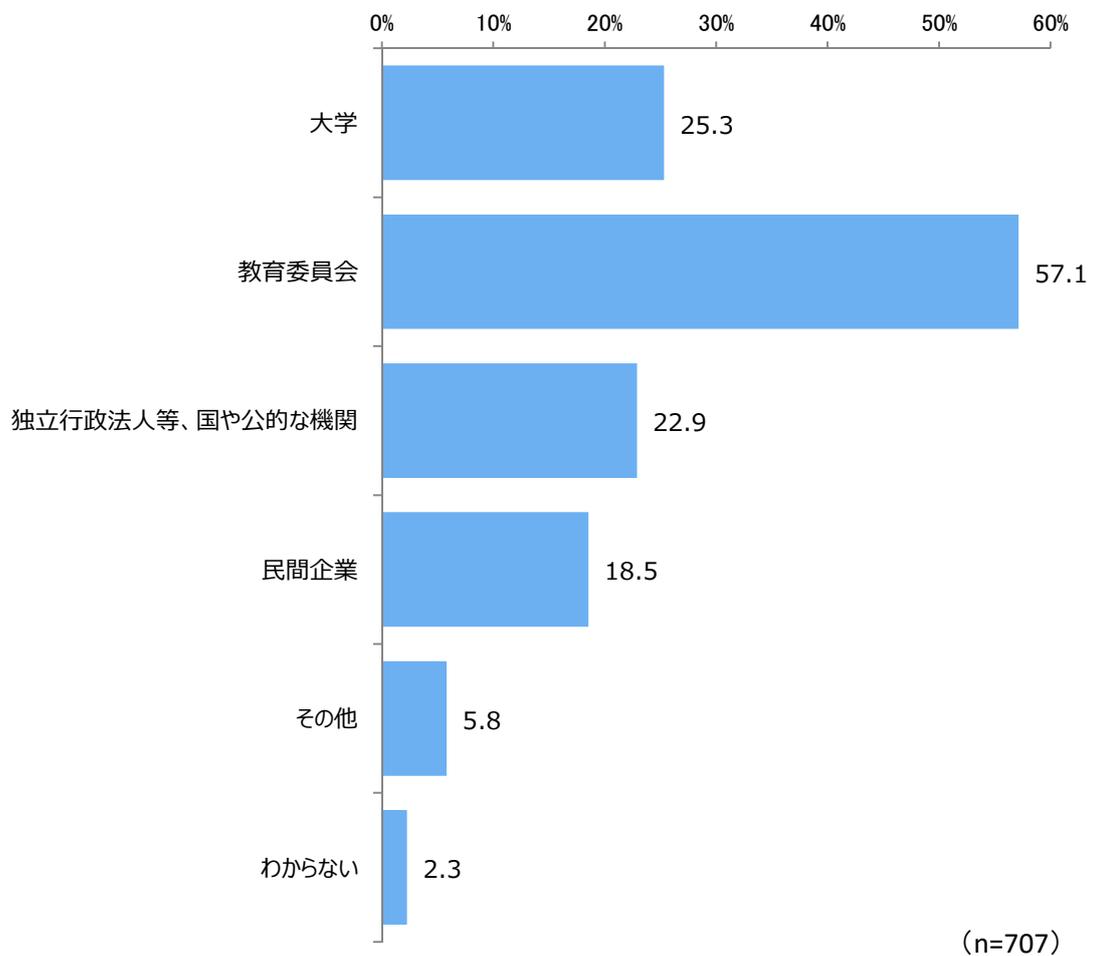
- ✓ 過去5年以内に自己研鑽のための研修を受講した割合について、年代別では「30歳以上35歳未満」で72.9%と高いほか、地域別では「北海道」で76.1%と高い。
- ✓ 更新講習の総合満足度別では、いずれの満足度の層においても自己研鑽のための研修受講割合は54.5%以上と過半となっている。



⑧ 自己研鑽のために受講した研修の主催者

- ✓ 自己研鑽のための研修を「受講した」と回答した方に対して、その研修の主催者を尋ねたところ「教育委員会」57.1%が圧倒的に高い。これに、「大学」(25.3%)、「独立行政法人等、国や公的な機関」(22.9%)と続く。
- ✓ その他の内訳としては、教員による自主的なサークル・研究会、教職員組合、民間の教育団体(専門学校など含む)、学会、競技団体などが見られた。

【自己研鑽のために受講した研修の主催者】



		(n)	大学	教育委員会	独立的な行政法人等、国や公	民間企業	その他	わからない
全体		707	25.3	57.1	22.9	18.5	5.8	2.3
性別	男性	477	26.4	55.1	23.3	19.1	5.5	2.5
	女性	230	23.0	61.3	22.2	17.4	6.5	1.7
回答者年齢（5歳刻み）	30歳以上35歳未満	62	27.4	58.1	21.0	12.9	4.8	3.2
	35歳以上40歳未満	102	22.5	62.7	21.6	24.5	2.9	3.9
	40歳以上45歳未満	124	23.4	53.2	24.2	19.4	4.8	1.6
	45歳以上50歳未満	151	29.1	53.6	22.5	16.6	10.6	2.0
	50歳以上55歳未満	121	23.1	59.5	25.6	19.0	3.3	0.8
	55歳以上60歳未満	147	25.9	57.8	21.8	17.7	6.1	2.7
勤務先校種	幼稚園	24	16.7	54.2	25.0	33.3	0.0	4.2
	小学校	281	24.6	62.6	23.8	15.3	5.3	1.4
	中学校	175	22.3	65.1	22.9	12.0	4.0	2.9
	高等学校	178	26.4	46.1	20.8	27.5	7.9	2.8
	特別支援学校	49	40.8	38.8	24.5	20.4	10.2	2.0
学校設置区分	公立	643	25.5	60.2	22.7	15.7	5.8	2.3
	国立	9	33.3	44.4	22.2	22.2	0.0	0.0
	私立	55	21.8	23.6	25.5	50.9	7.3	1.8
勤務先所在地（都道府県）	北海道	67	16.4	47.8	20.9	23.9	14.9	3.0
	東北	69	29.0	60.9	23.2	11.6	5.8	1.4
	関東	169	27.2	58.0	21.3	23.1	4.7	2.4
	中部	132	22.0	53.8	20.5	16.7	5.3	5.3
	近畿	131	28.2	61.8	23.7	19.1	6.1	1.5
	中国	42	14.3	57.1	35.7	11.9	0.0	0.0
	四国	22	22.7	59.1	22.7	9.1	4.5	0.0
	九州	75	33.3	57.3	24.0	18.7	4.0	0.0
更新講習の受講時	2009～2011年度	63	19.0	61.9	27.0	17.5	6.3	1.6
	2012～2015年度	183	20.2	57.4	24.0	21.9	5.5	1.1
	2016～2019年度	369	26.6	59.1	21.7	17.1	6.0	3.5
	2020年度～	92	34.8	45.7	22.8	18.5	5.4	0.0
総合満足度	満足	32	43.8	53.1	15.6	15.6	3.1	0.0
	やや満足	109	31.2	52.3	23.9	15.6	3.7	1.8
	どちらともいえない	132	28.0	56.8	22.0	16.7	3.8	3.0
	やや不満	133	24.1	63.9	26.3	14.3	3.0	2.3
	不満	301	20.6	56.5	22.3	22.6	9.0	2.3

⑨ 自己研鑽のために受講した研修の内容等

- ✓ 自己研鑽のために受講した研修の内容等について自由記述形式の任意回答で尋ね、複数回答形式で分類・集計した結果は以下のとおりである。
- ✓ 「特別支援教育」に関する講習受講が 16.0%と最も多く、次いで、「ICT 研修・情報管理」、「教科指導」と続いている。これらはいずれも、更新講習で「役に立っている内容」や「今後受講してみたいテーマ」を尋ねた設問においても上位に挙がっており、現職教員が興味・関心を抱いているテーマであるものと考えられる。
- ✓ その他の回答としては、「子供の貧困」や「薬物に関するもの」といった日常の教科指導の内容とは異なるものや、「マーケティングに関わるもの」、「ユニバーサルデザイン」など、教員向けには限らないテーマの研修も挙がっていた。
- ✓ なお、集計では「なし」「特になし」といった回答を無回答と同一視することとし、回答数の分母に含めていない。

順位	回答分類	回答数	回答割合
1	特別支援教育	101	16.0%
2	ICT 研修・情報管理	77	12.2%
3	教科指導	76	12.1%
4	生徒指導・生活指導・進路指導	36	5.7%
4	進路指導主事研修・学年主任研修等	36	5.7%
4	カウンセリング・心理学・保健衛生	36	5.7%
7	道徳教育・人権教育	33	5.2%
8	学校経営・学級経営	31	4.9%
9	専門科目（体育・芸術等）	26	4.1%
10	指導者研修・マネジメント研修	15	2.4%

(注) 回答割合を算出するための分母 (630) には、無回答及び「なし」「特になし」等の回答を含まない。

⑩ 現職研修に対する自由意見

- ✓ 現職全般に対する意見を自由記述形式の任意回答で尋ね、結果を複数回答形式で分類・集計したものの上位 10 項目は以下のとおりである。
- ✓ 最も回答が多かった「受講するため・活用するために業務の負担を軽減して欲しい」(191 件、26.1%)では、「研修は必要だと思うが、過度な負担にならないようにしてほしい」、「仕事量を減らしてくれれば研修も受けようと思うが、慢性的な多忙の中では、研修は迷惑」、「仕事量に対して研修が多すぎる。本当はもっと主体的に研修を受けたいが、そんな余裕はない」などのコメントが見られた。
- ✓ 続いて多かった「現場に有益な新しい情報を含む研修を受講したい」(150 件、20.6%)では、「もっと実質的に役立つ研修を期待する」、「ICT 研修や外国語研修など、変化に対応する研修を望みます」、「最新の研究や実践に基づく内容にしてほしい」などといった声が寄せられた。
- ✓ 「研修制度・内容の見直しが必要」(84 件、11.5%)では、「強制的であってはいけない」、「一律研修は、一定年度経験した教員は止めるべき。能力に応じた研修に変えるべき」、「免許更新は全国一律なのに、現職研修が都道府県独自なのはおかしい」などの記載があった。
- ✓ また、その他の内容としては「記名ありのアンケートをやめてほしい。受講者が率直な意見を書きにくく意味がない」という運用上の問題点への指摘や、「市教委主催のオンライン研修を受けても、主催者が同じ部屋で講義を 3 つしていたりと、環境が整っていないことが気になる」といった主催者側の講習実施環境の整備の必要性を指摘する意見もみられた。
- ✓ なお、集計では「なし」「特になし」といった回答を無回答と同一視することとし、回答数の分母に含めていない。

順位	回答分類	回答数	回答割合
1	受講するため・活用するために業務の負担を軽減して欲しい	191	26.1%
2	現場で有益な新しい情報を含む研修を受講したい	159	21.8%
3	研修制度・内容の見直しが必要	84	11.5%
4	現職研修も不要	56	7.7%
5	研修は必要・今後も参加したい	50	6.8%
6	選択肢を広げ、希望制・個別研修にすべき	47	6.4%
7	(現職研修で十分であり) 更新講習は必要ない	32	4.4%
8	費用の負担(受講料・宿泊費・交通費など)をなくして欲しい	27	3.7%
9	役に立っている・満足している	21	2.9%
10	休日を使つての受講をやめるなど働き方改革を推進して欲しい	20	2.7%

(注) 回答割合を算出するための分母(731)には、無回答及び「なし」「特になし」等の回答を含まない。

### 3. 本調査研究のまとめ

---

#### (1) 更新講習の内容の満足度に比して、費用負担等を含めた総合満足度は総じて低い

---

受講した更新講習の受講直後の内容面に限った満足度は、「満足」と「やや満足」の合計が過半を占めており、「不満」および「やや不満」はそれぞれ 8.1%、8.0%と低く、半数以上が内容的に満足しているといえる。しかしながら、時間負担や費用負担等を踏まえた総合満足度については、「満足」と「やや満足」の合計が 19.1%にとどまる一方で、「不満」が 39.0%、「やや不満」も 19.5%と、ネガティブな回答の合計が 58.5%と過半を占めていた。

講習の負担感については、「講習時間」および「講習費用」で特に負担感が大きく、「講習時間」では全体の 48.6%が、「受講費用」では 62.6%が「かなり負担に感じた」と回答している。また、「講習時間」、「受講費用」、「業務との兼ね合い」の各負担感が大きい回答者ほど総合満足度が低くなっていることから、特にこれら 3 つが総合満足度を低下させている要因であると考えられる。

受講方法別の分析結果では、「受講時間」や「受講費用」、「業務との兼ね合い」、「職場の教員への配慮」では、すべて対面、対面とオンラインの併用、すべてオンラインと比較しても負担感に大きな差が見られない一方で、「移動、宿泊にかかる時間」と「受講予約」では、すべてオンラインで受講した回答者で比較的負担感が少ない傾向にある。ただし、総合満足度ではすべてオンラインで受講した層の総合満足度は低い（「不満」の割合が 43.9%と他の方法と比較して最も高い）。オンラインでの講習受講は、移動時間等が生じないために負担軽減に寄与していると考えられる一方で、費用負担に見合う質の高い内容を受講できていない可能性が考えられる。実際、自由意見では、「全てオンラインの場合、動画だけ流して見ずに講習を終える人がほとんど、正直意味がない」や「役に立たない講義、オンラインでもなく、オンデマンド（しかも数年前の物）なのに高額な学費」など、オンラインでの講習内容に不満を感じている回答が複数みられた。

#### (2) 多忙な教員にとっては、自身の教育現場で役立つ講習内容であることが重要

---

受講した講習がそもそもの制度趣旨である「最新の知識・技能を修得できる内容であったかどうか」については、「そう思う」+「ややそう思う」が過半を占めている（ただし「あまりそう思わない」+「思わない」も 44.8%と高い）。一方で、「受講した講習が現在の教育現場で役に立っているかどうか」については、「役立っている」+「やや役立っている」が 33.4%となっており、最新の知識・技能を修得できる内容を取り扱うという講習の趣旨は理解しているものの、現場教育に直結していないと感じていることがうかがえる。

更新講習で役に立った内容についての設問では、「教科指導」が圧倒的に多く（選択率 45.7%、その他約 30 テーマはいずれも 20%未満）、役に立たなかった理由についての自由意見をみても、「現実との乖離があり、実践的な内容でないため」といった趣旨の回答が 390 件（回答者の 51.1%）と高いことから、時間や費用を負担して受講する講習については、自身の置かれた教育現場ですぐに役立つ内容が求められているものと考えられる。

#### (3) 更新制度そのものの廃止、もしくは対象者を限定するなどの措置を望む声が多数

---

本調査では、制度自体の廃止の是非についての直接の設問は設けていないものの、教員免許

更新制全般への自由意見において「制度自体を廃止すべき・免許更新制度に意義を感じない」という意見が 50.4%と半数以上を占めた。現場の教員不足や、教員の労働時間増加につながっているとの指摘もあり、講習の内容や予約方法等のオペレーションの面での改善ももちろん重要であるが、そもそもの更新制度自体を見直す必要性についても検討を行う必要がある。

見直しの方向性としては、段階別に「講習費用負担の見直し」、「講習の免除要件の緩和」、「受講対象者の限定」、「制度の撤廃」が挙げられる。「講習費用負担の見直し」では、基本的に個人負担となっている更新費用(3万円前後)について、絶対額を引き下げる、もしくは勤務先学校や学校が所在する自治体等で一部を負担する等の措置が考えられる。また、「講習の免除要件の緩和」では、更新が免除となる管理職の要件を緩和し、一定程度の職務を担う教員や、学校長の評価に応じて柔軟に免除を適用できることとするなどが考えられる。「受講対象者の限定」では、逆に更新が必要となる者を、「休職からの復帰者」や、「転職者」、「一定の評価以下の教員」などに限定することも検討の余地がある。

もちろん、教員免許更新制のステイクホルダーは政府、自治体、大学・専門学校、教員など多岐にわたるため、制度の見直しには複数の観点からの比較検討が必要となるが、実際に現場で教壇に立つ教員 2,000 名超からの貴重な意見を汲んだ制度整備が行われることが重要であろう。

#### (4) 現職研修についても、内容あるいは制度そのものの見直しが望まれる

---

現職研修については、「最新の知識・技能を修得できるような講習になっているかどうか」、および「現場実務に役立つ内容が多いかどうか」のそれぞれの観点で、「そう思う」「ややそう思う」というポジティブな反応と、「あまりそうは思わない」「まったくそうは思わない」というネガティブな反応がそれぞれ半々に割れている。自由記述設問では「研修は必要」、「役に立っている」などの研修を肯定するコメントは少数にとどまっており、ネガティブなコメントが大半を占めていた。最も回答が多かったのは「受講するため・活用するために業務の負担を軽減して欲しい」であり、回答者の約四分の一が挙げているなど、校務で多忙な教員にとって研修受講が相当な負担になっていることがうかがえる。研修自体は受けたいものの、その余裕がないといった内容のコメントも複数みられた。また、「現場に有益な新しい情報を含む研修を受講したい」という内容面の改善を求める声も多く見られた。

これらより、より実りある研修内容の精査と、校務負担の軽減の両立を図るよう、研修制度そのものの見直しも必要になると考えられる。教委主催の研修を縮小し、校内あるいは地域内の学校同士での学び合いの場を拡大したり、教員の希望と選択に基づいた研修を中心とすることでより深い学びの実現を図ったりすることなどが挙げられよう。

調査結果を概観すると、教員の負担が依然大きいことが読み取れる。業務多忙な日々のなかで、更新講習の受講の必要があることは、現場の教員に心理的・体力的・金銭的な負担を強いているといえる。今後は開催者によるオペレーションの工夫により、受講者の負担を減らしつつ満足度の高い研修を実施することが求められるとともに、更新講習・現職研修それぞれの制度そのものの見直しについても並行して図られる必要がある。本調査結果が教員免許更新制の高度化による教員の資質向上と負担軽減の両立、ひいては教員不足等の教育業界の根本的な課題への対処のための一助となることを祈念して、本報告書を締めくくりたい。



文部科学省委託 令和3年度 免許更新制高度化のための調査研究事業  
事業報告書

2021年6月30日

【本資料に関するお問合せ先】

みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社（旧みずほ総合研究所株式会社）

〒101-8443 東京都千代田区神田錦町 2-3 竹橋スクエア

コンサルティング本部 コンサルティング第2部 田端 慎吾（Shingo TABATA）

Tel : 03-3591-8792 E-mail : shingo.tabata@mizuho-ir.co.jp